

一般社団法人

# 日本特殊教育学会

第55回大会プログラム

2017年9月16日(土)～9月18日(月)

名古屋国際会議場

The 55th Conference of  
The Japanese Association of Special Education  
AICHI, Japan

愛知教育大学

Aichi University of Education



# 日本特殊教育学会

## 第55回大会プログラム

### 目次

第55回大会 開催のご挨拶 .....	(5)
会場アクセス .....	(6)
フロアマップ .....	(7)
大会参加者へのご案内 .....	(9)
学術講演・教育講演関係者へのご案内 .....	(14)
学会企画シンポジウム・準備委員会企画シンポジウム関係者へのご案内 .....	(14)
自主シンポジウム関係者へのご案内 .....	(14)
口頭発表およびポスター発表における研究発表関係者へのご案内 .....	(15)
発表に際してのお願い（アクセシビリティ関連） .....	(17)
会場別大会日程 .....	(19)
学会企画 .....	(23)
準備委員会企画 .....	(35)
自主シンポジウム .....	(41)
口頭発表 .....	(79)
ポスター発表 .....	(85)
索引 .....	(127)



## ご挨拶

### 日本特殊教育学会第55回大会開催のご挨拶 特別支援教育：これまでとこれからの10年

日本特殊教育学会第55回大会準備委員会  
委員長 小田 侯朗（愛知教育大学）

日本特殊教育学会第55回大会（愛知大会）は、私たち愛知教育大学特別支援教育の教員が中心となり、名古屋市にある名古屋国際会議場にて開催します。本学の歴史は明治6年設立の愛知県養成学校以来140年あまり、愛知教育大学となってから50年の歴史ですが、日本特殊教育学会の準備委員会をお引き受けするのは初めてのことです。名古屋は新幹線の要所であり、二つの空港からのアクセスも良い中部地区最大の都市です。また愛知県は戦国時代の英傑を多数輩出した土地柄でもあり、現在は『ものづくり』の拠点として日本の産業を支えています。このように活力のある開催地ですので、皆様の研究発表やシンポジウムも必ず、活気のある実り多いものになると確信しております。

本大会のメインテーマは、「特別支援教育：これまでとこれからの10年」といたしました。共生社会を目指し、インクルーシブな教育体制の構築に向けて『特別支援教育』が動き出して10年が過ぎました。この節目である10年を機会に、これまでの成果や課題を振り返り、そしてこれからの10年の展望を切り開こうというのがテーマの趣旨です。私たち準備委員会主催の企画においても、このような「振り返りと展望」を大切にしたシンポジウム等を用意いたします。

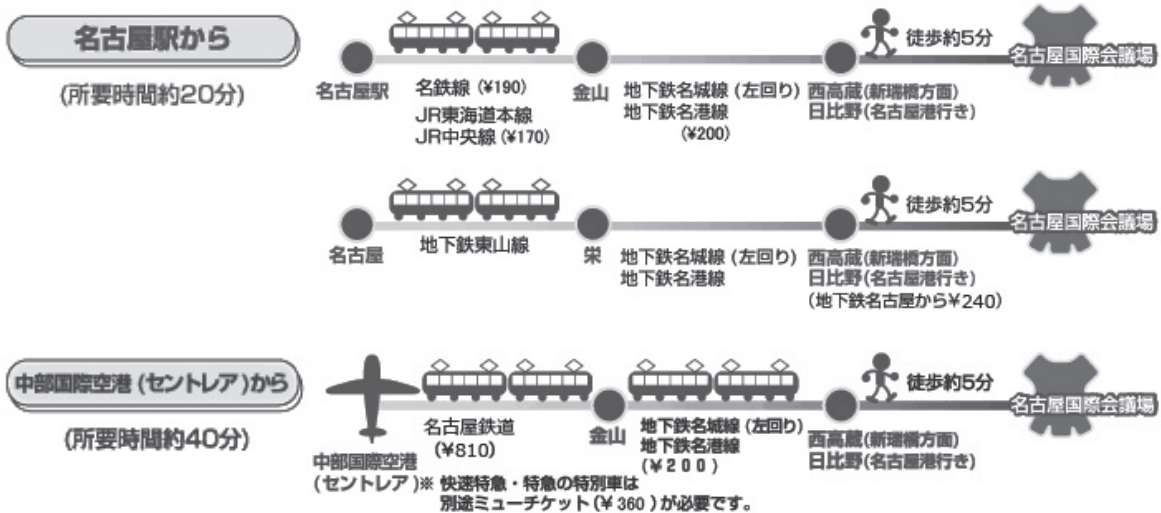
大会記念講演は杉山登志郎先生（浜松医科大学）と滝川一廣先生（学習院大学）のお二人に「発達障害者のそだち－教育・医療・社会」と題してご講演及び座談会をお願いいたしました。長年この領域のリーダーとしてご活躍されてきたお二人の先生からのお話は、これまでの障害児教育や医療、そしてそれを取り巻く社会のあり方を振り返り、今後私たちが構築すべき教育・医療・社会の姿を展望する上で貴重な機会となると思っております。

本大会の参加者も、近年では2000名を超えることが常態となり、ポスター発表や自主シンポの件数も右肩上がりに増えております。そして参加者のアクセシビリティを円滑にするための体制作りも一層重要になってきています。本大会では交通の便が良く規模の大きな会場を選択するとともに、すべての参加者のアクセシビリティがさらに向上するよう検討することにより、配慮の行き届いた大会運営を目指しております。本大会が皆様にとって意義深いものになることを、準備委員会一同心より願っております。

最後に、本大会の開催にあたり、後援・協賛をいただきました各関係機関・団体の皆様方に厚くお礼申し上げます。

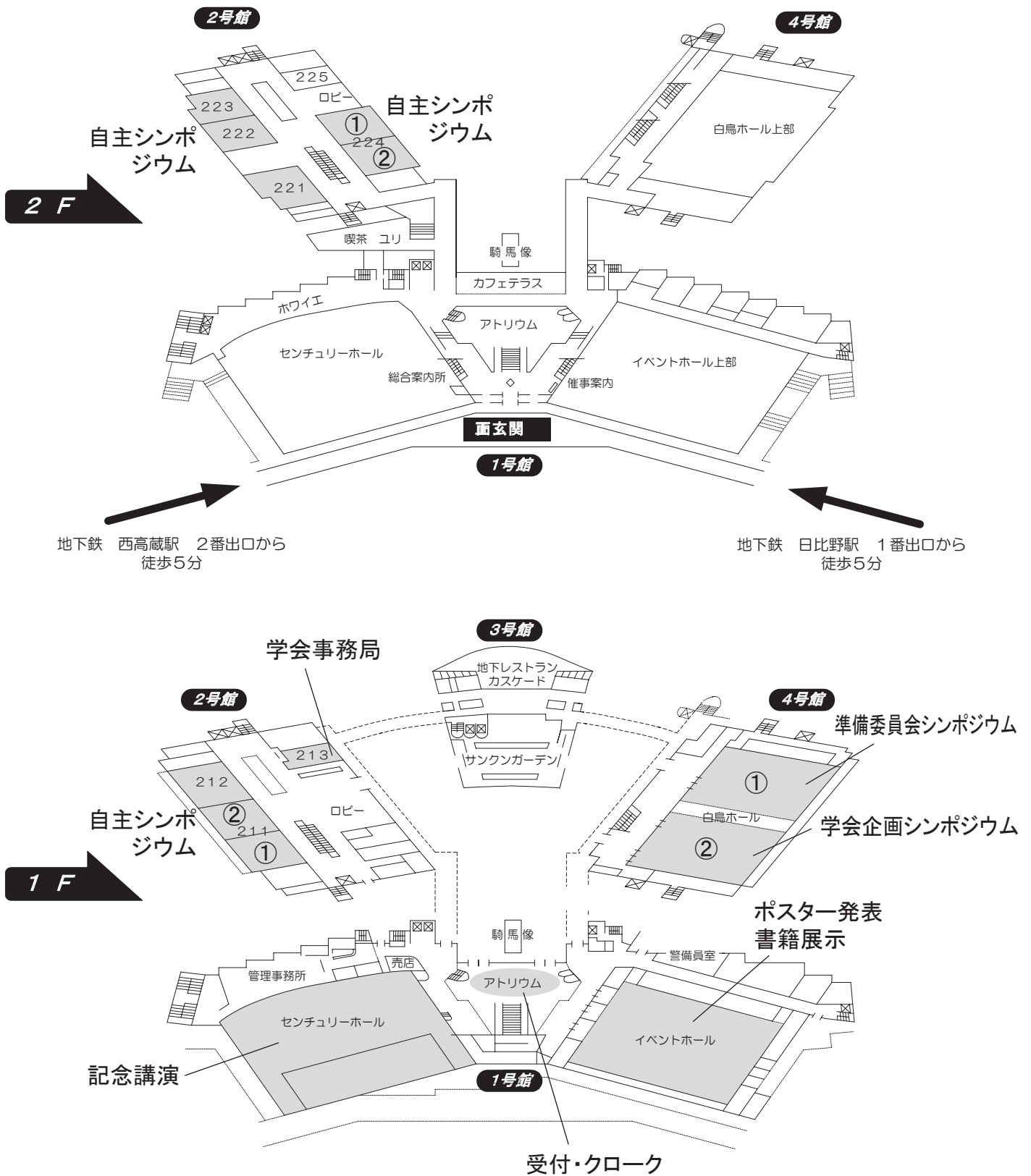
# 会場アクセス

## 名古屋国際会議場までの交通アクセス



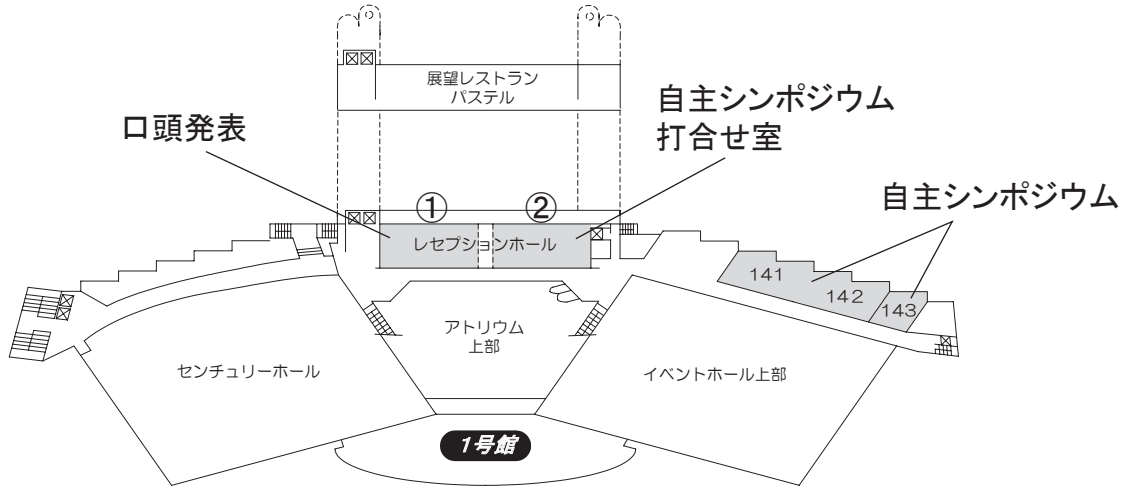
(注) 駐車場には限りがございます。あらかじめご了承ください。

# フロアマップ

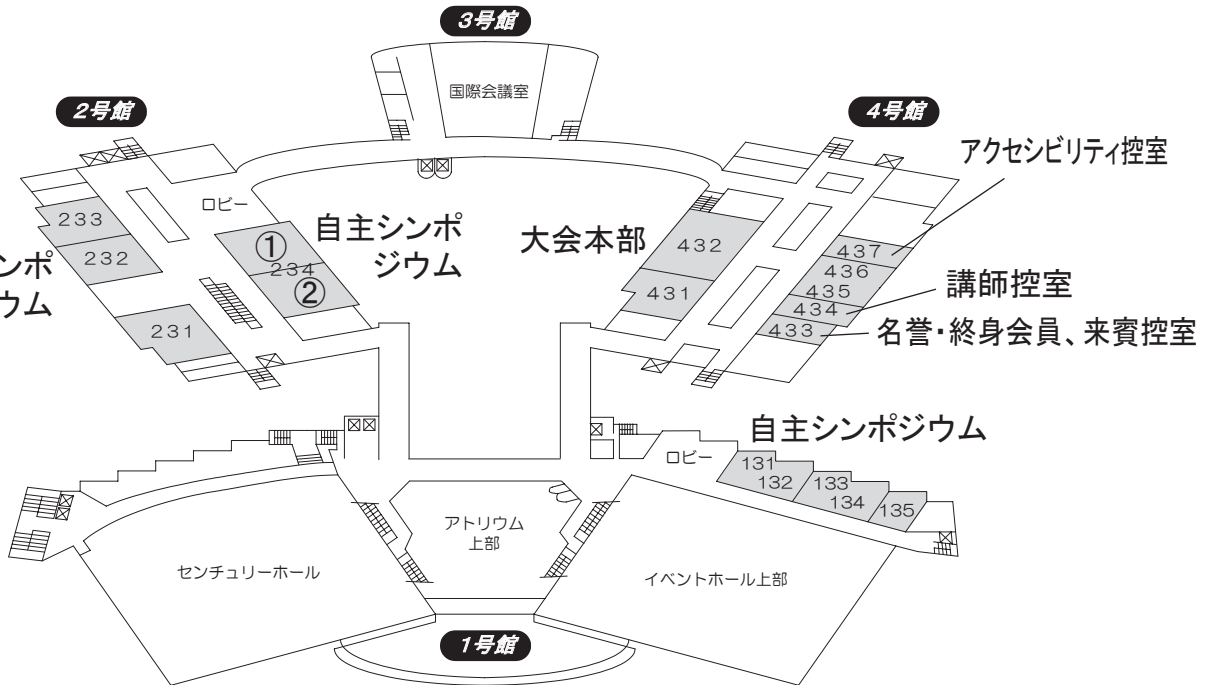


7 F

4 F



3 F



# 大会参加者へのご案内

## 1. 参加受付

### 1) 時間および受付場所

9月16日(土) 11:30～16:30

9月17日(日) 8:30～16:00

9月18日(月) 8:30～12:30

名古屋国際会議場・1号館・1階「アトリウム」にて受付を行ってください。

### 2) 大会参加の手続き

〈名誉・終身会員〉

名誉・終身会員受付にお越しくください。

〈事前参加申込みをされた方〉

事前参加受付にて、「ネームカード」「発表論文集(CD-R)」をお受け取りください。

〈当日参加申し込みをされる方〉

当日参加申込書に必要事項をご記入いただき、該当する受付(正会員・臨時会員(全日)・臨時会員(1日)・大学院生(1日)学部学生(1日))にて参加費をお納めの上、「ネームカード」「発表論文集(CD-R)」「プログラム冊子」(非会員のみ)をお受け取りください。

なお、院生の参加者は学部学生に含まれません。

\*ネームカードは、大会期間中必ずご着用ください。

## 2. 諸費用 (当日受付分)

大会参加費	正会員	10,000 円
	臨時会員(全日)	11,000 円
	臨時会員(1日)	4,000 円
	大学院生(全日)	6,000 円
	大学院生(1日)	2,000 円
	学部生・専攻科学生	1,000 円
発表論文集(CD-ROM)費(数に限り有り)		2,000 円

\*申込費用に、大会プログラムおよび発表論文集の費用が含まれております。

\*学部生・専攻科学生は、当日受付のみとなります。

\*学部生・専攻科学生・大学院生(現職教員も含む)で、学生証の提示があった者は、一般参加費より割安になります。ただし、受付の際に学生証の提示がない場合は割引の対象とならないので、ご注意ください。

\*発表論文集の割引はございません。

### 3. 学術行事等

- 1) 本大会での学術行事は、「学会企画 講演・シンポジウム・ワークショップ(7演題)」、「準備委員会企画 記念講演・シンポジウム(6演題)」、「ポスター発表(570演題)」、「口頭発表(52演題)」、「自主シンポジウム(126演題)」からなっております。
- 2) 講演関係者、シンポジウム関係者及び発表者は、それぞれ「特別講演・教育講演者へのご案内」、「学会企画シンポジウム・準備委員会企画シンポジウム関係者へのご案内」「自主シンポジウム関係者へのご案内」「研究発表者へのご案内」を必ずお読みください。

### 4. 会員のつどい、電子投稿システム説明会

- 1) 日時：9月17日(日)11:30～12:30
- 2) 場所：4号館・1階「白鳥ホール・第一室」  
2018年度から導入する電子投稿システムの説明会も合わせて行います。

### 5. 愛知県の特別支援学校のポスター発表および展示

- 1号館・1階「イベントホール」にて、愛知県の特別支援学校のポスター発表および展示を行います。学校の特色ある取組、心豊かな幼児児童生徒の学びや活動を紹介しますので、ご見学ください。
- 日時：9月16日(土)13:00～17:30  
9月17日(日) 9:30～17:00  
9月18日(月) 9:30～14:30

### 6. 書籍・機器の展示、販売

- 特別支援教育関係の書籍・機器の展示コーナーを1号館・1階「イベントホール」に設けております。
- 日時：9月16日(土)12:00～17:30  
9月17日(日) 9:00～17:00  
9月18日(月) 9:00～14:30

### 7. パンの販売

- 1号館・1階「イベントホール」にて、福祉事業所によるパンの販売を予定しておりますので、ご利用ください。

### 8. 学会事務局、大会本部

- 学会事務局：2号館・1階「会議室 213」  
大会本部：4号館・3階「会議室 433」

### 9. 名誉・終身会員・来賓等の控室

- 名誉・終身会員・来賓控え室：4号館・3階「会議室 433」

### 10. シンポジウム等各種打合せ

- 個室はございませんので、1号館・4階「レセプションホール第二室」、4号館・1階「白鳥ホール・第二室」、1号館・1階「イベントホール」の休憩スペースをご利用ください。  
「レセプションホール第二室」および「白鳥ホール・第二室」は、口頭発表・シンポジウム・会議などで使用する時間帯がございます。この時間帯はシンポジウム等の打合せに使用できませんので、ご理解願います。

1号館・1階「イベントホール」の休憩スペースで打合せを行う場合、他の休憩者がみえる他、ポスター発表、書籍販売、パンの販売、特別支援学校の展示などの取組があることをご理解いただいた上でご利用ください。

## 11. 休憩場所

休憩場所として、1号館・1階「イベントホール」の休憩スペース、会場内のベンチ等をご利用ください。イベントホール内での飲食も可能ですので、ご利用ください。

## 12. クローク

クロークは、1号館・1階「アトリウム」にあります。

お預かり時間は以下の通りです。

お荷物は、各日とも大会プログラム終了後30分以内に、必ずお引き取りください。

9月16日(土) 11:30～18:00

9月17日(日) 8:30～17:30

9月18日(月) 8:30～15:00

## 13. 託児室

事前申込者に限り、学会員の大会参加者の保護者を対象として、生後6ヵ月～小学校6年生までのお子さまについて託児室を設置します。

事前申込者は、大会受付にて手続きを行ってください。

## 14. アクセシビリティ・サービス

### 1) アクセシビリティ本部

アクセシビリティ本部は、4号館・3階「会議室437」です。

アクセシビリティ・サービス関連で御用のある方は、直接アクセシビリティ本部までお越しいただく、または総合受付にてご用件をお伝えください。

### 2) 論文集の電子データ提供、発表補助、移動介助その他の支援について

本大会では、障害のある方に対し、論文集の電子データ提供、発表補助(パワーポイントの操作、ポスター掲示等)、移動介助などのサポートをご用意いたします。

ウェブシステムで事前申込みをされた方には、大会プログラム公開後に大会準備委員会の担当者よりメールを送信します。大会プログラムをご確認の上、実際に希望される具体的な支援内容をご回答ください。回答の内容を確認後、個別にご連絡いたします。

事前申込みをされていない発表者または参加者で上記の支援をご希望の方は、急ぎ追加のサービス利用申込みを行ってください。(※担当者等、詳細につきましては、大会ホームページをご確認ください。)

なお、大会当日にアクセシビリティ本部へ支援を申し込まれた場合には、対応しかねることがありますことをご了承ください。

### 3) ボイスサインカードについて

ボイスサインカードとは、視覚に障害のある方が「視覚情報以外の方法でも説明してください」という意向を発信するためのマークです。名刺サイズのカードですので、ネームホルダーに差し込むことができます。これをお持ちいただくと、学会会場にて発表者・会場係・展示者から音声で内容を説明してもらえたり、積極的に声をかけてもらえたりします。このカードは、アクセシビリティ本部で配布いたします。

### 4) 聴覚に障害のある方への情報保障について

ウェブシステムで事前申込みをされた方には、大会プログラム公開後に情報保障コーディネーターよりメールを送信します。大会プログラムをご確認の上、実際に情報保障を希望されるセッ

セッション名等をお知らせください。回答の内容を確認後、個別にご連絡いたします。

事前申込みをされていない発表者または参加者で、情報保障をご希望の方は、急ぎ追加のサービス利用申込みを行ってください。(※担当者等、詳細につきましては、大会ホームページをご確認ください。)

なお、大会当日にアクセシビリティ本部へ情報保障を申し込まれた場合には、対応しかねることがありますことをご了承ください。

聴覚障害のある発表者や話題提供者は、アクセシビリティ本部にて、情報保障コーディネーターを窓口として通訳者と打合せをしていただきます。詳細な打合せ時刻については個別にご連絡いたします。

事前に情報保障を申し込まれた方で、当日やむを得ない事情によりそのセッションへの参加をキャンセルされる場合は、セッション開始1時間前までに情報保障コーディネーターまでご連絡ください。

## 15. 掲示・連絡

- 1) 大会本部から参加者への連絡は、「インフォメーションボード」にて行います。  
「インフォメーションボード」は、1号館・1階「アトリウム」の受付に設置します。  
発表等の変更や取り消しも、「インフォメーションボード」にてお知らせします。
- 2) 緊急の場合を除き、会場でのお呼び出しはできませんのでご了承ください。

## 16. 旅行・宿泊など

今大会ではJTBに斡旋を依頼しています。大会ウェブサイトから申込みいただけますのでご参照ください。なお、当日の会場にてトラベルデスクの設置は予定しておりません。

## 17. 急病・ケガ・体調不良など

会場内に簡易な救護室を設けていますので、休憩していただくことができます。なお、救急の場合には「119番」対応となります。

救護の必要が生じた際には、近くの大会係員までご連絡ください。

## 18. その他

- 1) ご不明な点がありましたら、大会係員にご遠慮なくお尋ねください。
- 2) 消防法の関係で、各会場内に規定以上の人数が入れないことがありますので、ご理解ください。
- 3) 駐車場について：有料駐車場が会場周辺にございます。数に限りがあるため、ご来場の際には、公共交通機関をご利用ください。
- 4) 名古屋国際会議場は昼食会場が大変少ない状況です。名古屋国際会議場の西側、地下鉄「日比野」駅周辺に、飲食店・コンビニエンスストアがございますので、ご利用ください。
- 5) 印刷・複写：大会本部では「印刷・複写」はお受けできません。配布資料、発表論文集などは必ず事前に印刷してご持参ください。
- 6) 会場内の一部では、無線LANの利用が可能です。詳細は、以下のページを見ていただくか、インフォメーションボードをご覧ください。
- 7) 記念講演は学校心理士更新資格ポイントAの対象となります。

名古屋国際会議場

<http://www.nagoya-congress-center.jp/download/img/musenlanareamap.pdf>

## 19. 連絡先

日本特殊教育学会第55回大会 受付係

〒650-0033 神戸市中央区江戸町85-1 ベイ・ウイング神戸ビル10階

株式会社プロアクティブ内(平日9:30-18:00)

TEL: 078-332-2505 FAX: 078-332-2506 e-mail: jase55@pac.ne.jp

\*土日は休業日につき、電話・ファックスはつながりません。大会期間中はメールも常時確認はできない状態となります。

\*大会期間中、会場内への直接のお電話等お問い合わせはお控えください。

### 発表論文集について

- ・大会当日、参加者には、電子化した発表論文集（CD-R）をお渡しします。
- ・事前に大会ホームページでも公開いたします。（8月中旬頃公開予定。学会員のみ閲覧可能です。）
- ・当日に冊子や印刷されたものは配布いたしません。事前にプリントアウトした原稿を持参する、CD-Rの内容が確認できるノートパソコン（PDFファイルの読み込みが可能なもの）を準備するなどの対応をお願いします。会場内でのプリントアウトはできませんので、ご了承ください。

## 学術講演・教育講演関係者へのご案内

1. 講演者は講演開始 30 分前までに受付にお越しください。係員が講演会場控室または講師控室までご案内いたします。
2. PC プロジェクター・ビデオ・DVD 等のご使用、および当日配布資料などに関しては、事前に各担当者から相談・確認をさせていただきます。

## 学会企画シンポジウム・準備委員会企画シンポジウム関係者へのご案内

1. 各シンポジウムの発表時間の配分は司会者にお任せしますが、制限時間を厳守くださるようお願いいたします。
2. 関係者は、セッション開始 30 分前までに各会場へお越しください。
3. 会場にパソコンを用意しております。発表にご自分のパソコンではなく、会場のパソコンを使用する方は、発表データを USB 接続フラッシュメモリに保存し、セッション開始 15 分前までに会場のパソコンにて動作確認を行い、ご提出ください。パソコンは Windows を用意いたします。なお、様々な条件により動作に支障をきたす場合がございますので、特に動画データなどを利用される方は、動作確認されたご自身のパソコンをご持参ください。
4. PC プロジェクター・ビデオ・DVD 等のご使用、および当日配布資料などに関しては、事前に各担当者から相談・確認をさせていただきます。
5. 司会者は、フロアの参加者に対し氏名・所属を明らかにしてから質問をするように促してください。

## 自主シンポジウム関係者へのご案内

1. 各シンポジウムの発表時間の配分は司会者にお任せしますが、制限時間を厳守下さるようお願いいたします。パソコンを使用する場合は動作確認を行ってください。
2. 関係者は、セッション開始 15 分前までに各会場にお越しください。
3. 会場は PC プロジェクターの使用が可能ですが、パソコンはご持参ください。機器の操作はご自身でお願いいたします。プロジェクター入力端子はミニ D-Sub15 ピンのみです。お手持ちのパソコンの出力端子がミニ D-Sub15 ピンでない場合は、変換アダプターが必要です。パソコンに応じた変換アダプター (HDMI - VGA、MiNi Display Port - VGA、DVI - VGA など) を必ずご持参ください。
4. 補足資料を配布される場合には、事前に必要な部数(原則として 100 部程度)をご用意ください。
5. 司会者は、フロアの参加者に対し氏名・所属を明らかにしてから質問をするように促してください。

ミニD-Sub15ピン



## 口頭発表およびポスター発表における研究発表関係者へのご案内

1. 研究発表者は、①発表論文集への論文掲載、②口頭発表あるいはポスター発表、③討論(質疑応答)への参加をもって正式発表とみなされます。
2. 発表者が欠席する場合には、発表取り消しとなります。筆頭発表者が欠席の場合は、連名発表者が代行できますが、その場合には必ず事前にご連絡ください。大会当日の場合は、受付までご連絡ください。

### [口頭発表]

#### 1. 発表時間

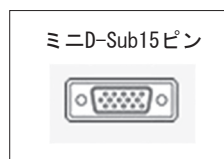
- 1) 発表時間は1発表につき15分で、口頭による発表の時間が12分、質疑応答の時間が3分です。
- 2) 進行係が以下のように時間経過をお知らせします。  
発表開始後 10分：1鈴 12分：2鈴(発表終了) 15分(質疑応答終了・交替)

#### 2. 発表用機器

会場にパソコンを用意しておりますので、そちらをご使用ください。発表データをUSB接続フラッシュメモリに保存し、発表セッション開始15分前までに会場にお越し下さい。

パソコンはWindowsPC(MicroSoft Office 搭載)を用意いたします。なお、様々な条件により動作に支障をきたす場合がございますので、特に動画データなどを利用される方は、動作確認されたご自身のパソコンをご持参ください。このとき、音声を流す必要のある方は

ポータブルスピーカーなどの準備をお願いします。諸事情により、ご自身のパソコンの使用をご希望の方は、プロジェクター入力端子ミニD-Sub15ピンが使用可能かご確認の上、お持ちください。お手持ちのパソコンの出力端子がミニD-Sub15ピンでない場合は、変換アダプターをご持参いただく必要がありますのでお気をつけください。発表時間が限られておりますので、円滑な機器接続操作にご協力をお願いいたします。



#### 3. その他

研究発表の資料は発表論文集をあてるのが原則ですが、補足資料の配布が必要な場合には、事前に発表者が必要部数を用意し、各会場前の資料配布台に置いてください。

#### \*口頭発表の座長の方へ

- 1) 座長の方は司会・進行をお願いいたします。特に制限時間を厳守するようにお願いいたします。
- 2) 座長は2名の方をお願いしておりますので、協議の上、分担内容を決めてください。1名が欠席しても補充はいたしません。
- 3) 司会者は、フロアの参加者に対し氏名・所属を明らかにしてから質問をするように促してください。

### [ポスター発表]

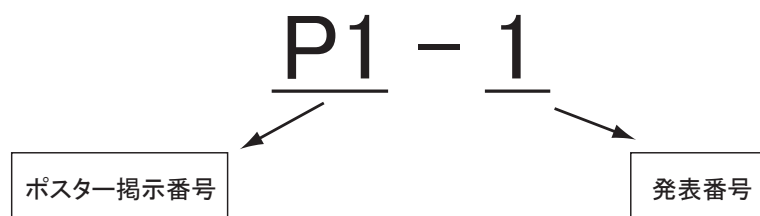
1. 本大会のポスター発表は、自由討論の形式で行います。
2. ポスター発表は、発表時間2時間のポスター掲示、在籍時間1時間の自由討論を満たした場合、正式発表とみなされます。
3. ポスター発表の掲示・在籍時間は以下の表の通りです。奇数、偶数の在籍時間の間に余裕がございませんので、時間になりましたら速やかに交代してください。
4. ポスターの撤去は、発表時間(2時間)終了後、10分以内に速やかに行ってください。時間を過ぎて掲示されている場合、運営側で撤去致しますのでご了承ください。

【イベントホール・ポスター発表会場】

	グループ	掲示開始	要在籍時間(奇数・偶数で異なります)	
9月16日(土)	P1	12:50	掲示時間 13:00～15:00	
			奇数 13:00～14:00	偶数 14:00～15:00
	P2	15:20	掲示時間 15:30～17:30	
			奇数 15:30～16:30	偶数 16:30～17:30
9月17日(日)	P3	9:20	掲示時間 9:30～11:30	
			奇数 9:30～10:30	偶数 10:30～11:30
	P4	12:20	掲示時間 12:30～14:30	
			奇数 12:30～13:30	偶数 13:30～14:30
	P5	14:50	掲示時間 15:00～17:00	
			奇数 15:00～16:00	偶数 16:00～17:00
9月18日(月)	P6	9:20	掲示時間 9:30～11:30	
			奇数 9:30～10:30	偶数 10:30～11:30
	P7	12:20	掲示時間 12:30～14:30	
			奇数 12:30～13:30	偶数 13:30～14:30

5. パネルの大きさは横90センチ×縦210センチです。左上に横20センチ×縦10センチのポスター番号を掲示いたします。ポスターの最上部には発表題目(フォントサイズ目安:72ポイント)、発表者氏名(筆頭発表者に○印をつける)、および所属を明示してください。ポスター作成の際には、文字の大きさや図表の見やすさに注意し、2メートル離れたところから全体が読めるようにしてください。

(ポスター番号の例)



7. 当日、補足資料を配布される方は各自必要部数を用意し配布してください。
8. 補足資料の回収を必要とする場合は、発表者が責任を持って回収・処分してください。
9. 発表時間が終了したら、直ちにポスターを撤去し、リボンや画鋏は受け取ったポスター会場受付場所に返却してください。

## 発表に際してのお願い（アクセシビリティ関連）

### 1. 色覚特性(色覚障害)・ロービジョン(弱視)の参加者への情報保障のお願い

色覚特性(色覚障害)並びにロービジョン(弱視)の参加者が視覚情報を支障なく受け取れるように、講演用スライドやポスター等を作成する際には、色彩や配色、文字の大きさ等に十分配慮していただきますよう、ご協力をお願いいたします。

色覚特性(赤緑色覚障害：男子20人に1人の割合で存在)の方には、見えにくい色彩や配色があります。以下に、資料作成の際に参考になる配慮事項をお示しいたします。弱視の方もほぼ同様の配慮で見やすくなります。

1. 使用する文字は太字にする
2. 赤色は見えにくいので、注意を喚起する色としては使用しない。
3. 緑色または黒地の背景に赤色(またはその逆)の文字や図の使用を避ける。
4. 黒を背景とした白や黄色の文字は見やすい。
5. 白を背景とし、黒のヘッジ(囲い)をつけた白い文字は見やすい。
6. 判別が難しい色同士の配色を避ける。  
例：「赤・緑」、「深緑・こげ茶」、「ピンク・灰色」、「灰色・水色」、「黄緑・黄土色」、「青緑・灰色」、「薄い緑・肌色」
7. グラフなどの図は、色のみではなく模様または文字などによる情報も加える・
8. グラフなどの図は、外周を黒でふちどり、その中に掲示する色同士の境目にも黒線を引く。
9. スライドの文字は太字で5行以内に大きく掲示すると見やすい。
10. スライドの背景デザインはなるべく連続して同一のものでそろえると目が疲れない。

#### < 参考資料 >

- 文部科学省「色覚に関する指導の資料」  
<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/2470/00004402/sikikaku.pdf>
- 日本生理学会「色覚異常者に配慮したカラースライドとポスター作成についての提言」  
<http://physiology.jp/content/6201/>
- NPO法人 カラーユニバーサルデザイン機構  
<http://www.cudo.jp/>
- ボランティアグループ「ぱすてる」  
<http://www.pastel.gr.jp/>

### 2. 視覚障害等のある参加者への電子データご提供のお願い

講演やシンポジウム等において、抄録に記載されていない内容がスクリーン投影されたり、追加の資料が配られたりする場合が多く見られます。それらの内容にアクセスできない参加者から電子データの提供に関する要望があった場合には、ご協力をお願いいたします。

### 3. ボイスサインカードについてのお願い

本大会では、視覚に障害のある参加者のためにボイスサインカードを配布しています。このカードは「音声で内容がわかるように発表や展示の内容を説明してください」という意向を発信するためのものです。このロゴマークを付けた参加者には、ぜひ積極的にお声がけいただき、発表・展示等の内容を言葉で説明して下さるようお願いいたします。



ボイスサインカード

#### 4. 聴覚障害のある参加者のための情報保障のお願い

日本特殊教育学会では聴覚に障害のある会員のために、一部のプログラムで情報保障を行っております。情報保障の質を担保するためには、手話通訳者や文字通訳者のスキルのみならず、講演者や発表者のご協力が欠かせません。

情報保障を設置することになった企画については、情報保障コーディネーターから連絡をさせていただきますので、下記についてのご協力をお願いいたします。

1. 大会1週間前までに、講演者、話題提供者、指定討論者等が当日に使用される資料の提供をお願いいたします。
2. 手話通訳および文字通訳の見やすさに配慮した会場設営にご協力をお願いします。
3. 通訳者席の確保にご協力をお願いします。
4. 文字通訳の場合は、適宜通訳の状況をスクリーンでご確認いただき、司会進行の調整をお願いします。
5. 視聴覚資料を使用される場合は、あらかじめ情報保障コーディネーターにお伝えください。

# 会場別大会日程 1日目 (9月16日 土曜日)

		10:00~12:00	13:00~15:00	15:30~17:30
アトリウム			受付 (11:30~16:30)	
イベントホール			クローク (11:30~18:00)	
			書籍販売・特別支援学校展示	
			休憩・打ち合わせスペース	
			ポスター発表P1	ポスター発表P2
センチュリーホール				
白鳥ホール①			学会企画社会貢献小委員会 シンポジウム	学会企画和文誌編集委員会 ワークショップ
白鳥ホール②			準備委員会企画 シンポジウム1	自主シンポジウム 打ち合わせ室
レセプションホール①		編集委員会	口頭発表1	口頭発表2-A
レセプションホール②			自主シンポジウム 打ち合わせ室	口頭発表2-B
1号館	会議室131+132		自主シンポ1-1	自主シンポ2-1
	会議室133+134		自主シンポ1-2	自主シンポ2-2
	会議室135		自主シンポ1-3	自主シンポ2-3
	会議室141+142		自主シンポ1-4	自主シンポ2-4
	会議室143		自主シンポ1-5	自主シンポ2-5
2号館	会議室211-1		自主シンポ1-6	自主シンポ2-6
	会議室211-2		自主シンポ1-7	自主シンポ2-7
	会議室212		自主シンポ1-8	自主シンポ2-8
	会議室213	学会事務局		
	会議室221		自主シンポ1-9	自主シンポ2-9
	会議室222		自主シンポ1-10	自主シンポ2-10
	会議室223		自主シンポ1-11	自主シンポ2-11
	会議室224-1		自主シンポ1-12	自主シンポ2-12
	会議室224-2		自主シンポ1-13	自主シンポ2-13
	会議室225		スタッフ控室	スタッフ控室
	会議室231		自主シンポ1-14	自主シンポ2-14
	会議室232		自主シンポ1-15	自主シンポ2-15
	会議室233		自主シンポ1-16	自主シンポ2-16
	会議室234-1		自主シンポ1-17	自主シンポ2-17
	会議室234-2		自主シンポ1-18	自主シンポ2-18
4号館	会議室431+432	大会本部、スタッフ控室		
	会議室433	名誉・終身会員、来賓控室		
	会議室434	講師 控室		
	会議室437	アクセシビリティ支援室		

# 会場別大会日程 2日目 (9月17日 日曜日)

		9:30~11:30	11:30~12:30	12:30~14:30	15:00~17:00
アトリウム		受付 (8:30~16:00)			
イベントホール		クローク (8:30~17:30)			
		書籍販売・特別支援学校展示			
		休憩・打ち合わせスペース			
		ポスター発表P3		ポスター発表P4	ポスター発表P5
センチュリーホール		記念講演①		記念講演②	記念講演③
白鳥ホール①		学会企画受賞者講演 (研究奨励賞・実践研究賞)	会員の集い 電子投稿説明会	学会企画国際化推進委員会 シンポジウム	学会企画熊本地震支援助成 ワークショップ
白鳥ホール②		準備委員会企画 シンポジウム2	教育大学 協会会議	自主シンポジウム 打ち合わせ室	自主シンポジウム 打ち合わせ室
レセプションホール①		口頭発表3		口頭発表4	口頭発表5
レセプションホール②		自主シンポジウム 打ち合わせ室		自主シンポジウム 打ち合わせ室	自主シンポジウム 打ち合わせ室
1号館	会議室131+132	自主シンポ3-1		自主シンポ4-1	自主シンポ5-1
	会議室133+134	自主シンポ3-2		自主シンポ4-2	自主シンポ5-2
	会議室135	自主シンポ3-3		自主シンポ4-3	自主シンポ5-3
	会議室141+142	自主シンポ3-4		自主シンポ4-4	自主シンポ5-4
	会議室143	自主シンポ3-5		自主シンポ4-5	自主シンポ5-5
2号館	会議室211-1	自主シンポ3-6		自主シンポ4-6	自主シンポ5-6
	会議室211-2	自主シンポ3-7		自主シンポ4-7	自主シンポ5-7
	会議室212	自主シンポ3-8		自主シンポ4-8	自主シンポ5-8
	会議室213	学会事務局			
	会議室221	自主シンポ3-9		自主シンポ4-9	自主シンポ5-9
	会議室222	自主シンポ3-10		自主シンポ4-10	自主シンポ5-10
	会議室223	自主シンポ3-11		自主シンポ4-11	自主シンポ5-11
	会議室224-1	自主シンポ3-12		自主シンポ4-12	自主シンポ5-12
	会議室224-2	自主シンポ3-13		自主シンポ4-13	自主シンポ5-13
	会議室225	スタッフ控室		スタッフ控室	スタッフ控室
	会議室231	自主シンポ3-14		自主シンポ4-14	自主シンポ5-14
	会議室232	自主シンポ3-15		自主シンポ4-15	自主シンポ5-15
	会議室233	自主シンポ3-16		自主シンポ4-16	自主シンポ5-16
	会議室234-1	自主シンポ3-17		自主シンポ4-17	自主シンポ5-17
会議室234-2	自主シンポ3-18		自主シンポ4-18	自主シンポ5-18	
4号館	会議室431+432	大会本部、スタッフ控室			
	会議室433	名誉・終身会員、来賓控室			
	会議室434	講師 控室			
	会議室437	アクセシビリティ支援室			

# 会場別大会日程 3日目 (9月18日 祝日・月曜日)

		9:30~11:30	11:30~12:30	12:30~14:30	15:00~17:00
アトリウム		受付 (8:30~12:30)			
イベントホール		クローク (8:30~15:00)			
		書籍販売・特別支援学校展示			
		休憩・打ち合わせスペース			
		ポスター発表P6		ポスター発表P7	
センチュリーホール					
白鳥ホール①		学会企画 研究委員会シンポ		学会企画 実践研究助成事業WS	
白鳥ホール②		準備委員会企画 シンポジウム3	アクセシビリティ 委員会	自主シンポジウム 打ち合わせ室	
レセプションホール①		口頭発表6		口頭発表7	
レセプションホール②		自主シンポジウム 打ち合わせ室	センター会議	自主シンポジウム 打ち合わせ室	
1号館	会議室131+132	自主シンポ6-1		自主シンポ7-1	
	会議室133+134	自主シンポ6-2		自主シンポ7-2	
	会議室135	自主シンポ6-3		自主シンポ7-3	
	会議室141+142	自主シンポ6-4		自主シンポ7-4	
	会議室143	自主シンポ6-5		自主シンポ7-5	
2号館	会議室211-1	自主シンポ6-6		自主シンポ7-6	
	会議室211-2	自主シンポ6-7		自主シンポ7-7	
	会議室212	自主シンポ6-8		自主シンポ7-8	
	会議室213	学会事務局			
	会議室221	自主シンポ6-9		自主シンポ7-9	
	会議室222	自主シンポ6-10		自主シンポ7-10	
	会議室223	自主シンポ6-11		自主シンポ7-11	
	会議室224-1	自主シンポ6-12		自主シンポ7-12	
	会議室224-2	自主シンポ6-13		自主シンポ7-13	
	会議室225	スタッフ控室		スタッフ控室	
	会議室231	自主シンポ6-14		自主シンポ7-14	
	会議室232	自主シンポ6-15		自主シンポ7-15	
	会議室233	自主シンポ6-16		自主シンポ7-16	
	会議室234-1	自主シンポ6-17		自主シンポ7-17	
会議室234-2	自主シンポ6-18		自主シンポ7-18		
4号館	会議室431+432	大会本部、スタッフ控室			
	会議室433	名誉・終身会員、来賓控室			
	会議室434	講師 控室			
	会議室437	アクセシビリティ支援室			



# 学会企画

ワークショップ  
シンポジウム  
学会賞受賞者講演



# 災害に対する障害児者のニーズと支援の課題

## —教育・福祉・矯正の連携をとおして—

企画者 日本特殊教育学会社会貢献小委員会  
金子陽子 (高松矯正管区・委員長)  
高橋智 (東京学芸大学・理事)  
内藤千尋 (松本大学・幹事)

司会者 金子陽子 (高松矯正管区・委員長)

話題提供者 大竹宏明 (法務省矯正局)  
小川真紀 (りんくす名古屋)

指定討論者 川住隆一 (東北福祉大学・理事)

KEY WORDS: 災害、障害児者、災害弱者、防災教育、福祉避難所

### 【企画趣旨】

東日本大震災（2011年3月11日）や熊本地震（2016年4月16日）は、甚大な被害をもたらした。

災害時における障害児者の困難や支援ニーズの解明に関して、徐々に研究が蓄積されている。例えば田中・川住・菅井（2016）は、障害児者にみられる災害時の脆弱性について「物理的・身体的脆弱性（健康維持、移動保障の脆さ）」「教育的脆弱性（学校や福祉施設等への通学困難、サービス受給の脆さ）」「心理的脆弱性（心理的安定の脆さ）」「社会的脆弱性（地域や周囲の人々との共助・公助の脆さ）」を指摘している。

震災時には特別支援学校や福祉施設も避難場所として開設され、地域の教職員により障害児者への対応がとられていることも報告されているが、災害弱者となり得る高齢者や障害者の避難場所での生活や医療的支援の問題、震災後の学習支援やストレスケアから外れてしまいがちな現状も指摘されている（田中・川住・菅井：2016）。

災害時の避難先の一つに「高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する者の円滑な利用を確保するための措置が講じられている」場所として福祉避難所が設置・運営されている。東日本大震災の状況をふまえ、2013年の災害対策基本法の改正により指定基準も見直され、支援の充実がめざされているが、福祉避難所の存在の周知や人員配置、情報伝達における合理的配慮等の運用上の課題も挙げられている。

本学会ではこれまでに東日本大震災や熊本地震に対する支援基金調査研究を実施している（一般社団法人日本特殊教育学会：2013）。また本社会貢献小委員会では第49回大会と第50回大会において「東日本大震災と障害者支援」をテーマにシンポジウムを行い、防災対策・防災教育や震災後の「気になる」子どもへの支援の在り方、避難所生活の状況と課題、そして子どもの命を守る学校教育・特別支援教育の課題等が議論されてきた（日本特殊教育学会研究委員会社会貢献小委員会：2013）。

大震災からの時間経過において震災関係報道も減り、いまだ復興の途上にあることが、世の中の意識から遠のいていることが推察される。しかし現実には、震災が子どもの心身の発達にもたらす影響や心身へのケア・発達支援、障害児者への危機管理・防災体制の見直し等、災害時であっても障害児者・災害弱者が地域で安心・安全が保障されるあり方の検討が求められている。

そこで本シンポジウムでは、東日本大震災等の災害時における救済支援の取り組みや障害児者の生活支援・発達支援の実践を通して、大震災から6年以上が経過した今だからこそ大切に議論していくべき防災教育の課題、災害弱者に対する地域支援・教育のあり方を検討することを目的としている。

### 【話題提供者の趣旨】

#### 1. 大竹宏明氏(法務省矯正局)

法務省ではこれまでに地震などの災害が起こるたびに、事態の収拾と復興のために様々な取り組みをしてきた。2016年4月に発生した熊本地震では、報告者の指揮のもと熊本刑務所内一部を避難所として開設・運営が実施され、1日最大約250名が利用する時期もあった。避難所運営にあたっては、「衛生面の管理・公平性の確保・ルール作り・防犯」に加えて災害弱者保護に配慮した運営が行われたが、これらは日々矯正職員が実施している職務内容を少し応用しただけのものでもあり、決して困難な対応ではない。本報告では、矯正職員による避難所運営の取り組みとそこから見えてきた災害弱者のニーズ、震災時対応の課題について報告する。

#### 2. 小川真紀氏 (りんくす名古屋)

名古屋市発達障害発達障害者支援センター「りんくす名古屋」では、発達障害児者やその家族がよりよい地域生活を送れるように支援のコーディネートを行っている。地震等の自然災害時に、障害を有する者とその家族が避難所生活に困難を強いられやすいことや、支援が十分に行き届いていない問題が考えられる。本報告では、発達障害等の障害児者への関わりを通して考えられる防災教育や地域の理解促進など、災害における障害児者への支援のあり方を検討する。

### 【指定討論者の趣旨】

#### 川住隆一氏 (東北福祉大学)

これまで障害を重い子どもの教育や家族支援に関わる研究者の立場から、被災時に障害児者が直面した困難から考えられる支援や今後の「命を守るための教育」のあり方について検討し、その成果を田中・川住・菅井（2016）にまとめられた。そうした経験のもとに、指定討論をお願いする。

### 文 献

一般社団法人日本特殊教育学会（2013）『東日本大震災基金調査研究報告書』全51頁。

[http://www.jase.jp/common/pdf/report\\_shinsai-shien\\_1611\\_07.pdf](http://www.jase.jp/common/pdf/report_shinsai-shien_1611_07.pdf)

田中真理・川住隆一・菅井裕行（2016）『東日本大震災と特別支援教育—共生社会にむけた防災教育を—』慶應義塾大学出版会。

(KANEKO Youko, TAKAHASHI satoru, NAITOH Chihiro, OHTAKE Hiroaki, OGAWA Maki, KAWASUMI Ryuichi)

## 実践研究の成果と展望

企画者	小池敏英 岡 典子 園山繁樹	(和文誌編集委員長) (和文誌副編集委員長) (統括編集委員長)
司会者	小池敏英	(和文誌編集委員長)
話題提供者	澤 隆史 保坂俊行 松下浩之	(東京学芸大学) (山梨県立あけぼの支援学校) (山梨大学)
指定討論者	園山繁樹	(統括編集委員長)

KEY WORDS: 実践研究・実践知・実務者

### 【企画趣旨】

「特殊教育学研究」では、実践研究論文を「教育、福祉、医療などの実践を通して、実際的な問題の究明や解決を目的とする」と定義している。第53回大会では、「実践研究のまとめ方—特別支援教育に関する実践知の蓄積と共有の拡大を目指して—」というテーマで、学会企画シンポジウムが開催され、実践研究に特徴的な4つの研究段階を中心に活発な議論がなされた。この研究段階は、①研究動機・背景となる問題意識の発生段階、②理論的枠組みや仮説を明確にしていく課題設定と定式化の段階、③データ収集と分析の段階、④発表論文をまとめ、研究成果として発表し公式化する段階、である。本大会では、実践研究という形の論文であるから報告できた成果や知見、また、論文作成上のポイントなどを、各障害教育の領域において話題提供していただく。これを基に、情報交換に役立ち、かつ実践のヒントや動機づけにつながる実践研究の在り方について考察する。

本年度は、聴覚障害教育、肢体不自由教育、発達障害教育中心に、議論を行う。

### 【話題提供】

聴覚障害教育における実践研究

澤 隆史 (東京学芸大学)

聴覚障害児の教育・支援の場は多岐に渡っており、それぞれの機関の特色に応じて支援の理念や実践方法にも違いがある。特に聴覚障害の場合、補聴器や人工内耳等の補聴デバイス、コミュニケーション手段、支援環境、重複する障害等の要因に対する実践者のとらえ方は複雑であり、さらに社会文化的な価値観なども支援の在り方に関連する。それ故、実践研究を進める上では、企画主旨に挙げられた①および②の観点について、実践者の考えを明確に説明することが求められる。本ワークショップでは、幾つかの実践研究の例を挙げながら、聴覚障害児を対象とした実践研究をまとめる上での、目的・方法・結果・考察のまとめ方等について紹介する。さらに実践研究を行うことが、子どもの発達にどのような意味や意義を有するのかという点について、聴覚障害者の生涯発達という観点から考えてみたい。

肢体不自由教育における実践研究

保坂俊行 (山梨県立あけぼの支援学校)

私が肢体不自由特別支援学校である山梨県立甲府支援学校に勤務していた平成8年度~21年度当時は、在籍する児童生徒の障害の重度重複化に伴い、学校における医療的ケアの実施、摂食指導の充実、高等部における訪問教育の開

始等大きなうねりが押し寄せていた時代であり、そういったなかで子どもたちの教育をより充実していくための課題が山積しており、まさに「実際的な問題の究明や解決」を目指していく必要があった。そこで行われていたことは間違いなく「教育実践」であり実験室等の様々な要因が整理された環境で行われる「研究」とは一線を画すものである。しかし、様々な要因からなる教育実践から得られた成果を次に活かすためには「実践知」となるよう整理する必要がある。そこで、教育実践をどう研究として構築し、実践研究としてまとめていくか、自身が実践研究として投稿してきた論文を元に、学校現場の一教諭という立場から話題提供したい。

発達障害教育における実践研究

松下浩之 (山梨大学)

文部科学省(2016)によると、特別支援学校や特別支援学級に在籍する知的障害や発達障害の児童生徒は全体の約90%であり、知的障害および発達障害教育における知見の蓄積や活用は、特別支援教育全体に大きく影響する重要な課題である。しかし、それぞれの児童生徒の実態は個々によって大きく異なっており、効果的な支援の方法は様々である。そのため、実践研究においては対象事例に関する主訴や背景情報を丁寧に把握し、説明すること、実施した手続きを再現可能なように記述し、結果を客観的に示すことが必要となる。しかし、教師が授業実践の中でこれらの作業を独力で行なうことは容易ではなく、専門家による支援や助言を利用することがのぞましい。そこで本ワークショップでは、知的障害や発達障害のある子どもに対する実践研究のまとめ方について、大学での教育相談における実践をもとに、その流れを紹介する。さらに、学校における実践を研究としてまとめるための支援体制について、教師と大学教員の連携という観点から話題を提供する。

### 【指定討論】

実践を一歩前に進める実践研究

園山繁樹 (統括編集委員長)

本学会の特色の1つは、研究者だけでなく、学校や施設等の実践の場に身を置く会員が多いことである。したがって、大会での研究発表や機関誌の論文掲載では、実践研究の比重は大きい。実践を研究として発表や論文にまとめるためには、研究課題の先進性はもとより、データ・記録の取り方とその分析の仕方に様々な工夫が必要であり、同じ領域の実践者に役立つものでなければならない。(KOIKE Toshihide, OKA Noriko, SONOYAMA Shigeki, SAWA Takashi, HOSAKA Toshiyuki, MATUSHITA Hiroyuki.)

# 自閉症スペクトラム障害のある児童とそのきょうだい関係

—行動問題と知的障害の有無の影響—

○武田瑞穂

熊谷恵子

(筑波大学大学院人間総合科学研究科)

(筑波大学人間系)

KEY WORDS: 自閉症スペクトラム障害 (ASD) きょうだい関係 行動問題

## 目的

ASD の特性は、きょうだい関係に影響を及ぼすと考えられるものの、それを構成する要因が膨大であることや、きょうだい関係を問う質問紙が日本にないことから量的研究が極端に少ない。また、ASD でも知的障害の有無できょうだい関係に与える影響は異なると考えられるが、日本で知的障害のない ASD のきょうだい関係が研究対象となることはなかった。

ASD 児のきょうだい関係の特徴を知ることは、きょうだいへの対応や支援を考える際に役立つと考えられる。そこで本研究では、研究1としてきょうだい関係質問紙を作成すること、研究2として ASD 児の行動上の問題と知的障害の有無がきょうだい関係に及ぼす影響を検証することを目的とした。

## 研究1

### 【方法】

1. 対象：小中高の通常級在籍児童生徒の保護者 1956 名
2. 手続き：質問紙は Sibling Relationship Questionnaire (SRQ) (Furman & Buhrmester, 1985)を翻訳 (逆翻訳したものを著者に確認してもらった) したものに記入を求めた。回収した質問紙の回答について因子分析を行った。

### 【結果と考察】

回答用紙の回収は 763 名 (39.0%) であった。日本語版 SRQ の因子分析の結果は Table1 のとおりであった。日本語版 SRQ と原版 SRQ とでは相違があった。日本語版 SRQ の方が日本のきょうだい関係を全般的なまとまりとしてとらえやすいと考えられる。また学年が低いほど、きょうだい間の温かさや親密さ、力関係を示す行動の頻度が高いことが示された。

Table 1 日本語版SRQの因子分析

因子名	温かさ・親密さ	力関係
因子	1	2
向社会性	.883	.138
愛情	.879	-.013
きょうだいによる尊敬	.736	.047
きょうだいの面倒見	.698	.197
仲間意識	.669	.325
きょうだいに対する尊敬	.667	-.095
親しみ	.554	.341
きょうだいによる面倒見	.493	-.065
類似	.478	.201
対立	-.299	.878
不和	-.095	.856
競争	.179	.597
きょうだいに対する優越性	.322	.569
きょうだいによる優越性	.271	.439
因子寄与	5.453	2.712
因子寄与率(%)	38.95	19.37
α係数	.884	.813

注) 因子負荷が0.40以上を太字とした。

## 研究2

### 【方法】

1. 対象：ASD のある小中高生とそのきょうだいの保護者合計 191 名
2. 手続き：日本版 SRQ と Japanese version of the Aberrant Behavior Checklist-Community (ABC) (Ono,

1996)を含む調査用紙を学校を通じ配布した。

### 【結果と考察】

回答用紙の回収は 109 名 (57.1%) であり、そのうち基準に合った小学校低学年 21 名の ASD きょうだいを分析対象とした。Table2 は、ASD 知的障害有群、無群、定型発達群によるきょうだい関係を分散分析した結果である。知的障害のある ASD 群できょうだい関係因子の得点が有意に低かった。社会性の障害に加えて知的障害に伴う言語的コミュニケーションの困難さが影響している可能性がある。高機能 ASD と定型発達群で有意差がなかった背景には、統計的検定力の問題および、高機能 ASD では言語によるコミュニケーションが可能であることが要因となっている可能性がある。

Table2 きょうだい関係因子の群間比較

	群		
	高機能ASD児	知的障害を有するASD児	定型発達児
きょうだい関係因子			
温かさ・親密さ	84.571(14.581)	66.083(19.614)	93.203(13.537)
力関係	45.428(10.580)	35.916(4.813)	49.452(7.175)

\*p<.05, \*\*p<.01, M(SD).

Table3 には、ASD 全体でのきょうだい関係と行動問題の相関関係を示した。きょうだい間の「温かさ・親密さ」と行動問題の「無気力・社会的引きこもり」との強い相関が示された。無気力は他傷行為などと違って一見問題とは捉えにくい、「無気力」が認められる場合にもきょうだい関係に配慮の余地があることが示された。

Table3 きょうだい関係と行動問題の相関関係

M(SD)	多動	無気力	常同行動	不適切な発言	興奮
温かさ・親密さ 72.895(14.537)	.118	-.529*	-.020	.105	.381
力関係 39.421(8.585)	.107	-.358	.162	.247	.281

各セルはPearsonの相関係数。\*p<.05, \*\*p<.01

## 研究の進展と今後の展望

本研究により、ASD のある児童とのきょうだい関係に影響を及ぼす可能性のある要因が示された。今後は、その後の援助の在り方まで包含した研究に発展していく必要がある。

## 文献

- Furman, W. & Buhrmester, D. (1985) Children's perceptions of the qualities of sibling relationships. *Child Development*, **56**, 448-461.
- Ono, Y. (1996) Factor validity and reliability for the Aberrant Behavior Checklist-Community in a Japanese population with mental retardation. *Research in Developmental Disabilities*, **17**, 303-309.

(Takeda Mizuho, Kumagai Keiko)

# 聴覚障害生徒における漢字熟語の読みの特徴

—漢字熟語の構成要因と読みとの関連—

茂木成友

(東北福祉大学 教育学部)

KEY WORDS: 聴覚障害生徒 漢字二字熟語 読み

## (目的)

近年、情報通信機器の発展と普及によって、日常生活の中で書きことばを利用する機会が非常に多様になってきている。聴覚障害児者は書きことば、とりわけ漢字の読みの習得に困難を示すことが知られているが、漢字が持つどのような要因によってその困難が生じているのかは明らかにされていない。そこで、本研究では、漢字の要因に着目し、その統制を行うことにより、漢字のもつ要因が聴覚障害児の漢字熟語の読み習得に及ぼす影響について明らかにする。

## (方法)

**対象** 健聴児：A 県内の中学校 1～3 年生の生徒 96 名（1 年生 17 名、2 年生 37 名、3 年生 42 名）。聴覚障害児：B 特別支援学校（聴覚障害）中学部 1～3 年生の生徒 41 名（1 年生 14 名、2 年生 13 名、3 年生 14 名）。

**漢字テスト課題** 漢字二字熟語の読みに関連する要因については、字形的な複雑さ（総画数）、意味的な難易度（心像性）、読み方の多様さ（各漢字の読み方の一貫性）、使用頻度、同音異義語数などが挙げられている。そこで、本研究では、総画数、心像性、一貫性を独立変数とし、使用頻度および同音異義語数を統制変数として、漢字二字熟語 180 語の漢字テストを作成した。

## (結果)

### 1. 学年別平均正答数

健聴児、聴覚障害児の各学年における課題の平均正答数を Fig. 1 に示した。まず、学年（1 年生、2 年生、3 年生の 3 水準）と障害の有無（健聴児、聴覚障害児の 2 水準）を 2 要因とする分散分析を行った。その結果、学年による主効果、障害の有無による主効果がそれぞれ有意であり、交互作用は有意でなかった。LSD 法による多重比較によると、1 年生と 2 年生、1 年生と 3 年生、2 年生と 3 年生でそれぞれ平均正答数の差が有意であった。

### 2. 漢字がもつ要因による比較

漢字の読み習得に関連する要因を検討するため、画数の多寡・心像性の高低・一貫性の高低・障害の有無を 4 要因とする分散分析を行った。その結果、画数の多寡による主効果が有意であり、心像性と一貫性の交互作用、一貫性と障害の有無の交互作用が有意であった。特に、一貫性と障害の有無の交互作用について検討すると、単純主効果検定より、一貫性の高い漢字においては健聴児と聴覚障害児の間で差がみられなかったが、一貫性の低い漢字においては聴覚障害児の方が低い正答率を示すことが明らかになった。

## (考察)

健聴児と聴覚障害児のどちらも、年齢上昇とともに漢字の読み習得が進むことが明らかになった。また、正答率の高い漢字、低い漢字の傾向も両群で共通しており、同様の

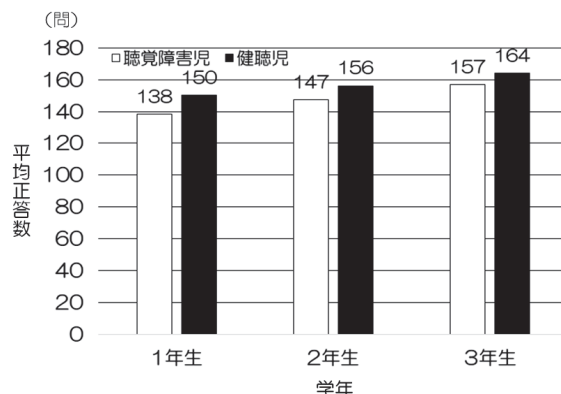


Fig. 1 学年別平均正答数

傾向で漢字の読みを習得していることが示唆された。

一方で、健聴児に比べて、聴覚障害児の漢字の読み習得には遅れがみられることも示され、その理由として、特に一貫性の低い漢字の正答率が健聴児に比べて低いことが明らかになった。本研究で用いた一貫性の低い漢字とは、通常の漢字熟語の中では使用される頻度が低い読み方が含まれる熟語であり、たとえば「雨戸」や「仮病」が挙げられる。つまり、聴覚障害児は、多様な読み方がなされる漢字の読み習得、あるいは多様な読み方の中でも一般的ではない読み方の習得に困難があると考えられる。

## (研究の進展)

本研究では、聴覚障害児の漢字の読み習得について、特に漢字がもつ要因から検討を行った。その中で、特に一貫性の低さが、聴覚障害児の漢字の読み習得の困難を生じさせることが明らかになった。しかし、具体的にどの程度の一貫性の低さの場合に、漢字の読み習得が困難になるのか、あるいはどの程度の一貫性の高さであれば健聴児と同様に読み習得が可能であるのかを検討する必要がある。

また、漢字の読み習得には、聴覚障害児自身の認知要因が影響を及ぼすことも想定される。このことから、本研究で用いた聴力レベルや読書力といった指標以外にも、先行研究で示されているような漢字の読みのモデルに基づいて、字形処理能力、音韻処理能力、意味処理能力などの指標から今後検討していく必要がある。

## (研究領域の今後の展望)

本研究の結果に基づき、漢字の要因に関するさらなる詳細な検討を行うとともに、聴覚障害児自身の認知要因に関する検討を行うことで、聴覚障害児の漢字の読み習得のモデル作成を行うことが出来る。このモデルに基づいた指導実践を通して、聴覚障害児に対する適切な漢字の読み指導・支援プログラムの開発などが期待される。

(MOTEGI Masatomo)

# 特別な配慮を要する定時制高校生の キャリア発達を促すための支援

—スクールソーシャルワークの視点を取り入れたグループワークの取り組み—

朝日華子

(福島県教育委員会いわき教育事務所)

KEY WORDS: グループワーク 定時制高等学校 スクールソーシャルワーク

**(目的)** 文部科学省(2009)の調査では、発達障害等の困難のある生徒の在籍率は、全日制過程の1.8%に比べ、定時制課程は14.1%であり、定時制高校が特別支援教育の重要な役割を担っていることが示されている。本実践では、対人関係や言語・認知の発達に課題のある特別な配慮を要する定時制高校生に対して、キャリア発達の視点をういたグループワークを行い、生徒間の相互作用を通じて、コミュニケーションスキルやライフスキルを身に付けることを試みた。具体的な就労支援を行うことで、社会的・職業的自立を目指すための支援を試み、それらの有効性を検討した。また、単独校配置型のスクールソーシャルワーカー(以下、SSWer)がファシリテーターとなり、行内外との連携、仲介、調整を行いながら、学校の特性に合わせた就労支援ネットワークの構築を試みた。

**(方法) 1. 活動概要:** 実施期間はX年10月3日~X+1年12月5日であった。毎週木曜日の放課後の1時間、全40回のグループワークを実施した。本指導では、2年生時は就労のイメージ獲得、3年生出席率はインターンシップによる具体的な就労支援を並行して行いながら、勤労観、職業観の形成に焦点を当てて実施した。出席率は96.9%であった。

**2. 参加者:** E県立定時制単位制過程の2年生男子4名(以下A, B, C, Dとする)であった。履修状況には問題はなく、卒業後は就労を希望しているが、挨拶、報告、質問、確認等、就労時に不可欠なスキルやコミュニケーションにかだいがあると自覚している。本研究への参加に関しては、事前に書面上で保護者の同意を得た。

**3. 手続き:** 担任から参加者に対して個別面接を行い、グループワークの説明と参加の意思確認を行った。その後、SSWer、担任、特別支援教育コーディネーター、養護教諭と、参加者に関する共通理解を図った。グループワーク実施前に、SSWerがおのおの1回、50分の個別面接を行い、参加者の意思確認を行った。「仲間の力を感じつつ、好奇心

や共感のエネルギーがつながり、互いにやり取りする仕組み」であるエンパワメントの視点(安梅2008)から、Table1の手順でグループワークを行った。3年時には、他の生徒と同様に進路指導部からの指導を受けながら、補助的な支援としてグループワークを行った。グループワークの中で生じた就労に対する希望等については、適宜、進路指導部との情報交換を行った。

## Table 1 グループワークの進め方

1. タイムテーブルの提示
2. 参加者の近況報告
3. コミュニケーションスキル向上のためのエクササイズ・アイスブレイキング
4. ワークの実施
5. ワークの振り返り
6. 次回の予定の確認

**(結果)** 当初は、参加者間の関わりは少なく受け身の態度であったが、ワークを重ねるにつれ、自己理解・相互理解が深まり、ワークに対する具体的な希望や、就労体験に対する積極的な参加がみられた。また、参加者の1人は潜在化していた課題が表面化し、障害者就労を検討する機会を得た。参加者のニーズに合わせた就労体験先の模索と連携により、参加者間、学校、地域の共感に基づいたネットワーク化が構築された。

**(考察)** インターンシップや事前事後の活動を通じて自己理解や相互理解が深化したことで、自分自身の問題について受け入れ、仲間とともに勤労観・就労観を身に付けるという目標が再認識された。メンバー間の相互作用によって各自のキャリア発達が高まったことはグループワークによるキャリア発達に対する支援の有効性が示されたといえる。

(文献) 安梅勲江(2008) コミュニティ・エンパワメント—当事者主体のシステムづくり—。小児の精神と神経, 48, 7-13. 文部科学省(2009) 高等学校における特別支援教育の推進について—高等学校ワーキング・グループ報告— (ASAHI Hanako)

# 台湾および日本における特別支援教育教員養成の現状と課題

企画者 日本特殊教育学会国際化推進委員会

奥住秀之(司会・東京学芸大学), 荒川智・勝二博亮(茨城大学), 齊藤由美子(国立特別支援教育総合研究所)

話題提供者 呉純慧(国立台北教育大学), 村山拓(東京学芸大学), 池田吉史(上越教育大学), 平田正吾(茨城キリスト教大学)

KEY WORDS: 台湾, 日本, 特別支援教育教員養成

## 【企画趣旨】

新学習指導要領や教員免許法改定など、特別支援教育教員養成が注目されている。本シンポジウムでは、台湾と日本の教員養成について、それぞれの現状と課題を関連させつつ検討する。

## 【話題提供の要旨】

### 台湾における特別支援教育教員養成の現状と課題(呉 純慧)

台湾特別支援教育【特殊教育】教員養成の現状：台湾における特別支援教育教員養成機関は特殊教育学系がある13大学に限られる。小学校・幼稚園の特別支援教育教員養成大学は国立台北教育大学、台北市立大学、国立清華大学、国立台中教育大学、国立嘉義大学、国立台南大学、国立屏東大学、国立東華大学、国立台東大学の9大学、中学校・高校段階の特別支援教育教員を養成する学校は国立台湾師範大学、国立彰化師範大学、国立高雄師範大学、私立中原大学の4大学である。

教員養成の法律や制度：1994年以前、教員養成は旧師範学校に限られていた。1994年に「教員養成法」が制定され、師範/教育大学のみならず、「教員養成センター」設置の一般大学教育学院及び高等教育機関でも教員養成を行えるようになった。しかし、特別支援教育教員の養成ルートは限られている。①13大学に在籍する特殊教育学系の学部学生。②13大学に在籍する各学系の大学院生または学部生が特別支援教育教員養成課程(特殊教育学程と呼ぶ)の履修申請が通過された者。2015年度で特別支援教育教員の養成の人数は794名である(①547名;②247名)(教育部, 2015)

大学カリキュラム：共通科目。専門科目。特別支援教育教員養成専門科目：必要な単位数40単位。A:一般教育専門授業10単位。B:特殊教育共同専門科目10単位【必修科目：特殊教育概論3単位, 特殊教育児童生徒アセスメント3単位, 教育実習4単位【実習72時間】】。C:心身障害または英才児教育に関する専門科目20単位。教育実習(大学5年目に6か月間フルタイムで学校現場での教育実習資格を取得する。)

教員検定試験：教育実習終了・合格後、台湾の教育部(日本の文部科学省相当)が主催する教員検定試験を受けることができる。特別支援教育教員検定科目：国語能力、教育原理及び制度、特殊教育児童生徒アセスメント、特殊教育課程及び指導法。筆記試験：特別支援教育教員検定試験の合格により、特別支援教育教員免許を取得する。2015年度の調査では、試験受験者は806名で、539名が通過、通過率66.87%であった(教育部, 2015)。

特別支援教育教員採用試験：特別支援教育教員免許を取得してから、教員採用試験を受けることができる。各県、市合同的に教員採用試験を行うこと、または個別に行うこともある。1次試験：筆記試験。2次試験：面接、模擬授業等。

特徴と問題：特別支援学校と普通校に勤務する特別支援教育教員の採用人数を見てみると、台湾の特別支援教育教員が働く場所は普通校が中心である(2015年度特別支援学校の採用人数は32名(7.86%)であるが、普通校の特別支援教育教員の採用人数は375名(92.13%)である)。9割以上の特別支援教育教員が普通校で働く。また、少子化の影響により、特別支援教育教員の枠が少なく、特別支援教育教員免許を持ちながら、何年間も教員採用

試験に受からない状況がある(洪, 2011)。特別支援教育教員の採用率が非常に低下している【例:小学校段階の教採合格5.83%】。

今後の課題：インクルーシブ教育との関連で、障害がある児童生徒は主に普通校に通っている。それに伴い、特別支援教育教員の所属も各段階の普通校が主になっている。今後特別支援教育教員がインクルーシブ教育で要求される能力としては、一般教員とのコミュニケーション能力、普通の学級に在籍する障害児童生徒の各科目を調整できる指導法、各種の障害児童生徒の特徴に応じて対応と指導できる能力と考えられる。これらの能力を教員養成時代に更に重視する必要がある。

### 国立教員養成系大学の学士課程における特別支援教育教員養成の成果と課題(村山 拓)

特別支援学校教員教員免許状の課程認定を受けている国立教員養成系大学・学部は52大学、80の課程・学科等(専攻科含む)となっている(平成28年4月1日現在)。その大学数、卒業生数の規模と比して、公立学校教員採用に占める卒業生の割合や、卒業生の教員就職率を高く維持してきた。また、例えばHATOプロジェクトのように、特別支援教育やインクルーシブ教育の推進を見据えた専門性の高い教員養成の試みもなされてきた。しかし組織改革や高等部教員養成など、課題も少なくない。呉先生の講演から得られる、東アジア型教員養成の現状なども視野に入れつつ、国立大学の教員養成について成果と課題を検討したい。

### 国立大学修士課程における特別支援教育教員養成の成果と課題(池田吉史)

平成28年4月1日現在、特別支援学校教諭専修免許状の課程認定を受けている大学院は、国立・私立を合わせて全国59校であり、そのうち大学院として特別支援学校教諭一種免許状の課程認定を受けているのは筑波大学と上越教育大学の2校のみである。上越教育大学は、教員の資質向上のための大学院大学として創設されたいわゆる新構想大学であり、特別支援教育実践研究センターとの連携の中で、「理論と実践の往還」、「現職教員と学卒学生の学び合い」、「地域との連携」といった教員養成の先端的な課題に取り組んできた。本発表では、上越教育大学大学院修士課程を例に挙げ、特別支援教育教員養成の成果と課題について報告する。

### 私立大学における特別支援教育教員養成の成果と課題(平田正吾)

茨城県日立市に所在する茨城キリスト教大学では、2011年度より特別支援学校教諭一種免許状を取得する課程を開設した。本課程では、免許状取得の為に定められた内容に加え、特別支援学校教諭経験者の指導のもとでの授業指導案の作成や、大学周辺の小学校や特別支援学校と連携した教育活動を行っている。また、本課程を担当する教員は、茨城県教育委員会が実施している特別支援教育の専門家派遣事業とも連携することにより、地域の特別支援教育の現状やニーズを踏まえた教員養成を試みている。本話題提供では、こうした本学の取り組みを紹介しつつ、私立大学における特別支援教育教員養成の成果と課題について報告する。

(OKUZUMI Hideyuki, ARAKAWA Satoshi, SHOJI Hiroaki, SAITO Yumiko, WU Chunhui, MURAYAMA Taku, IKEDA Yoshifumi, HIRATA Shogo)

## 熊本地震支援助成事業ワークショップ

企画者	宮本昌子（日本特殊教育学会研究委員会，筑波大学人間系）
司会者	酒井奈緒美（日本特殊教育学会研究委員会，国立障害者リハビリテーションセンター研究所）
発表 1	菊池哲平（熊本大学教育学部） 熊本地震における知的障害児・発達障害児の避難行動に関する調査
発表 2	大杉成喜（皇學館大学教育学部） 平成 28 年度熊本地震における重度・重複障害のある子どもについて
発表 3	山田京子（熊本県立熊本聾学校） 災害時における情報保障としてのデジタルサポートの工夫 ～音声文字変換アプリの辞書能力の改善・向上を図る～

### 【熊本地震支援助成事業立ち上げの背景】

2016 年（平成 28 年）4 月 14 日に発生した熊本地震は、熊本地方に甚大な被害をもたらしました。現在でも復興への道のりは様々であり、日常の生活を取り戻せない方も多くいらっしゃる事が報道されています。日本特殊教育学会が本事業を立ち上げたのは、地震発生から二月余りが経過した昨年の 6 月末のことでした。とりわけ障害のある方等にとっては、震災後に生じた日常のわずかな変化が混乱を招来し、まさにこの時が支援のニーズが高まる時と考えました。そこで、被災地方における障害のある方等の支援に係る諸活動に対して助成事業を立ち上げるに至りました。

### 【熊本地震支援助成事業の対象】

さて、熊本地震支援助成対象は、東日本大震災における本学会での助成事業を踏まえ、次のいずれかの活動といたしました。① 被災された障害のある方等に対する支援等の実践活動、② 障害のある方等の被災の実態把握のための調査・研究活動、③ 災害から身を守るための教育・訓練などの実践とそれをめぐる調査・研究活動です。すでに実践・研究の活動を開始している場合も審査の対象としました。具体的には、日本特殊教育学会の会員を代表者とするグループ（代表者以外は必ずしも会員である必要はない）を対象とし、応募区分は① 熊本県に居住または勤務する会員に対する優先的な助成、② 会員の居住または勤務する地域をとくに限定しない助成、の二つに分け、助成額 100 万円（①区分：1 件 50 万円、②区分：1 件 25 万円×2 件）の範囲とし、3 件を公募しました。

### 【熊本地震支援助成事業の応募状況及び採択者等】

学会 HP、機関紙「特殊教育学研究」に公募要領を掲し、約 1 ヶ月間の応募期間が設けられたところ、応募件数は 3 件でした。申請された研究は、審査委員会による所定の基準に従って厳正に審査を行い、3 件全てが採択となりました。

### 【報告者と研究テーマ】

発表は各 30 分とし、すべての発表が終了後、フロアとの協議を行います。

〔発表 1〕 菊池哲平（熊本大学教育学部）  
熊本地震における知的障害児・発達障害児の避難行動に関する調査

〔発表 2〕 大杉成喜（熊本大学教育学部）  
平成 28 年度熊本地震における重度・重複障害のある子どもについて

〔発表 3〕 山田京子（熊本県立熊本聾学校）  
災害時における情報保障としてのデジタルサポートの工夫  
～音声文字変換アプリの辞書能力の改善・向上を図る～

(KIKUCHI Teppei, OSUGI Nariki, YAMADA Kyoko)

# インクルーシブ教育システムと特別支援教育の役割 I

—地域共生社会の実現のために我々は何をすべきか—

企画者・司会	宮本昌子（日本特殊教育学会研究委員会，筑波大学人間系）
話題提供者	近江幸治（早稲田大学法学学術院・弁護士） 姜乃榮（非電化工房ソウル団長） 野口晃菜（株式会社 LITALICO） 竹林地毅（広島大学大学院教育学研究科）
指定討論者	川合紀宗（広島大学大学院教育学研究科・大学院国際協力研究科） 落合俊郎（大和大学教育学部）
KEY WORDS:	インクルーシブ教育システム、地域共生社会、特別支援教育、共生社会

## 【企画趣旨】

我が国は2014年に障害者の権利に関する条約を批准・発効した。今後、条約の実効に関する進捗状況を国連障害者権利委員会から査問される。批准から5年目の2019年には最終報告書が出され、その内容が世界中に発信される予定である。国連委員会によるこれまでの査問状況を見ると、国連はフル・インクルージョンをゴールとしているので、この20年間で特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室で支援を受けている児童生徒の割合が3倍に達している日本の状況を鑑みると、マルチトラックシステムによるインクルーシブ教育システムの成果と課題を分析・考察するとともに、日本におけるインクルーシブ教育システム推進の在り方や方向性を示すことが急務である。

本シンポジウムでは、予想される21世紀前半の日本の姿から、地域共生社会実現のための方策を構想し、ポジティブな社会構築論的理論としての「共生社会」を政治学的・経済的観点から概説する。次に、少子超高齢化と人口減少下における地域共生社会の構築に向け、インクルーシブ教育システムの役割を明確にするために参考事例として、資本主義と社会福祉の共生といわれる韓国の社会的企業の取組、就労移行支援事業・教育事業・インターネット事業を運営している日本の民間企業における取組、特別支援学校高等部生徒対象の技能検定や離島の特別支援学校分教室における地域共生社会のセンターとしての取組を紹介する。

## 【話題提供者の趣旨】

**1. 近江幸治「共生社会とは何か—その生成過程・背景とその後」:**「共生」とは、本来異質で対立し合うものが「共に生きる＝共存」する関係だが、単純に考えても、異質物が共存することは不可能に近い。経済の世界では、競争が前提である以上、勝者と敗者の出現は不可避だが、敗者（経済的貧困）を救うのは、政府の中心的役割でなければならない。そこで、市場経済を前提に、福祉政策を充実させようというのが、New Public Management 理論（「共生社会」理論）である。21世紀を「共生社会」（生き甲斐のある社会）として展望したとき、①Public面におけるPrivate Management手法の導入、②役割相乗型社会の実現、③修復的社会的実現の3つが政策として必要と考えられる。

**2. 姜乃榮「韓国の社会的企業の歴史と課題」:**市場原理優先の新自由主義的グローバル経済の時代を迎え、あらゆる階層に広がった雇用不安から「社会的に排除された人々」の就労が棚上げされ、雇用枠は「椅子とりゲーム」の激化にさらされている。韓国では「排除された人々」の労働統合型社会的企業の必要性が社会に認知され、2007年に社会的企業育成法が制定された。支援体制は継続的に整備されてきたが、韓国社会が抱える貧困や格差など、解決すべき

多くの課題があり、政府主導型の支援体制や市民主体性の問題、独自の経済力の弱さなどに起因する。韓国における社会的企業の歩みと現状、具体的な取り組みについて話題提供を行い、共生社会の意味を探求したい。

**3. 野口晃菜「日本での可能性—LITALICOの実践から」:**株式会社 LITALICO は、主に障害のある方を対象とした就労移行支援事業、教育事業、インターネット事業を運営している民間企業である。「障害のない社会をつくる」というビジョンの実現に向け、約1,600名の社員が約120拠点において、就労支援や学習支援を実施している。良質な支援を持続可能に提供するためには、根拠のある支援を提供し続けるための人材育成やノウハウの共有等の仕組みづくりが重要である。共生社会の実現のために社会的企業は、①課題解決のために効果検証し開発する、②理論と実践に基づきエビデンスを蓄積し、政策とつなげる、③社会実装をしていくための仕組みづくりができる、などの可能性がある。

**4. 竹林地毅「広島県特別支援学校技能検定の意義」:**広島県特別支援学校技能検定は、高等部生徒を中心として2011年度から実施され、2016年度の実検者数は、延べ2,000人を超えた。この検定は、生徒が学びの達成感・充実感を実感する等、キャリア発達を促す教育の場ともなっている。障害のある児童生徒のキャリア発達を促すこの取り組みは、企業参観日等の特別支援学校の情報発信等による企業への啓発、公民館等での喫茶接客・清掃の実習、小学生への清掃実技等の指導等へと広がってきている。瀬戸内海の大崎上島にある特別支援学校の分教室の生徒は、様々な活動により地域貢献する自分を実感している。技能検定の波及効果は、地域共生社会の実現にもつながり始めている。

## 【指定討論者の趣旨】

**1. 川合紀宗「地域共生社会実現のための教育の役割」:**未曾有の少子超高齢化と人口減少を迎えている日本では、通常の学級、通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校にかかわるすべての人（幼児児童生徒・教職員・保護者）が、学校を多様性社会の縮図として考え、学校と地域が相互に多様性を理解し、「共生」を志向しなければ、我が国の維持発展にもかかわる重大な危機に晒される可能性がある。

**2. 落合俊郎「地域共生社会と社会的企業」:**共生社会という用語は、情緒的なものではなく、政治・経済的歴史の流れの中で行き着いた合理的な政治の在り方の1つである。そこで、資本主義(会社)と社会福祉(施設)の折衷様式である社会的企業の現状と課題および今後の在り方について議論を深めることで、今後のインクルーシブ教育システム推進の在り方や方向性が示される可能性がある。

(MIYAMOTO Shoko, OHMI Koji, KWANG Naeyoung, NOGUCHI Akina, CHIKURINJI Takeshi, KAWAI Norimune, OCHIAI Toshiro)

## 実践ワークショップ 平成28年度採択研究成果発表

企画者	宮本昌子（日本特殊教育学会研究委員会，筑波大学人間系）
司会者	佐島毅（筑波大学人間系）
発表1	落合正彦（栃木県立那須特別支援学校） 自立活動の指導について —若手教員の専門性向上と自主的な研修組織の活性化に着目して—
発表2	川尻朋子（新潟県立柏崎市立柏崎小学校） 地域の通級指導教室と幼児発達支援機関との協働による言語・コミュニケーション障害のある子どもに対する一貫性のある支援プログラムの開発に関する研究
発表3	宮尾尚樹（長崎県立諫早特別支援学校） 重度・重複障害のある生徒の卒業後の実態の変容を把握する指標（試案）の作成 —肢体不自由特別支援学校卒業生を対象とした調査を通して—

## 【実践研究助成事業立ち上げの背景】

日本特殊教育学会は、2012年、つくば国際会議場にて第50回大会を開催しました。節目となる第50回大会では、記念大会として国際シンポジウムなど数多くの企画が生まれ、盛会にて閉じることができました。第50回大会の企画立案に当たり、学会としてのそれまでの50年を振り返ると同時に、今後50年をどのように展望するかについて検討することが求められました。このような中で、新たな課題への対応として、2012年度より独立英文誌 *Journal of Special Education Research* の刊行、及び2014年度より実践研究助成事業（以下、実践研究助成）を立ち上げました。前者は、学会活動の国際化への対応とするものであり、後者は本学会の会員構成において、特別支援学校教員等の実践研究者が多くを数えることに着目し、地域での特別支援教育の深化等に貢献するものです。いずれも将来を展望した挑戦的なものであり、関係の活動の活性化、深化が期待されているところです。

## 【実践研究助成事業の目的等】

さて、実践研究助成の目的は、地域における特別支援教育の発展と現職教員等正会員の専門性向上に寄与するため、現職教員等の優れた実践的研究に対して助成するものであり、本学会正会員である期間が3年以上の現職教員等(常勤)で、特別支援教育等の実践に携わる者であることを応募要件としております。共同研究者は、地域の特別支援教育等に関連する職にある者で、必ずしも正会員でなくてもよいとしています(実践研究助成内規)。すなわち、実践研究活動の地域化、共同化を目指すことを企図するものです。まさに学会活動におけるローカリゼーションに依拠するものといえます。実践研究助成に採択された研究は、1年間の研究の成果を報告するとともに、次年度の研究大会にて報告することが義務づけられています(実践研究助成内規)。この規定から、2017年開催の第55回大会では、2016年度の採択研究が報告することとなります。

なお、実践研究助成は、当面、試行を経ての再検討となる事業であることを確認いたしておきます。実践研究助成事業に対する会員の関心度、試行による成果の分析などを踏まえ、事業継続の判断が行われます。引き続き、本事業の継続のために、多くの会員の皆様から申請をいただくようお願いいたします。

## 【2016年度 実践研究助成の応募状況及び採択者等】

2016年度の実践研究助成の募集は、前年と同様、時間的にゆとりをもって臨むことができました。2015年9月初旬には学会HPに引き続き、機関紙「特殊教育学研究」に公募要領を掲載いたしました。よって①すべての学会員に実践研究助成の公募を周知すること、②12月初旬の締切までの3か月間、公募期間を設定することができました。その結果7件の応募があり、3件が採択されました。

2016年の採択研究は、1年間の研究の取組が行われ2017年4～5月に成果報告が提出されました。そしてここに研究成果発表に臨んだ次第です。あらためて成果発表者及び研究テーマを紹介すると、次の通りです。

## 【報告者と研究テーマ】

発表は各30分とし、すべての発表が終了後、フロアとの協議を行います。

## 〔発表1〕

落合正彦（栃木県立那須特別支援学校）  
『自立活動の指導について—若手教員の専門性向上と自主的な研修組織の活性化に着目して—』

## 〔発表2〕

川尻朋子（新潟県立柏崎市立柏崎小学校）  
『地域の通級指導教室と幼児発達支援機関との協働による言語・コミュニケーション障害のある子どもに対する一貫性のある支援プログラムの開発に関する研究』

## 〔発表3〕

宮尾尚樹（長崎県立諫早特別支援学校）  
『重度・重複障害のある生徒の卒業後の実態の変容を把握する指標（試案）の作成—肢体不自由特別支援学校卒業生を対象とした調査を通して—』

なお、発表者の所属は、応募時のものを掲載しました。

(OCHIAI Masahiko, KAWAJIRI Tomoko, MIYAO Naoki)



# 準備委員会企画

特別記念講演  
シンポジウム



# 発達障害者のそだち—教育、医療、社会—

- 第1部 9:30~11:30 講演「発達障害と支援の課題」  
講師 滝川一廣（学習院大学文学部心理学科）
- 第2部 12:30~14:30 講演「発達障害と愛着障害」  
講師 杉山登志郎  
（福井大学子どものこころの発達研究センター・浜松医科大学児童青年期精神医学講座）
- 第3部 15:00~17:00 座談会  
司会者 吉岡恒生（愛知教育大学特別支援教育講座・発達支援相談室）  
講師 杉山登志郎・滝川一廣

KEY WORDS: 発達障害, 愛着障害, 支援

## 【企画趣旨】

昨年8月、施行から10年余りを経て発達障害者支援法が改正施行されたが、発達障害者の支援をめぐる課題が山積している。雑誌『そだちの科学』（日本評論社）の編集人をはじめ日本の児童精神医学・発達臨床をリードされているお二人は、発達障害者とともに生きてこられた。また、杉山先生は名古屋大学・愛知県コロンビー・あいち小児保健医療総合センター等で、滝川先生は名古屋市立大学・名古屋市児童福祉センター・愛知教育大学等で臨床経験を重ねられており、ここ愛知県にゆかりの深い実践家である。特別支援教育の本格実施から10年、愛知の地で開催する特殊教育学会の記念講演・座談会にて、全国の特別支援教育に携わる人々が、発達障害者への理解を深める貴重な機会としたい。

## 【講演・座談会の要旨】

### 1. 滝川一廣「発達障害と支援の課題」

発達障害 developmental disorder とは、発達の定型的（つまり平均的）な order から何らかの「逸れ」をもった発達を指している。その「定型からの逸れ disorder」は、具体的には精神発達の「おくれ」として現れる。①どんなところの働きの発達が遅れるか、②どの程度遅れるかによって、私たちは発達障害を何種類かに分類しているけれども、精神発達の何らかのおくれであることが、すべての発達障害の共通項、あるいは本質と考えられる。

原因的に言えば、発達の行く手を妨げたり、その足を引っ張るような諸要因は、生物的・生得的なものであれ、社会的・環境的なものであれ、いずれも発達のおくれをもたらしたり重くしたりするリスクファクターとして働く。後者の例では、過度の養育不全が発達のおくれを生む事実が知られる。発達障害と社会的・環境的要因との関連性が全否定された一時期もあったけれど、社会的・環境的な要素をとらえることぬきには、発達障害を理解することも支援の道を見つかることもできない。

支援的に言えば、特別支援教育は、まさに社会的・環境的な関わりである。社会的・環境的な関わりを通して、「おくれ」をもった子どもたちの一人ひとりに対して、①その子の発達の足を引っばるものが見つかればそれを除く工夫をし、②その子の発達にいま何が必要な成長の糧かを見いだして与え、③発達のおくれが強いざるをえない様々な困難や苦しみからその子をできるだけ支え護ること。これらがだいたいな支援になる。

その支援のためには、定型発達とはいかなるプロセスで、それがまわりとの社会的・環境的な関わりにどれほど深く支えられているのかの理解が必要である。発達障害とされる子どもたちも基本的には同じプロセスを歩むからである。その歩みがゆっくりで定型（平均）より遅れるという差をもつに過ぎない（ただ人間世界は平均的なマジョリティに合わせて作られているため、その差が大きなハンディや生きづらさを強いてしまう）。精神発達をよく知ることで、はじめて発達障害への理解が深まる。

精神発達とは生まれおちた子どもが、すでに精神諸能力を身につ

けた大人たちとの親密な相互交流を介して、みずからも精神能力を発達させてゆく歩みである。その歩みを具体的にたどりながら、その歩みに遅れる子どもたちの体験世界への理解と、その歩みを少しでも支え促す支援の道を探ってみたい。

### 2. 杉山登志郎「発達障害と愛着障害」

発達障害と愛着障害とは、複雑な絡み合いが認められる（杉山、2008）。筆者は2001年、新しく発足した愛知県立の子ども病院「あいち小児保健医療総合センター（以下あいち小児センター）」に我が国の子どもの病院において初めて、子ども虐待の専門外来である「子育て支援外来」を開設した。この外来を開設し、真っ先に驚いたことは受診する被虐待児に、発達障害と診断される児童が少なくないことであった。その一方で、子ども虐待の後遺症である反応性愛着障害は、発達障害に非常によく似た臨床像を呈することが以前から知られていた。極めつきのネグレクト状態においてASDと鑑別が困難な状態になる場合がある。DSM-5（2013）で反応性愛着障害と呼ばれている病態にほぼ一致する。しかし一般的には、より軽症の対人関係障害を呈することになる。この場合、緊張と警戒が続く中で育つ結果、誰彼かまわず人にくっつく子どもが生まれる。特に学童期には、落ち着きのなさや集中困難として現れるので、ADHDに非常によく似た状態を呈する。DSM-5では脱抑制社会性関係症（disinhibited social engagement disorder）が登場した。安心がない状態であるから共感や社会性にも当然ながら欠落を生じることになる。つまり単なるADHDではなく、ADHDおよびASDの臨床像を呈するのである。

あいち小児センターでは心療科病棟における治療が開始された。すると入院治療を必要とするほどの問題行動を、幼児期あるいは小学校低学年に既に呈しているASD児の中に、母親もまたASDの認知特性を有するグループが存在することに気づいた。この理由は、母親側のASD特性、あるいはADHD特性の存在が、子どもの側の愛着形成の混乱を生じやすいからであると考えられた。症例を重ねるうちこの親の側に、父親にも母親にもうつ病や躁うつ病を有する者が極めて多いことに気づいた。さらに親の側にも被虐待の既往が極めて多いことにも気付かざるを得なかった。単なるうつ病ではなく、難治性の双極性障害類似の気分の上下が認められた。

今や学校現場で問題になるのは、単純な発達障害の児童ではない。それに愛着障害が掛け算になった複合的なケースであり子どものみならずその上の世代にも様々な問題が認められる。この講義では発達障害と愛着障害の複雑な絡み合いを解きほぐし、治療的な対応およびケアの実践について紹介を行う。

### 3. 座談会

お二人の先生それぞれの講演内容を踏まえつつ、「発達障害者のそだち—教育、医療、社会—」をテーマに、自由に語り合っていた。特別支援教育の未来への展望、特別支援教育の関係者へのメッセージなどお聞きしたい。

(SUGIYAMA Toshiro, TAKIKAWA Kazuhiro, YOSHIOKA Tsuneo)

## 特別支援教育のこれまでとこれから—愛知県を例として—

企画者	小川 純子（星城大学経営学部）、小田 侯朗、岩田 吉生（愛知教育大学）、
司会者	小川 純子（星城大学経営学部）
話題提供者	北島 淳（愛知県教育委員会特別支援教育課・課長） 岩室 徹（名古屋市立植田小学校・校長） 三浦 清邦（豊田市子ども発達センター・センター長）
指定討論者	佐藤 賢（愛知淑徳大学、愛知県特別支援教育推進連盟・理事長）

KEY WORDS: 特別支援教育、障害児の医療、振り返りと今後の展望

### 【企画趣旨】

平成19年の学校教育法の改正（文部科学省、2007）により、「特別支援教育」が法的に位置づけられ、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において特別支援教育が実施されるようになった。また、特別支援教育に関する知識・技能等は、すべての教員に求められる資質・能力の一部となった。平成29年度で11年目を迎えた特別支援教育は、これまでの成果と課題を真摯に検証する時期を迎えている。

愛知県内の教育委員会、幼稚園・保育園、小中学校、高校、特別支援学校、療育に関わる病院・発達センター等においても、障害のある子どもたちとその保護者に対して、様々な取組を行ってきた。共生社会を目指し、インクルーシブな教育体制の構築に向けた特別支援教育の10年を終えた節目に過去の成果と課題を振り返り、愛知の特別支援教育の新たな10年の展望を関係者と協議し共有を図ることが本シンポジウムの目的である。

### 【話題提供の要旨】

#### 1. 愛知県・つながりプランの取組（北島淳）

愛知県教育委員会では、特別支援教育全般にわたるさまざまな課題の解決をめざして「愛知県特別支援教育推進計画（愛知・つながりプラン）」を平成26年3月にとりまとめた。

本計画は10年程度先を見据えながら、今後重点的に取り組む期間を平成26年度から平成30年度までの5年間とした。内容は、「幼稚園・保育所、小中学校における特別支援教育の推進」「高等学校等における特別支援教育の推進」「特別支援学校における特別支援教育の推進」「関係機関と連携した就労支援」の4項目を柱としている。ここで取り上げている課題の中には、教育委員会や学校だけの努力では解決が難しいものが多くあり、医療・福祉・労働の各分野との連携とともに、地域の方々や企業、関係諸機関などの理解と協力が必要であること、また、今まで以上に、幼稚園・保育所、小中学校、高等学校、特別支援学校などの校種を超えた連携により、課題解決に向けて取り組んでいくことが大切と考えて取り組んできた。

シンポジウムでは計画策定から4年目を迎え、まとめの段階に入ることと今後を見据えた上で、上記の4本柱の進捗状況を端的に報告する。

#### 2. 名古屋市の特別支援教育の取組（岩室徹）

名古屋市立植田小学校の特別支援教育の学びの場としては、知的障害と自閉症・情緒障害の特別支援学級（7人在籍）、発達障害の通級指導教室（12人通級）が設置されている。また、障害のある子どもを支援する人的な配置としては、発達障害のある子どもに対応するための「発達障害対応支援員」（全校（園）配置）、学校での生活上の介助を必要とする子どものための「学校生活介助アシスタント」（希望校配置）が配置されている。

本校での特別支援教育推進の取組としては、「学習支援委員会」を設置し、全職員での児童についての共通理解を図ると共に、学

年単位での支援の検討をする機会を設けている。そして、必要な児童には、個別的教育支援計画、個別の指導計画を作成し、組織的、継続的に支援を行えるようにしている。また、名古屋市立の特別支援学校ごとに編成されている「特別支援教育のための専門家チーム」の派遣を依頼し、担任、通級指導担当、発達障害対応支援員が助言を受けられるようにしている。さらには、本校配置のスクールカウンセラー、各区に配置の「子ども応援委員会」とも連携を取るなどし、子どもの状況に合わせた支援や指導が行えるように努めている。

### 3. 重度の障害のある子どもの医療と特別支援教育への提言

（三浦清邦）

愛知県は教員が医療的ケアを実施していない（第3号研修を実施していない）少数派の県に入るが、積極的に医療的ケア必要児も学校現場で受け入れ、現場の教員も熱心に勉強し、教員と看護師とが連携して医療的ケア必要児の教育を実践してきた。愛知県の仕組みは、取組の開始は遅かったかもしれないが、最初から県の教育関係者と愛知県心身障害者コロニーを中心とした医療関係者が保護者も巻き込みながら作り上げてきたものである。慎重に、どんなに重度であっても安心・安全に通学できることを着実に実現してきたと言える。医療的ケア問題がでてきた1990年代と比べ医療的ケア対象児も多様化（通学場所、心身障害の内容や程度など）し、医療的ケアそのものも高度化・複雑化し、保護者付添い・看護師の確保など全国的に新たな課題が生じてきている。愛知県のこれまでの重症心身障害児、医療的ケア必要児への取組・現状と課題を全国の動きと比較しながら紹介するとともに、豊田市における就学前の重度の障害のある子どもの早期療育の仕組みを紹介したい。どんなに医療的ケアが必要な重度の子どもでも、障害のない子どもたちと一緒に、地域で当たり前療育・保育・教育を受けられる社会の実現に向けて、医療側から情報提供したい。

### 【指定討論の要旨】

#### 特別支援教育の現状と10年後の展望（佐藤賢）

愛知県の義務教育段階の児童生徒数は、この10年間で①特別支援学校が約1.1倍（高等部は知的障害特別支援学校の増加により約1.5倍）、②特別支援学級が約1.8倍、③通級による指導が約4.4倍となっている。こうした現状に加え、通常の学級に在籍している発達障害児の対応、通常の学級における合理的配慮、高等学校における特別支援教育の推進、関係機関と連携した就労支援、医療的ケアを含め重複障害児への教育環境の整備等の課題が山積している。

こうした現状を統計数値等から分析、整理しながら、インクルーシブ教育システムの構築に向けた10年後の特別支援教育の在り方について考えてみたい。

（OGAWA Junko, ODA Yoshiaki, IWATA Yoshinari, KITA JIMA Jun, IWAMURO Toru, MIURA Kiyokuni, SATO Masaru）

## 特別支援教育における教科書のこれまで、これから

企画・司会	相羽 大輔	(愛知教育大学)
話題提供者	中野 泰志	(慶應義塾大学)
	近藤 武夫	(東京大学先端科学技術研究センター)
	石島 美也子	(弁護士)
指定討論者	金森 克浩	(日本福祉大学)
	氏間 和仁	(広島大学)

KEY WORDS: デジタル教科書、教科用特定図書、教科書バリアフリー法

### 【企画趣旨】

特別支援教育元年(平成19年)以降、当該分野では「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」(教科書バリアフリー法)が施行され、「教科用特定図書等」の普及が進められてきた。また近年はICT教育の台頭に伴い、デジタル教科書の問題が議論されるようになった。文部科学省の「デジタル教科書の位置づけに関する検討会議」(最終まとめ)では、デジタル教科書は紙の検定教科書と学習内容が同一コンテンツであり、現状では紙と併用することが適当とする一方、障害のある児童生徒のうち、デジタル教科書を使用した学習が効果的な児童生徒に対しては、より積極的な使用が望ましいという方向性も示された。

そのような中、特別支援教育の現場ではすでに児童生徒の個別のニーズに応じた様々な取り組みがなされている。例えば、ボランティア団体や図書館等では児童生徒が利用する拡大教科書や音声教材を作成するために、データ管理機関から教科書デジタルデータを借用・活用する実態がある。また、児童生徒の中には、私的複製の範囲の中で検定教科書をスキャンし、デジタル教材として活用する事例もみられる。

今後、より多くの障害のある児童生徒が教科書デジタルデータを活用するには、公衆配信システムを整備・構築することが必要であるが、各学校の基礎的環境整備、セキュリティ、教員や障害のある児童生徒のリテラシー、発達に応じた効果的な指導実践の集積等は課題といえよう。更に教科書デジタルデータは著作権法と関連づけ、問題のないように活用すべきであり、法律の観点からも議論が必要といえる。

そこで、本シンポジウムでは特別支援教育における教科書の問題を、これまでとこれからの観点から整理し、「教科用特定図書等」の位置づけや指導の在り方について議論を深める。

【話題提供1】教科書バリアフリー法は特別支援教育にどのような貢献をしたのか? --現状と課題--

いわゆる教科書バリアフリー法が平成20年に施行されて10年になる。この法律は、障害のある児童生徒が検定教科書に代えて使用する「教科用特定図書等」の普及促進を図り、児童生徒が障害その他の特性の有無にかかわらず十分な教育を受けられる学校教育の推進に資することを目的としている。本法が施行された結果、ほとんどの教科用図書発行者が拡大教科書を発行するようになった。また、教科用図書発行者による電磁的記録(教科書デジタルデータ)を活用した音声教材等の発行・使用実績も増加している。

本報告では、教科書バリアフリー法が施行されたことで、特別支援教育にどのような貢献があったのか、また、今後に向けてどのような課題があるのかについて、実態調査等の結果を交えながら、紹介する。

(中野 泰志)

【話題提供2】情報アクセシビリティと教育保障

教材等へのアクセシビリティ確保が文科省対応指針にも記載されるようになったが、初等中等教育機関内ではその概念は一般的ではない。教室でその確保を実現する技術的基盤整備を学校内に義務化または実効的に促進する制度が存在しておらず、その整備が待たれる。教科書のアクセシビリティ保障は、実際には情報保障のボトムラインに過ぎない。日本では検定教科書でようやく取り組みが広がる段階に過ぎないが、本来的には、副教材や試験など、学力評価や入試、資格試験など、競争的場面での権利保障を可能にする体制の実装が不可欠である。また、本来、ICTによるアクセシビリティ保障は、適切な教育方法や教授法と結びつき、障害のある児童生徒・学生への教育参加を最大化するための基盤である。しかしICT利用を前提とした教授法の体系化は、国際的に不備な状況にあり、研究実践の蓄積が必要とされている。発表ではこれらの状況に関し本学が運営するAccessReadingやDO-IT Japanの取り組み等を通じ概観する。

(近藤 武夫)

【話題提供3】教科書デジタルデータ活用の注意点と著作権法上の課題

教科書デジタルデータの提供は、教科書のすべての著作権者の権利を制限することにより実現したものである。教育の機会均等の要請と著作権者の保護とのバランスをとるために、提供に関する手続が厳格に定められ、教科書デジタルデータの他用途への流用や第三者への流出を防止するための予防措置がとられている。教科書デジタルデータを活用する際に著作権侵害行為をすることのないように、教科書の著作権の成り立ちを踏まえて注意点を確認する。

また、教科書バリアフリー法に基づく教科書デジタルデータの提供義務、拡大図書等の作成のための複製権の制限(著作権法33条の2)、及び視覚障害者等の情報アクセス環境充実のための複製・自動公衆送信権の制限(同法37条3項)の関係性や著作権法改正の方向性について触れる。

(石島 美也子)

【指定討論】

特別支援教育におけるICTの活用や指導法、デジタル教科書の活用や評価を中心に長年実践や研究が続けられている金森克浩氏、並びに、氏間和仁氏には、提供された3つの話題について、国内外の動向や教育現場での活用可能性の観点を取り入れつつ、論点を整理いただく予定である。更に、今後、「教科用特定図書等」や教科書デジタルデータを今後特別支援教育の中でどのように位置づけ、実際の指導でどう活用すべきかについて、そのあり方を提起いただく予定である。

(AIBA Daisuke, NAKANO Yasushi, KONDO Takeo, ISHIJIMA Miyako, KANAMORI Katsuhiko, UJIMA Kazuhito)

## 発達障害および軽度知的障害のある生徒の就労に向けた取り組み

企画者	飯塚 一裕、吉岡 恒生、岩田 吉生（愛知教育大学）
司会者	飯塚 一裕（愛知教育大学）
話題提供者	衛藤 真有（愛知県立豊田高等特別支援学校・高等部主事） 三澤 弘一（中電ウイング株式会社・専務取締役） 多久島睦美（NPO全国LD親の会・副理事長・保護者）
指定討論者	山崎 尚樹（就労移行支援事業所「マーム」所長）

KEY WORDS: 就労支援, 知的障害, 発達障害

### 【企画趣旨】

障害者の自立にとって、特別支援学校を卒業する段階における就労や進学、社会福祉サービス等への移行が重要な課題となる。軽度の知的障害のある生徒の場合、特別支援学校の卒業が教育段階を終える時期となり、教育の場から労働生活の場へと移行する節目に当たり、一般就労を目指した職業的自立が課題となる。一方、発達障害の特性のある生徒の場合は、高校・大学で学び、卒業段階にて、就職を検討することとなる。近年では、文部科学省「自立・社会参加に向けた高等学校段階における特別支援教育充実事業」において、高等学校段階において発達障害のある生徒が自立し社会参加を図るために、キャリア教育・職業教育を推進し、福祉や労働等の関係機関と連携しながら就労支援の充実を図る取り組みが進められている。

本シンポジウムでは、愛知県の軽度知的障害および発達障害のある生徒の就労に向けた取り組みについて、話題提供者のそれぞれの立場の意見を共有し、就労における課題と今後の教育・支援の在り方について検討することを目的とする。

### 【話題提供1】愛知県立豊田高等特別支援学校の取り組み

本校は、県内初の比較的軽い知的障害者を対象とした高等部のみの産業科の特別支援学校である。今年度、開校から26年目を迎え、1,100人を超える卒業生が、県内で納税者として活躍している。一学年の定員は、一クラス9名の6クラスで合計54名であり、全員の生徒が卒業時に一般就労を目指している。

この5年間の就職率は、ほぼ99%である。職種は、自動車産業が盛んな地域であることから、車関係の製造業に約65%の生徒が就職している。約6割が正社員雇用で、給与も一般の高校生と同じくらいの金額を支給されている。残りの35%は、店舗などのバックヤードや清掃関係の仕事で、パートや契約社員として雇用される生徒が多い。働く条件は、障害者だからといって特別に配慮されることはない。

三年間で、社会で働き続けることができる生徒を育てるため、「当たり前前」を「当たり前」にキーワードに生徒を育てている。また、全員が部活動に加入し、体力作りにも励んでいる。数年前から、生徒の自己認識を深めるための取組にも力を入れている。ここでは、生徒を育てるための職員の研修や、生徒の声、授業実践の状況について話題を提供したい。（衛藤真有）

### 【話題提供2】チャレンジドが生き生きと働くために

当社は平成13年4月、重度身体障がいと知的障がいがある方々の雇用促進を目的に、中部電力株100%出資の特例子会社として設立し、平成15年4月に社員38名（障がい者：チャレンジド27名）により事業を開始した。

「共生」と「人間尊重」を基本理念とし、ここで働く誰もが「力と心」を合わせて、夢に挑みながら共に成長し、人と環境に優しい、地域社会に貢献できる会社を目指して取り組んできた。

平成29年4月現在、社員114名（障がい者：チャレンジド76

名）の規模に成長した。

就労するうえで特に大切にしていることは、働く「喜び」を感じられることである。これは、社会の中で人の役に立ち、必要とされることを実感することである。人は皆、誰かに必要とされ、それに応えることで、大きなエネルギーが生まれ、同時に喜びを感じることができる。仲間と協力して仕事をなすとげ、共に成長していく充実感は一ひとしおである。

そのために、一人ひとりの能力や特性を最大限に発揮して仲間とともに働き、成長できる環境づくりに取り組んでいる。

（三澤弘一）

### 【話題提供3】教育から就業への移行における課題

発達障害者の就労自立は大きな課題となっており、学齢期から自立を見据えた教育・支援が不可欠である。（現状では、障害に気づかれず、未診断・未支援のまま社会人となり、人間関係で不適応を起こしてしまったり、離職を繰り返したりという『大人の発達障害』も社会問題となっている。）NPO全国LD親の会では、2009・2016年度に18歳以上の子どもを持つ会員を対象に「教育から就業への移行実態調査（全国調査）」を行なった。調査結果から、LD等発達障害のある人の青年期以降の高等教育・就業・生活の実態や就業に至るまでの経過、諸制度の利用状況などが明らかになった。一般的に「障害の受容」「特性の理解」と言われるが、本人の苦しさ・生きづらさに実感をもって共感することは保護者でも難しい。子どもに良かれと思いながら、結果的に本人を追い詰めてしまったり、二次障害によって深刻さが増してしまうケースもある。二次障害を防ぎながら、いかに本人の自己理解を深め、どう本人なりの“社会との折り合いのつけ方”を見つけていくのか…。会員調査のデータを基に、自立・社会参加のための具体的な支援ニーズ（環境調整・合理的配慮等）について考えたい。

（多久島睦美）

### 【指定討論】

私共がよく口にするフレーズとして「働くことは生きること」がある。どのような生活を送りたいかは、どのように働くかが重要な鍵になると考えている。障がいのある方の就労に関する制度の充実も図られ、働きやすい環境が整いつつある。では、このような現状の中で、私たちはどのような取り組みを行なっていくべきなのだろうか。今回は「就労」をキーワードに家族、学校、職場、そして関係機関がどのように連携していくのか役割を明確にすることによって、障がいのある方が職業準備性を高め、職業自立を果たし、そして、安定就労につながることができるかについて考え、皆さんが社会の一員となり「良かった」と思える生活を送るための取り組みについて議論できればと考えている。

（山崎尚樹）

(IIZUKA Kazuhiro, YOSHIOKA Tsuneo, IWATA Yoshinari, ETOU Mayu, MISAWA Kouichi, TAKUSHIMA Mutsumi, YAMAZAKI Naoki.)

# 自主シンポジウム



自主シンポジウム1-1

9月16日(土) 13:00～15:00 会議室131+132

聴覚障害教育におけるキューサインの再評価  
日本語学習支援に重きをおきながら

企画者：脇中起余子（筑波技術大学）  
司会者：長南 浩人（筑波技術大学）  
話題提供者：長南 浩人（筑波技術大学）  
脇中起余子（筑波技術大学）  
原島 恒夫（筑波大学）  
指定討論者：板橋 安人（元筑波大学附属聴覚特別支援学校）  
松本 末男（筑波大学）

自主シンポジウム1-2

9月16日(土) 13:00～15:00 会議室133+134

『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメント  
— 通級指導教室における読み書きスキルの活用に基づく支援について—

企画者：中 知華穂（日本学術振興会）  
銘荊 実土（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科）  
司会者：銘荊 実土（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科）  
話題提供者：小池 敏英（東京学芸大学教育学部）  
緒方 直彦（東京都教育庁）  
中 知華穂（日本学術振興会）  
雲井 未歎（鹿児島大学教育学部）  
成田 まい（NPO法人スマイルプラネット）  
指定討論者：須藤 史晴（東京学芸大学大学院教育学研究科・世田谷区立砧小学校）

自主シンポジウム1-3

9月16日(土) 13:00～15:00 会議室135

第11回緘黙自主シンポジウム  
生涯にわたる場面緘黙の全貌の理解と支援体制の構築に向けて

企画者：浜田 貴照（かんもくの会）  
藤田 継道（兵庫教育大学名誉教授）  
司会者：藤田 継道（兵庫教育大学名誉教授）  
話題提供者：小橋さつき（場面緘黙成人当事者の家族）  
入江 紗代（かんもくの声（場面緘黙経験者））  
指定討論者：奥田 健次（行動コーチングアカデミー）

自主シンポジウム1-4

9月16日(土) 13:00~15:00 会議室141+142

インクルーシブ教育推進のための交流及び共同学習(I)

企画者：浅間 耕一 (大阪教育大学附属特別支援学校)  
山本 利和 (大阪教育大学)  
司会者：山本 利和 (大阪教育大学)  
話題提供者：浅間 耕一 (大阪教育大学附属特別支援学校)  
高岸 康文 (大阪教育大学附属平野中学校)  
土居 由雅 (八尾市立志紀小学校)  
山口 龍太 (大阪教育大学大学院教育学研究科)  
秋山 由佳 (大阪教育大学大学院教育学研究科)  
指定討論者：富永 光昭 (大阪教育大学)  
大崎 博史 (国立特別支援教育総合研究所)

自主シンポジウム1-5

9月16日(土) 13:00~15:00 会議室143

支援会議を活性化させる「ファシリテーション」

企画者：三田地真実 (星槎大学大学院教育実践研究科)  
司会者：岡村 章司 (兵庫教育大学大学院)  
三田地真実 (星槎大学大学院教育実践研究科)  
話題提供者：三田地真実 (星槎大学大学院教育実践研究科)  
実政 修 (広島県立尾道特別支援学校しまなみ分校)  
岡村 章司 (兵庫教育大学大学院)  
田熊 立 (千葉県発達障害者支援センター)  
縄岡 好晴 (千葉県発達障害者支援センター)  
指定討論者：竹林地 毅 (広島大学大学院教育学研究科)

自主シンポジウム1-6

9月16日(土) 13:00~15:00 会議室211-1

発達障害傾向のある医療系大学生の修学上の問題と支援

企画者：水野 智美 (筑波大学 医学医療系)  
徳田 克己 (筑波大学 医学医療系)  
司会者：西館 有沙 (富山大学 人間発達科学部)  
話題提供者：水野 智美 (筑波大学 医学医療系)  
坪見 利香 (浜松医科大学 医学部)  
八田早恵子 (名桜大学 人間健康学部)  
安心院朗子 (目白大学 保健医療学部)  
徳田 克己 (筑波大学 医学医療系)

自主シンポジウム1-7

9月16日(土) 13:00~15:00 会議室211-2

「自分づくり」を支援する教育実践の創造と展開

企画者：渡部 昭男（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）  
話題提供者：三木 裕和（鳥取大学地域学部）  
大宮とも子（神戸大学附属特別支援学校）  
指定討論者：赤木 和重（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）  
越野 和之（奈良教育大学）

自主シンポジウム1-8

9月16日(土) 13:00~15:00 会議室212

知的障害教育における学力問題を問う！Ⅳ

企画者：半澤 嘉博（東京家政大学）  
司会者：岩井 雄一（元十文字学園女子大学）  
話題提供者：日高 浩一（東京都立水元特別支援学校）  
中西 郁（十文字学園女子大学）  
指定討論者：渡邊 健治（畿央大学）  
丹羽 登（関西学院大学）

自主シンポジウム1-9

9月16日(土) 13:00~15:00 会議室221

ASD当事者を特別支援学校外部専門員として活用した経験と効果

企画者：綿貫 愛子（NPO法人リトルプロフェッサーズ）  
司会者：田中 雅子（東京都立中野特別支援学校）  
話題提供者：片岡 聡（NPO法人リトルプロフェッサーズ）  
綿貫 愛子（NPO法人リトルプロフェッサーズ）  
星井 純子（大田区教育委員会発達支援アドバイザー）  
指定討論者：奥住 秀之（東京学芸大学）  
黒田 美保（広島修道大学）

自主シンポジウム1-10

9月16日(土) 13:00~15:00 会議室222

インクルーシブな保育の実現  
保育者がサポーターとして機能するために

企画者：守 巧（東京家政大学）  
話題提供者：広瀬 由紀（植草学園大学）  
若月 芳浩（玉川大学）  
指定討論者：太田 俊己（関東学院大学）

自主シンポジウム1-11

9月16日(土) 13:00~15:00 会議室223

知的障害者の自己決定の選択行為形成に向けた学習支援  
生涯学習機会での実践を通して

- 企画者：今枝 史雄（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科）  
司会者：城田 和晃（東京都立矢口特別支援学校）  
話題提供者：小笠原 拓（株式会社ドコモ・プラスハーティ）  
今枝 史雄（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科）  
指定討論者：原 智彦（あきる野市障がい者就労・生活支援センターあすく）  
菅野 敦（東京学芸大学教育実践研究支援センター）

自主シンポジウム1-12

9月16日(土) 13:00~15:00 会議室224-1

発達障害児を支える就学移行支援  
応用行動分析学による展開

- 企画者：山本 淳一（慶應義塾大学）  
司会者：山本 淳一（慶應義塾大学）  
話題提供者：石川菜津美（東京大学医学部附属病院）  
石塚 祐香（筑波大学）  
野田 航（大阪教育大学）

自主シンポジウム1-13

9月16日(土) 13:00~15:00 会議室224-2

児童生徒の「内面の育ち」に着目し「十分な教育」の実現を目指すキャリア発達支援

- 企画者：菊地 一文（植草学園大学）  
話題提供者：藤川 雅人（青森県教育庁）  
山本 仁（金沢大学附属特別支援学校）  
川口 信雄（横浜市立若葉台特別支援学校）  
指定討論者：長沼 俊夫（日本体育大学）  
丹野 哲也（文部科学省）

自主シンポジウム1-14

9月16日(土) 13:00~15:00 会議室231

文脈に埋め込まれた学習をどう支援するか？  
希釈飲料（「カルピス」）作りを通じたコミュニケーション発達支援プログラム開発の試み

- 企画者：長崎 勤（実践女子大学生活科学部）  
司会者：吉井 勘人（山梨大学大学院総合研究部教育学域）  
話題提供者：小谷 恵（アサヒグループホールディングス(株)コアテクノロジー研究所）  
長崎 勤（実践女子大学生活科学部）  
小島 拓也（習志野市立袖ヶ浦西小学校）  
仲野 みこ（筑波大学附属大塚特別支援学校）  
指定討論者：田島 信元（白百合女子大学人間総合学部）

自主シンポジウム1-15

9月16日(土) 13:00~15:00 会議室232

子どもの「夢」「願い」から始まる授業づくり

企画者：高津 梓 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
司会者：工藤 傑史 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
話題提供者：深津 達也 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
佐藤 義竹 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
安達 敬子 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
宇佐美太郎 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
指定討論者：小島 道生 (筑波大学人間系)  
柘植 雅義 (筑波大学人間系)

自主シンポジウム1-16

9月16日(土) 13:00~15:00 会議室233

発達障害学生支援への学生サポーター導入の可能性と限界  
可視性が異なる障害学生への支援に対する認識と学生サポーターの実施報告から

企画者：横田 晋務 (九州大学基幹教育院)  
田中 真理 (九州大学)  
話題提供者：横田 晋務 (九州大学基幹教育院)  
永瀬 開 (山口県立大学社会福祉学部)  
面高 有作 (九州大学基幹教育院)  
指定討論者：佐々木銀河 (筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター)

自主シンポジウム1-17

9月16日(土) 13:00~15:00 会議室234-1

全ての児童生徒学生にとって自己実現に役立ち主体的に楽しむ「読み書き」や「学習」とは③  
-読み書き困難と評価・学習意欲やストレスの関係-

企画者：川崎 聡大 (東北大学大学院教育学研究科)  
加藤 哲則 (愛媛大学教育学部特別支援教育講)  
司会者：松崎 泰 (東北大学加齢医学研究所)  
荻布 優子 (横浜市西部地域療育センター)  
話題提供者：川崎 聡大 (東北大学大学院教育学研究科)  
加藤 哲則 (愛媛大学教育学部特別支援教育講)  
松崎 泰 (東北大学加齢医学研究所)  
高橋 知音 (信州大学学術研究院 教育学系)  
鈴木 真人 (兵庫県立神戸聴覚特別支援学校)  
指定討論者：樋口 一宗 (東北福祉大学)

自主シンポジウム1-18

9月16日(土) 13:00~15:00 会議室234-2

教育現場における‘情動調整’を目指した取り組みⅡ  
情動調整を窓口とした子ども理解とアプローチ

企画者：香野 毅 (静岡大学教育学部)  
司会者：香野 毅 (静岡大学教育学部)  
話題提供者：島田 直人 (静岡市立賤機南小学校)  
深澤 雄紀 (静岡県立藤枝特別支援学校)  
指定討論者：船橋 篤彦 (広島大学大学院教育学研究科)

自主シンポジウム2-1

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室131+132

行動問題を示す自閉症児に対する保護者支援の在り方2  
学校現場で「できること」

企画者：岡村 章司 (兵庫教育大学大学院)  
司会者：井澤 信三 (兵庫教育大学大学院)  
話題提供者：熊谷 正美 (横浜市立霧が丘義務教育学校)  
藤本 優子 (神戸市立友生支援学校)  
有川 宏幸 (新潟大学教育学部)  
指定討論者：小笠原 恵 (東京学芸大学)

自主シンポジウム2-2

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室133+134

東京都立知的障害特別支援学校小・中学部における副籍制度10年間の成果と今後の展望

企画者：荒川 早月 (東京都立高島特別支援学校)  
深谷 純一 (東京都教育庁)  
話題提供者：佐々木裕美 (東京都立高島特別支援学校)  
齋藤 仁美 (渋谷区教育委員会事務局)  
川村 由紀 (東京都立高島特別支援学校)  
指定討論者：半澤 嘉博 (東京家政大学家政学部)

自主シンポジウム2-3

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室135

遺伝性疾患の障害特性理解に基づく支援のあり方

企画者：嶋崎まゆみ (兵庫教育大学)  
加藤 美朗 (関西福祉科学大学)  
話題提供者：堤 俊彦 (大阪人間科学大学)  
木戸 貴之 (社会福祉法人北摂杉の子会)  
指定討論者：藤田 継道 (臨床行動分析学研究所)

自主シンポジウム2-4

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室141+142

主体的な学びを促す生活単元学習の授業づくりの在り方

企画者：磯山多可子（千葉大学教育学部附属特別支援学校）  
細川かおり（千葉大学）  
司会者：磯山多可子（千葉大学教育学部附属特別支援学校）  
話題提供者：前田 忠彦（熊本大学教育学部附属特別支援学校）  
佐々木大輔（千葉大学教育学部附属特別支援学校）  
石田 哲也（千葉大学教育学部附属特別支援学校）  
指定討論者：菅野 敦（東京学芸大学教育実践研究支援センター）

自主シンポジウム2-5

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室143

発達障害を伴う吃音の指導・支援(2)  
予後を見据えた支援の在り方

企画者：宮本 昌子（筑波大学 人間系）  
司会者：宮本 昌子（筑波大学 人間系）  
話題提供者：小林 宏明（金沢大学 人間社会研究域学校教育系）  
前新 直志（国際医療福祉大学 保健医療学部）  
宮本 昌子（筑波大学 人間系）  
指定討論者：酒井奈緒美（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）

自主シンポジウム2-6

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室211-1

支援につながる検査結果の効果的なフィードバックについて  
KABC-IIを中心に検査結果を保護者や当事者など検査の非専門家へ分かりやすく伝えるには

企画者：星井 純子（大田区教育委員会 発達障害支援アドバイザー）  
話題提供者：熊上 崇（立教大学）  
坂内 仁（北海道教育庁胆振教育局特別支援教育スーパーバイザー）  
吉村 亜紀（世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」）  
指定討論者：東原 文子（聖徳大学）

自主シンポジウム2-7

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室211-2

試験問題のマルチメディアデイジー化に関する実践的研究

企画者：金森 裕治（大阪教育大学）  
司会者：楠 敬太（大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター）  
話題提供者：井阪 幸恵（和泉市立国府小学校）  
森 慶子（香芝市立下田小学校）  
柳原 伸子（東御市立和小学校）  
金森 裕治（大阪教育大学）  
指定討論者：神山 博（青森公立大学 経営経済学部）

自主シンポジウム2-8

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室212

発達障害と不器用(8)

企画者：奥住 秀之 (東京学芸大学)  
平田 正吾 (茨城キリスト教大学)  
司会者：田中 敦士 (琉球大学)  
話題提供者：増田 貴人 (弘前大学)  
平田 正吾 (茨城キリスト教大学)  
指定討論者：田中 敦士 (琉球大学)

自主シンポジウム2-9

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室221

特別支援教育に関する情報発信

－地方大学における特別支援教育情報の活用とその在り方－

企画者：金森 克浩 (日本福祉大学)  
司会者：金森 克浩 (日本福祉大学)  
話題提供者：梅田 真理 (宮城学院女子大学)  
太田 容次 (京都ノートルダム女子大学)  
指定討論者：丹羽 登 (関西学院大学)

自主シンポジウム2-10

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室222

「絵本の読み合い遊び」

特別支援学校での実践と個性化する子どもの育ち

企画者：石川由美子 (宇都宮大学教育学部)  
司会者：石川由美子 (宇都宮大学教育学部)  
話題提供者：仲野 みこ (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
齋藤 有 (聖徳大学児童学部)  
水谷 勉 (株ビー・アール・システムズ)  
指定討論者：田島 信元 (白百合女子大学大学院)

自主シンポジウム2-11

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室223

特別支援教育における主体的・探求的な学習を考える(2)

学習への参加と意味づけの過程に着目して

企画者：司城紀代美 (宇都宮大学大学院教育学研究科)  
司会者：岡澤 慎一 (宇都宮大学教育学部)  
話題提供者：絵面 悦子 (栃木県立のざわ特別支援学校)  
井澤 光子 (那須塩原市立黒磯小学校)  
指定討論者：村山 拓 (東京学芸大学総合教育科学系)  
司城紀代美 (宇都宮大学大学院教育学研究科)

自主シンポジウム2-12

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室224-1

機能的アセスメントによる行動支援計画をどう評価するか  
行動問題に対応する教職員の研修の客観的評価の在り方

企画者：遠藤 愛 (星美学園短期大学)  
加藤 哲文 (上越教育大学)  
若林 上総 (国立特別支援教育総合研究所)  
話題提供者：加藤 慎吾 (東京学芸大学教育学部)  
大久保賢一 (畿央大学)  
加藤 哲文 (上越教育大学)  
若林 上総 (国立特別支援教育総合研究所)  
指定討論者：神山 努 (国立特別支援教育総合研究所)

自主シンポジウム2-13

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室224-2

ASDのコミュニケーションと意図  
「自閉症は津軽弁を話さない」から意図の問題へ

企画者：松本 敏治 (教育心理支援教室・研究所 ガジュマルつがる)  
司会者：菊地 一文 (植草学園大学)  
話題提供者：松本 敏治 (教育心理支援教室・研究所 ガジュマルつがる)  
清野 宏樹 (北海道釧路養護学校)  
指定討論者：菊地 一文 (植草学園大学)

自主シンポジウム2-14

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室231

保育者養成課程で身につけてほしい障害児支援の実践力

企画者：小林 徹 (郡山女子大学短期大学部)  
栗山 宣夫 (育英短期大学)  
橋本 陽介 (宮城大学)  
司会者：檜木 暢子 (愛媛大学)  
話題提供者：細谷 一博 (北海道教育大学)  
齊藤 勇紀 (新潟青陵大学)  
相楽 典子 (仙台青葉学院短期大学)  
横畑 泰希 (東京未来大学)  
指定討論者：七木田 敦 (広島大学)  
加藤 勝弘 (八戸学院短期大学)

自主シンポジウム2-15

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室232

ICFと合理的配慮と特別支援教育(5)

企画者：徳永亜希雄（横浜国立大学）  
司会者：徳永亜希雄（横浜国立大学）  
話題提供者：徳永亜希雄（横浜国立大学）  
隈田原 聡（宮崎県立児湯るびなす支援学校）  
西村 修一（前・栃木県立岡本特別支援学校）  
達 直美（東京都立光明学園）  
堺 裕（帝京大学）  
指定討論者：齊藤 博之（山形県立ゆきわり養護学校）

自主シンポジウム2-16

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室233

性犯罪・トラブルを犯した知的・発達障害のある人への地域での包括支援  
－性犯罪加害再犯防止プログラムSOTSEC-IDの実践から特別支援教育・福祉実践の課題を探る－

企画者：堀江まゆみ（白梅学園大学）  
話題提供者：平井 威（明星大学）  
藤間 英之（秋川流域生活支援ネットワーク）  
山田 恵太（アリエ法律事務所）  
指定討論者：金子 陽子（法務省高松矯正管区）

自主シンポジウム2-17

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室234-1

重度・重複障害児への指導の充実  
目標設定と指導の重点化

企画者：西垣 昌欣（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）  
司会者：西垣 昌欣（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）  
話題提供者：清野 祥範（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）  
池田 彩乃（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）  
指定討論者：川間健之介（筑波大学人間系）

自主シンポジウム2-18

9月16日(土) 15:30~17:30 会議室234-2

青年期発達障害者の内面世界を大切にした支援  
セルフアドボカシースキルを育て、主観的幸福感を高めるために

企画者：小島 道生（筑波大学人間系）  
片岡 美華（鹿児島大学教育学系）  
司会者：小島 道生（筑波大学人間系）  
片岡 美華（鹿児島大学教育学系）  
話題提供者：小島 道生（筑波大学人間系）  
片岡 美華（鹿児島大学教育学系）  
北岡 大輔（和歌山大学教育学部附属特別支援学校）  
指定討論者：別府 哲（岐阜大学教育学部）

自主シンポジウム3-1

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室131+132

聴覚障害教育における言語運用力育成(その3)

企画者：高井 小織 (京都光華女子大学医療福祉学科言語聴覚専攻)  
村松 弘子 (愛知県立岡崎聾学校)  
司会者：高井 小織 (京都光華女子大学医療福祉学科言語聴覚専攻)  
話題提供者：佐藤 文昭 (筑波大学附属聴覚特別支援学校)  
高野ちとせ (新潟市立鏡淵小学校難聴通級指導教室)  
足立 貢 (大阪市立北中道小学校難聴学級)  
指定討論者：藤本 裕人 (帝京平成大学)

自主シンポジウム3-2

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室133+134

通常学級における特別支援教育の実際Ⅱ  
対話的な学びを促す指導の工夫

企画者：青山 真二 (北海道教育大学)  
司会者：太田千佳子 (北海道教育大学附属特別支援学校)  
話題提供者：上野 樹 (花巻市立新堀小学校)  
工藤 陽介 (上山市立宮川小学校)  
指定討論者：青山 真二 (北海道教育大学)

自主シンポジウム3-3

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室135

ベトナムとカンボジアの特別ニーズ教育の動向  
—インクルーシブ教育をめぐる—

企画者：黒田 学 (立命館大学産業社会学部)  
司会者：黒田 学 (立命館大学産業社会学部)  
話題提供者：黒田 学 (立命館大学産業社会学部)  
間々田和彦 (王立ブノンペン大学教育学部)  
指定討論者：藤井 克美 (日本福祉大学社会福祉学部)

自主シンポジウム3-4

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室141+142

インクルーシブ教育システム構築のための課題と取組  
連続した多様な学びの場における教育の充実のために

企画者：渡邊 章 (植草学園大学)  
竹林地 毅 (広島大学)  
司会者：渡邊 章 (植草学園大学)  
話題提供者：久嶋 泰子 (豊川市立代田小学校)  
後藤 照代 (千葉県立桜が丘特別支援学校)  
菊地 一文 (植草学園大学)  
齊藤 宇開 (たすく株式会社)  
指定討論者：竹林地 毅 (広島大学)

自主シンポジウム3-5

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室143

スノーズレンの実践の現状と今後の展望

企画者：柳本 雄次 (東京家政大学)  
司会者：大崎 博史 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)  
話題提供者：奥山 敬 (東京都立光明学園)  
遠 直美 (東京都立光明学園)  
西塚 裕人 (埼玉県立越谷特別支援学校)  
西木貴美子 (東大阪大学短期大学部)  
西村 知哉 (聖マッセヤ心豊苑)  
柳本 雄次 (東京家政大学)  
指定討論者：大崎 博史 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)  
後上 鐵夫 (大阪体育大学)

自主シンポジウム3-6

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室211-1

熊本地震と特別支援教育

企画者：菊池 哲平 (熊本大学教育学部)  
古田 弘子 (熊本大学教育学部)  
司会者：古田 弘子 (熊本大学教育学部)  
話題提供者：木村 文彦 (熊本県立熊本支援学校PTA・国立病院機構熊本医療センター)  
菊池 哲平 (熊本大学教育学部)  
大杉 成喜 (皇學館大学)  
中村 敬子 (九州ルーテル学院大学)  
綾戸ゆかり (熊本市立城西小学校)  
指定討論者：田中 真理 (九州大学基幹教育院)

自主シンポジウム3-7

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室211-2

小学校低学年における資質・能力の育成に関する研究  
-「話し合い活動」を中核に置いた実践分析を通して-

企画者：若松 昭彦 (広島大学大学院教育学研究科)  
若松 美沙 (福山市立大学大学院教育学研究科)  
司会者：横山 謙治 (前広島県公立小学校校長)  
話題提供者：今崎 智代 (岡山市立竜之口小学校)  
湯山 桃子 (岡山市立竜之口小学校)  
指定討論者：川原 陽子 (庄原市立美古登小学校)

自主シンポジウム3-8

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室212

各教科の指導における目標設定と指導の重点化

企画者：成田美恵子 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
司会者：西垣 西垣 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
話題提供者：成田美恵子 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
小山 信博 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
指定討論者：下山 直人 (筑波大学人間系・筑波大学附属久里浜特別支援学校)

自主シンポジウム3-9

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室221

肢体不自由教育における「主体的な学び」を考える(1)  
-「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に基づく肢体不自由教育の実践-

企画者：船橋 篤彦 (広島大学大学院教育学研究科)  
話題提供者：内田 俊行 (広島県教育委員会特別支援教育課)  
山田 裕一 (広島県立広島特別支援学校・広島大学大学院教育学研究科)  
大畑 美帆 (広島県立福山特別支援学校)  
三戸 昭代 (広島県立広島特別支援学校)  
指定討論者：一木 薫 (福岡教育大学特別支援教育講座)

自主シンポジウム3-10

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室222

特別支援教育専攻学生を対象とした障害理解のための教材開発  
-その7: アレルギー反応・症状の理解を中心にした教材-

企画者：村上 由則 (宮城教育大学大学院教育学研究科)  
話題提供者：八島 猛 (上越教育大学大学院教育学研究科)  
大江 啓賢 (山形大学地域教育文化学部)  
菊池 紀彦 (三重大学教育学部)  
指定討論者：寺本 淳志 (宮城教育大学教育学部)

自主シンポジウム3-11

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室223

大学等における障害学生のキャリア発達支援  
聴覚・視覚障害学生を中心に

企画者：石原 保志 (筑波技術大学)  
司会者：石原 保志 (筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター)  
話題提供者：河野 純大 (筑波技術大学産業技術学部)  
宮城 愛美 (筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター)  
宇都野康子 (筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター)  
石原 保志 (筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター)  
指定討論者：水野 映子 (株式会社第一生命経済研究所)

自主シンポジウム3-12

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室224-1

合理的配慮におけるICTツールの活用と教育実践Ⅲ

企画者：石飛 了一 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
生田 茂 (大妻女子大学社会情報学部)  
司会者：根本 文雄 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
話題提供者：山下さつき (東京都立府中けやきの森学園)  
遠藤 貴裕 (千葉県立八千代特別支援学校)  
五月女智子 (宇都宮大学教育学部附属特別支援学校)  
富山 仁子 (栃木県立富屋特別支援学校)  
指定討論者：是枝喜代治 (東洋大学ライフデザイン学部)  
土井 幸輝 (国立特殊教育総合研究所)

自主シンポジウム3-13

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室224-2

当事者からみた特別支援教育

企画者：栗田 季佳 (三重大学)  
話題提供者：戸田 二郎 (NPO法人障害者自立センターつかいぼう)  
林 智宏 (保護者)  
多本 司 (三重県立かがやき特別支援学校)

自主シンポジウム3-14

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室231

先天盲ろうにおけるケースストーリー研究Ⅰ  
弱視ろうから全盲ろうとなった事例に対する長期的支援からの考察

企画者：中村 保和 (群馬大学)  
菅井 裕行 (宮城教育大学)  
司会者：土谷 良巳 (東京家政学院大学)  
話題提供者：中村 保和 (群馬大学)  
菅井 裕行 (宮城教育大学)  
指定討論者：岡澤 慎一 (宇都宮大学)  
松田 直 (高崎健康福祉大学)

自主シンポジウム3-15

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室232

特別支援教育に「予想外」を取り戻す  
即興・自己表現・発達

企画者：赤木 和重 (神戸大学)  
司会者：赤木 和重 (神戸大学)  
話題提供者：村上 公也 (キミヤーズ塾)  
指定討論者：青山 信吾 (ノートルダム清心女子大学)

自主シンポジウム3-16

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室233

知的障害特別支援学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践

企画者：渡邊 貴裕 (順天堂大学スポーツ健康科学部)  
話題提供者：石川 敦士 (東京都立練馬特別支援学校)  
古川 文彦 (千葉県立東金特別支援学校)  
尾高 邦生 (東京学芸大学附属特別支援学校)  
指定討論者：牛尾真一郎 (千葉大学教育学部附属特別支援学校)

自主シンポジウム3-17

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室234-1

保護者対応と相談支援研究の到達と課題  
実践にみる支援アプローチとシステムの検証

企画者：橋本 創一 (東京学芸大学教育実践研究支援センター)  
司会者：橋本 創一 (東京学芸大学教育実践研究支援センター)  
話題提供者：栴 千晶 (東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)  
                  吉利 宗久 (岡山大学教育学部)  
                  真鍋 健 (千葉大学教育学部)  
                  堂山 亜希 (目白大学人間学部)

自主シンポジウム3-18

9月17日(日) 9:30~11:30 会議室234-2

地域で生きるということ  
民間企業で働く知的障害のある青年とその父親の語りから学ぶ

企画者：杉山 章 (東海学院大学)  
                  杉山 章 (東海学院大学)  
司会者：杉山 章 (東海学院大学)  
話題提供者：田口めぐみ (益田どんぐりの会, 岐阜県心身障害児教育研究会)  
                  中島 光陽 (株式会社ハウテック)  
                  中島 茂美 (ホープフルハーツ)  
指定討論者：神野 幸雄 (岐阜大学)

自主シンポジウム4-1

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室131+132

聴覚障害学生の意思表示支援  
- 支援担当教職員の役割とは -

企画者：白澤 麻弓 (筑波技術大学)  
                  甲斐 更紗 (九州大学)  
                  吉川あゆみ (関東聴覚障害学生サポートセンター)  
司会者：有海 順子 (山形大学)  
                  甲斐 更紗 (九州大学)  
話題提供者：太田 琢磨 (愛媛大学 バリアフリー推進室)  
                  木谷 恵 (立命館大学 障害学生支援室)  
                  益子 徹 (日本社会事業大学大学院)  
                  松崎 丈 (宮城教育大学)  
指定討論者：金澤 貴之 (群馬大学)

自主シンポジウム4-2

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室133+134

教育内容と学習評価を重視したICT活用の授業実践を考える  
特別支援教育における連携と実践のシステム構築について

企画者：川池 順也 (東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)  
橋本 創一 (東京学芸大学教育実践研究支援センター)  
司会者：橋本 創一 (東京学芸大学教育実践研究支援センター)  
話題提供者：泉 真由子 (横浜国立大学教育学部)  
谷口 明子 (東洋大学文学部)  
坂爪 一幸 (早稲田大学教育・総合科学学術院)  
指定討論者：橋本 創一 (東京学芸大学教育実践研究支援センター)

自主シンポジウム4-3

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室135

病弱教育におけるICTの効果的な活用  
病気の子どもを取り巻く状況の変化を踏まえた病弱教育の充実と多様化する教育ニーズ  
に対応するため、ICTを効果的に活用する

企画者：丹羽 登 (関西学院大学教育学部)  
司会者：島 治伸 (徳島文理大学)  
話題提供者：福本 徹 (国立教育政策研究所)  
滝川 国芳 (東洋大学)  
指定討論者：萩庭 圭子 (文部科学省)

自主シンポジウム4-4

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室141+142

交流及び共同学習の事例を探求する  
知的障害児・健常児にとっての交流の目的と評価

企画者：楠見 友輔 (東京大学大学院)  
中村 晋 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
司会者：中村 晋 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
話題提供者：石飛 了一 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
磯山多可子 (千葉大学教育学部附属特別支援学校)  
楠見 友輔 (東京大学大学院教育学研究科)  
指定討論者：米田 宏樹 (筑波大学人間系)

自主シンポジウム4-5

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室143

私立大学における特別支援教育教員養成の現状と課題

企画者：高橋 幸子 (國學院大學人間開発学部)  
司会者：神田 基史 (帝京大学教育学部)  
話題提供者：森下由規子 (明星大学教育学部)  
別府さおり (東京成徳大学応用心理学部)  
宮崎 眞 (明治学院大学心理学部)  
指定討論者：明官 茂 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)

自主シンポジウム4-6

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室211-1

発達障害児者の行動問題から教育・福祉の充実を目指すPBS(11)  
行動支援の専門性を共有する仕組み作り

企画者：平澤 紀子 (岐阜大学)  
小笠原 恵 (東京学芸大学)  
司会者：小笠原 恵 (東京学芸大学)  
話題提供者：原口 英之 (国立精神・神経医療研究センター)  
田中 敦子 (徳島県立阿南支援学校ひわさ分校)  
野口 幸弘 (西南学院大学)  
指定討論者：大久保賢一 (畿央大学)

自主シンポジウム4-7

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室211-2

わが国の特別支援学校及び障害者施設等におけるスヌーズレンの教育・福祉実践  
これまでの取り組みと今後の展望

企画者：姉崎 弘 (常葉大学教育学部)  
司会者：井上 和久 (大和大学教育学部)  
話題提供者：姉崎 弘 (常葉大学教育学部)  
藤澤 憲 (和歌山県立和歌山さくら支援学校)  
川合 由美 (浜松市発達医療総合福祉センター)  
桃井 克将 (徳島文理大学保健福祉学部)  
嶺 也守寛 (東洋大学ライフデザイン学部)  
指定討論者：高橋 眞琴 (鳴門教育大学大学院)

自主シンポジウム4-8

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室212

インクルーシブ教育時代のセンター的機能と地域支援  
大学にある障害児教育関連センターの地域支援を通して

企画者：林 安紀子 (東京学芸大学/国立大学法人障害児教育関連センター連絡協議会)  
司会者：菅野 敦 (東京学芸大学)  
話題提供者：野崎 義和 (宮城教育大学)  
相澤 宏充 (福岡教育大学)  
川合 紀宗 (広島大学)  
指定討論者：柘植 雅義 (筑波大学)

自主シンポジウム4-9

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室221

生活を豊かにしていく力を育む授業づくり(1)

～知的障がい教育における主体的・対話的で深い学びの具現化をめざして～

企画者：白府 士孝 (北海道教育大学附属特別支援学校)  
細谷 一博 (北海道教育大学函館校)  
北村 博幸 (北海道教育大学函館校)  
司会者：太田千佳子 (北海道教育大学附属特別支援学校)  
話題提供者：中村耕太郎 (北海道教育大学附属特別支援学校)  
高石 純 (北海道教育大学附属特別支援学校)  
清水 拓海 (北海道教育大学附属特別支援学校)  
指定討論者：矢口 明 (名寄市立大学)

自主シンポジウム4-10

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室222

「障害児との関係のなかでひらかれる意味世界の共有」をめぐる

企画者：田中 真理 (九州大学)  
司会者：田中 真理 (九州大学)  
話題提供者：岡村 章司 (兵庫教育大学)  
廣澤 満之 (白梅学園大学)  
岡澤 慎一 (宇都宮大学)  
指定討論者：浜田寿美男 (奈良女子大学・立命館大学)  
井上 雅彦 (鳥取大学)

自主シンポジウム4-11

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室223

肢体不自由児へのキャリア教育の検討Ⅲ

特別支援学校(肢体不自由児(者))の卒業後の社会参加にむけた指導の在り方

企画者：類瀬 健二 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
司会者：西垣 昌欣 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
話題提供者：類瀬 健二 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
岡部 盛篤 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
指定討論者：分藤 賢之 (文部科学省初等中等教育局特別支援教育課)

自主シンポジウム4-12

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室224-1

知的障害特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントⅡ

学習評価を教育課程改善につなげるポイントの整理

企画者：吉田 道広 (熊本県教育委員会)  
司会者：西村 亮 (熊本県立菊池支援学校)  
話題提供者：前田 忠彦 (熊本大学教育学部附属特別支援学校)  
嶋村 武 (熊本県立荒尾支援学校)  
橘 英之 (熊本県立熊本支援学校)  
指定討論者：一木 薫 (福岡教育大学)

自主シンポジウム4-13

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室224-2

キャリア教育における実践と課題PartⅦ  
障害の重い児童生徒のキャリア発達支援について考える

企画者：松本 和久 (岐阜聖徳学園大学)  
          遠 直美 (東京都立光明学園)  
司会者：遠 直美 (東京都立光明学園)  
話題提供者：加嶋みずほ (東京都立高島特別支援学校)  
              石井 幸仁 (三重県立杉の子特別支援学校)  
              今野由紀子 (宮城県立迫支援学校)  
指定討論者：菊地 一文 (植草学園大学)

自主シンポジウム4-14

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室231

触覚と特別支援教育(2)  
- 2次元・2.5次元・3次元の触覚芸術 -

企画者：韓 星民 (福岡教育大学)  
話題提供者：中村 正之 (常盤大学)  
              青木 心恵 (Divalize Co., Ltd.)  
              片山 博詞 (福岡市立花畑中学校)  
指定討論者：根本 文雄 (筑波大学附属大塚特別支援学校)

自主シンポジウム4-15

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室232

この子らの今と明日のハッピーを支える授業実践⑩  
「わかる・できる・使える」学習指導の実践と考察(2)

企画者：平間 俊二 (北海道白樺高等養護学校)  
          市澤 豊 (星槎大学)  
司会者：富山 聖子 (北海道新篠津高等養護学校)  
話題提供者：中村 章宣 (北海道中札内高等養護学校)  
              清水 雅明 (北海道雨竜高等養護学校)  
指定討論者：太田 俊己 (関東学院大学)  
              松井由紀夫 (北海道手稲養護学校)

自主シンポジウム4-16

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室233

魅力ある併置型特別支援学校を目指す学校経営Ⅳ

企画者：田村康二郎 (東京都立光明学園)  
司会者：諏訪 肇 (東京都中部学校経営支援センター)  
話題提供者：阿部 智子 (東京都立多摩桜の丘学園)  
              庄司 伸哉 (東京都立鹿本学園)  
              藤上 実紀 (東京都立鹿本学園)  
              田村康二郎 (東京都立光明学園)  
指定討論者：丹野 哲也 (文部科学省初等中等教育局特別支援教育課)

自主シンポジウム4-17

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室234-1

障害のある子どもと「ともに楽しむ」実践と「チーム学校」の充実  
「トータル支援」の実践と「向かう力」により育まれるもの

企画者：浦崎 武（琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター）  
司会者：浦崎 武（琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター）  
話題提供者：崎濱 朋子（読谷村立古堅小学校）  
武田喜乃恵（琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター）  
大城麻紀子（沖縄県立鏡が丘特別支援学校）  
村上 公也（キミヤーズ塾）  
指定討論者：別府 哲（岐阜大学教育学部）  
湯浅 恭正（中部大学現代教育学部）

自主シンポジウム4-18

9月17日(日) 12:30~14:30 会議室234-2

共生社会の実現のために今、何ができるか  
すべての子どもを対象とした地域支援の最前線

企画者：清水 聡（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）  
司会者：後藤 貴久（東京都立青鳥特別支援学校）  
話題提供者：星 茂行（葛飾区教育委員会）  
日高 浩一（東京都立水元特別支援学校）  
奥野 英子（元筑波大学大学院教授）  
指定討論者：打浪 文子（淑徳大学短期大学部）  
猪瀬 義明（川村学園女子大学）

自主シンポジウム5-1

9月17日(日) 15:00~17:00 会議室131+132

聴覚障害教育における日本語獲得・習得・運用に関する支援の実際を踏まえて(その10)  
今後の日本語学習支援の在り方の検討

企画者：井坂 行男（大阪教育大学教育学部）  
藤本 裕人（帝京平成大学現代ライフ学部）  
司会者：井坂 行男（大阪教育大学教育学部）  
話題提供者：井坂 行男（大阪教育大学教育学部）  
藤本 裕人（帝京平成大学現代ライフ学部）  
加藤 哲則（愛媛大学教育学部）  
指定討論者：大西 孝志（東北福祉大学教育学部）  
脇中起余子（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター）

自主シンポジウム5-2

9月17日(日) 15:00～17:00 会議室133+134

我が国における障害学生支援の現状と課題(2)

企画者：池谷 航介 (東京大学先端科学技術研究センター／国立民族学博物館)  
司会者：池谷 航介 (東京大学先端科学技術研究センター／国立民族学博物館)  
話題提供者：白澤 麻弓 (筑波技術大学)  
佐藤 剛介 (名古屋大学)  
森脇 愛子 (東京学芸大学)  
指定討論者：近藤 武夫 (東京大学)

自主シンポジウム5-3

9月17日(日) 15:00～17:00 会議室135

インクルーシブ教育システムにおける美術(1)  
－特別支援学校および卒業後の多様な実践事例の検討－

企画者：池田 吏志 (広島大学)  
司会者：池田 吏志 (広島大学)  
話題提供者：柴田 洋佑 (広島県立福山北特別支援学校)  
北島 珠水 (秋田県立栗田支援学校)  
高橋 智子 (静岡大学)  
池田 吏志 (広島大学)  
大江登美子 (佐賀女子短期大学)  
指定討論者：池永 真義 (至学館大学)

自主シンポジウム5-4

9月17日(日) 15:00～17:00 会議室141+142

インクルーシブ教育システムを支える特別支援学校と小・中学校の連携を巡って

企画者：大内 進 (国立特別支援教育総合研究所)  
司会者：大内 進 (国立特別支援教育総合研究所)  
話題提供者：後藤 貴久 (東京都立青島特別支援学校)  
清水 聡 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
山中ともえ (調布市立飛田給小学校)  
指定討論者：香川 邦生 (教育支援研究会)

自主シンポジウム5-5

9月17日(日) 15:00～17:00 会議室143

健康行動科学の病弱教育への適用

企画者：小畑 文也 (山梨大学)  
司会者：小畑 文也 (山梨大学)  
話題提供者：石川 慶和 (静岡大学)  
小畑 文也 (山梨大学)  
武田 鉄郎 (和歌山大学)  
谷口 明子 (東洋大学)  
指定討論者：島 治伸 (徳島文理科大学)

自主シンポジウム5-6

9月17日(日) 15:00~17:00 会議室211-1

障がい者生涯学習支援の展望と課題

「全国障がい者生涯学習支援研究会」の発足にあたって

企画者：田中 良三（愛知県立大学名誉教授）  
平井 威（明星大学）  
司会者：國本 真吾（鳥取短期大学）  
話題提供者：小畑 耕作（大和大学）  
菅野 敦（東京学芸大学）  
小林 繁（明治大学）  
指定討論者：津田 英二（神戸大学）

自主シンポジウム5-7

9月17日(日) 15:00~17:00 会議室211-2

当事者から「青年期の学び」の意義を考える

本音で語る、私たちにとって学びはなんであったか？これからの学びはどうあるべきか？

企画者：寺門 宏倫（茨城県立つくば特別支援学校）  
司会者：船橋 秀彦（福祉型専攻科シャンティつくば）  
寺門 宏倫（茨城県立つくば特別支援学校）  
話題提供者：古田 暁（福祉型専攻科シャンティつくば）  
滝本 徹（きのかわ福祉会シャイン）  
川添 智（きのかわ福祉会シャイン）  
指定討論者：赤木 和重（神戸大学大学院 人間発達環境学研究科）

自主シンポジウム5-8

9月17日(日) 15:00~17:00 会議室212

指導案作成や読み込みを通じて授業や学級経営を考える(5)

企画者：佐藤 晋治（大分大学）  
清野 宏樹（北海道釧路養護学校）  
司会者：佐藤 晋治（大分大学）  
話題提供者：清野 宏樹（北海道釧路養護学校）  
青山 新吾（ノートルダム清心女子大学）  
菊地 一文（植草学園大学）  
指定討論者：牧野 泰美（国立特別支援教育総合研究所）  
佐藤 晋治（大分大学）

自主シンポジウム5-9

9月17日(日) 15:00~17:00 会議室221

3Dプリンタによる教材・支援具の可能性

企画者：西村 健一（香川県立高松養護学校）  
司会者：西村 健一（香川県立高松養護学校）  
話題提供者：西村 健一（香川県立高松養護学校）  
山口 飛（沖縄県立大平特別支援学校）  
田中 栄一（国立病院機構八雲病院）  
指定討論者：金森 克浩（日本福祉大学）

自主シンポジウム5-10

9月17日(日) 15:00~17:00 会議室222

知的障害特別支援学校における自立活動の指導

企画者：下山 直人（筑波大学人間系・附属久里浜特別支援学校）  
司会者：高尾 政代（筑波大学附属久里浜特別支援学校）  
話題提供者：岡田 拓也（愛知県立みあい特別支援学校）  
辰巳 武志（奈良県立二階堂養護学校）  
野口 明紀（鳥取県教育委員会）  
指定討論者：柳澤亜希子（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）

自主シンポジウム5-11

9月17日(日) 15:00~17:00 会議室223

共生社会の形成に向けた附属特別支援学校の挑戦2  
今日的な教育課題への取り組み

企画者：渡部 匡隆（横浜国立大学）  
柘植 雅義（筑波大学）  
霜田 浩信（群馬大学）  
話題提供者：土屋 和彦（北海道教育大学附属特別支援学校）  
滝澤 健（香川大学教育学部附属特別支援学校）  
三澤 哲彦（群馬大学教育学部附属特別支援学校）  
早川 愛美（群馬大学教育学部附属特別支援学校）  
指定討論者：明官 茂（国立特別支援教育総合研究所）

自主シンポジウム5-12

9月17日(日) 15:00~17:00 会議室224-1

特別支援学校の「センター的機能」の現状と課題(6)  
「インクルーシブ教育」と「センター的機能」

企画者：田中 雅子（東京都立中野特別支援学校）  
司会者：奥住 秀之（東京学芸大学）  
話題提供者：高橋 浩平（杉並区立杉並第四小学校）  
滝坂 信一（元帝京科学大学）

自主シンポジウム5-13

9月17日(日) 15:00~17:00 会議室224-2

重複障害教育における教育課程の改善Ⅷ  
卒業後の経年的変化を踏まえたカリキュラムマネジメント

企画者：一木 薫（福岡教育大学）  
司会者：古川 勝也（西九州大学）  
話題提供者：木下裕一郎（長崎県教育庁特別支援教育室）  
宮尾 尚樹（長崎県立諫早特別支援学校）  
指定討論者：太田 俊己（関東学院大学）

自主シンポジウム5-14

9月17日(日) 15:00~17:00 会議室231

地域に点在して学ぶ視覚障害児・者への支援(1)  
視覚障害児の合理的配慮の質・量を高めるための支援

企画者：中野 泰志 (慶應義塾大学)  
氏間 和仁 (広島大学)  
司会者：永井 伸幸 (宮城教育大学)  
話題提供者：氏間 和仁 (広島大学)  
山本 利和 (大阪教育大学)  
韓 星民 (福岡教育大学)  
指定討論者：田中 良広 (帝京平成大学)

自主シンポジウム5-15

9月17日(日) 15:00~17:00 会議室232

特別支援教育における同僚性を介した教師の学びと教師文化の継承と創造  
—よりよい教育をするために、何を、どのように学ぶことができるのか?—

企画者：吉井 勘人 (山梨大学大学院総合研究部教育学域)  
話題提供者：田上 幸太 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
中込 昭彦 (山梨大学教育学部附属特別支援学校)  
原 満登里 (山梨大学教育学部附属特別支援学校)  
水野 高明 (鹿児島県総合教育センター特別支援教育研修課)  
指定討論者：別府さおり (東京成徳大学応用心理学部)

自主シンポジウム5-16

9月17日(日) 15:00~17:00 会議室233

教職大学院での学びを現職教員はどのように活かしているか

企画者：神田 基史 (帝京大学教育学部)  
司会者：神田 基史 (帝京大学教育学部)  
話題提供者：石川 敦士 (東京都立練馬特別支援学校)  
八代 史子 (武蔵野市立境南小学校)  
野毛 美穂 (神奈川県立相模原中央支援学校)  
西島 明佳 (多摩市立多摩永山中学校)  
指定討論者：諏訪 肇 (東京都中部学校経営支援センター)  
荒巻 恵子 (帝京大学教職大学院)

自主シンポジウム5-17

9月17日(日) 15:00~17:00 会議室234-1

特別支援学校における自立と社会参加をめざした進路指導と就労支援  
—附属特支におけるキャリア発達を促す授業づくりとネットワークの構築—

企画者：尾高 邦生 (東京学芸大学附属特別支援学校)  
司会者：尾高 邦生 (東京学芸大学附属特別支援学校)  
話題提供者：永井 崇雄 (熊本大学教育学部附属特別支援学校)  
佐野 哲広 (静岡大学教育学部附属特別支援学校)  
岸本 信忠 (岡山大学教育学部附属特別支援学校)  
指定討論者：丹野 哲也 (文部科学省)  
橋本 創一 (東京学芸大学)

自主シンポジウム5-18

9月17日(日) 15:00~17:00 会議室234-2

家庭・相談支援事業所・サービス提供事業所・学校園・自治体  
連携を促進し維持させるもの(2)

企画者：大石 博司 (合同会社KS)  
司会者：佐原恒一郎 (千葉県立矢切特別支援学校)  
話題提供者：大石 博司 (合同会社KS)  
沼田 慧 (社会福祉法人もえぎの会)  
指定討論者：大久保賢一 (畿央大学)

自主シンポジウム6-1

9月18日(祝・月) 9:30~11:30 会議室131+132

発達障害を併せ有する聴覚障害児への理解と支援  
—「ダンボ」の活動を通して—

企画者：大鹿 綾 (筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター)  
話題提供者：喜屋武 睦 (東京学芸大学大学院連合)  
鈴木友里恵 (東京学芸大学大学院)  
池田 早希 (埼玉県立和光特別支援学校)  
指定討論者：森 せい子 (社会福祉法人聴力障害者情報文化センター)

自主シンポジウム6-2

9月18日(祝・月) 9:30~11:30 会議室133+134

自立活動の確かな実践と教師の専門性向上を目指した取組Ⅰ  
実態把握から指導目標・内容の設定プロセスに焦点をあてて

企画者：田添 敦孝 (東京都立小平特別支援学校武蔵分教室)  
古川 勝也 (西九州大学子ども学部)  
司会者：一木 薫 (福岡教育大学特別支援教育講座)  
話題提供者：渡辺 政治 (さいたま市立さくら草特別支援学校)  
藤原 啓子 (奈良県立奈良養護学校)  
佐藤 貴宣 (東京都立久我山青光学園)  
指定討論者：分藤 賢之 (文部科学省)

自主シンポジウム6-3

9月18日(祝・月) 9:30~11:30 会議室135

わが国における場面緘黙研究の現在と今後の方向を考えるⅢ

企画者：高木 潤野 (長野大学社会福祉学部)  
司会者：藤田 継道 (臨床行動分析学研究所)  
話題提供者：梶 正義 (関西国際大学人間科学部)  
高木 潤野 (長野大学社会福祉学部)  
白井なずな (信州上田医療センター)  
伊藤佐陽子 (京都西山短期大学仏教学科)  
成瀬 智仁 (神戸国際大学経済学部)  
指定討論者：角田 圭子 (かんもくネット)

自主シンポジウム6-4

9月18日(祝・月) 9:30~11:30 会議室141+142

高等学校における通級による指導をどう考えるか  
生徒の実態に応じた必要かつ効果的な支援の在り方を探る

企画者：若林 上総 (国立特別支援教育総合研究所)  
話題提供者：笹森 洋樹 (国立特別支援教育総合研究所)  
三島 節子 (NPO法人フトゥーロ)  
近藤 幸男 (横浜市立鴨志田中学校)  
指定討論者：井上 秀和 (宮崎県教育委員会)  
山崎真理子 (島根県教育委員会)  
笹谷 幸司 (神奈川県立足柄高等学校)

自主シンポジウム6-5

9月18日(祝・月) 9:30~11:30 会議室143

教員養成大学における障害学生支援  
卒業生当事者の提言から成果と課題を考える

企画者：岩田 吉生 (愛知教育大学特別支援教育講座)  
青柳まゆみ (愛知教育大学特別支援教育講座)  
相羽 大輔 (愛知教育大学特別支援教育講座)  
司会者：青柳まゆみ (愛知教育大学特別支援教育講座)  
話題提供者：原 和大 (愛知県立岡崎聾学校)  
田中 宏史 (豊橋市役所)  
溝上 弥生 (愛知県立名古屋盲学校)  
指定討論者：井坂 行男 (大阪教育大学特別支援教育講座)  
青柳まゆみ (愛知教育大学特別支援教育講座)

自主シンポジウム6-6

9月18日(祝・月) 9:30~11:30 会議室211-1

ダイバーシティに基づくインクルーシブ教育の検討Ⅱ

企画者：渡邊 健治 (畿央大学)  
司会者：渡邊 健治 (畿央大学教育学部)  
話題提供者：渡邊 健治 (畿央大学教育学部)  
大久保賢一 (畿央大学教育学部)  
田中 敦士 (琉球大学教育学部)  
指定討論者：丹羽 登 (関西学院大学教育学部)  
村山 拓 (東京学芸大学教育学部)

自主シンポジウム6-7

9月18日(祝・月) 9:30~11:30 会議室211-2

障害のある子どもとともに生きる家族のQOL  
- 支援ニーズについて考える -

企画者：阿部美穂子（北海道教育大学）  
川住 隆一（東北福祉大学）  
司会者：川住 隆一（東北福祉大学）  
話題提供者：小林 保子（鎌倉女子大学）  
江利川ちひろ（かるがもCPキッズ）  
阿部美穂子（北海道教育大学）  
指定討論者：野口 和人（東北大学教育学研究科）

自主シンポジウム6-8

9月18日(祝・月) 9:30~11:30 会議室212

これからの作業学習の意義と有効性をめぐって  
生徒主体の作業学習の追求

企画者：太田 俊己（関東学院大学 教育学部）  
話題提供者：田所 明房（植草学園大学）  
高倉 誠一（明治学院大学）  
指定討論者：中坪 晃一（植草学園）

自主シンポジウム6-9

9月18日(祝・月) 9:30~11:30 会議室221

青年期の学びの効果  
～教育年限延長がもたらすもの～

企画者：小畑 耕作（大和大学教育学部）  
司会者：辻 和美（特別支援学校聖母の家学園）  
話題提供者：安達 俊昭（やしま高等専修学校）  
澤田淳太郎（鳥取大学附属特別支援学校）  
澤谷 常清（元三愛学舎特別支援学校）  
指定討論者：伊藤 修毅（日本福祉大学）

自主シンポジウム6-10

9月18日(祝・月) 9:30~11:30 会議室222

障害のある子どもの学習評価と授業改善(7)  
障害の重い子どもにとっての学びの連続性をどう考えるか

企画者：徳永 豊（福岡大学）  
話題提供者：古山 勝（千葉県立立香取特別支援学校）  
田中 信利（北九州市立大学）  
指定討論者：吉川 知夫（国立特別支援教育総合研究所）

自主シンポジウム6-11

9月18日(祝・月) 9:30~11:30 会議室223

特別支援教育からの発信！仲間関係によって学びを深める「協同学習」の成果と展望(2)

企画者：中村 晋 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
司会者：中村 晋 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
話題提供者：上仮屋祐介 (鹿児島大学教育学部附属特別支援学校)  
川越 正仁 (鹿児島大学教育学部附属特別支援学校)  
佐藤 義竹 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
漆畑 千帆 (千葉県立市川特別支援学校)  
指定討論者：米田 宏樹 (筑波大学人間系)

自主シンポジウム6-12

9月18日(祝・月) 9:30~11:30 会議室224-1

「個別の指導計画」に基づく授業づくりのあり方

企画者：岡部 盛篤 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
司会者：西垣 昌欣 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
話題提供者：田村 裕子 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
杉林 寛仁 (筑波大学附属桐が丘特別支援学校)  
指定討論者：川間健之介 (筑波大学人間系)

自主シンポジウム6-13

9月18日(祝・月) 9:30~11:30 会議室224-2

知的障害・発達障害児へのセルフ・マネジメントによる支援2  
－セルフ・マネジメント適用条件と課題－

企画者：霜田 浩信 (群馬大学教育学部)  
五十嵐一徳 (高崎健康福祉大学)  
井澤 信三 (兵庫教育大学)  
太田 研 (星美学園短期大学)  
五味 洋一 (筑波大学)  
司会者：井澤 信三 (兵庫教育大学)  
話題提供者：竹内 康二 (明星大学)  
太田 研 (星美学園短期大学)  
若林 功 (東京通信大学設立準備室)  
指定討論者：大石 幸二 (立教大学)

自主シンポジウム6-14

9月18日(祝・月) 9:30～11:30 会議室231

障害のある子どもの構成学習と概念形成

－触運動感覚フィードバックのある教材と学びの主体性－

企画者：福田 奏子 (東京都立葛飾盲学校)  
佐島 毅 (筑波大学人間系)  
司会者：福田 奏子 (東京都立葛飾盲学校)  
佐島 毅 (筑波大学人間系)  
話題提供者：吉岡 陶子 (千葉県立千葉盲学校)  
福田 奏子 (東京都立葛飾盲学校)  
金井 沙彩 (東京都立葛飾盲学校)  
岡宮 彩奈 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)  
指定討論者：市川奈緒子 (白梅学園大学子ども学科)

自主シンポジウム6-15

9月18日(祝・月) 9:30～11:30 会議室232

ミライの体育館：先進的ICT活用による教育環境の支援

企画者：鈴木 健嗣 (筑波大学)  
司会者：根本 文雄 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
話題提供者：鈴木 健嗣 (筑波大学)  
山本 淳一 (慶應義塾大学)  
指定討論者：宮本 信也 (筑波大学)  
杉田 葉子 (筑波大学附属大塚特別支援学校)  
石飛 了一 (筑波大学附属大塚特別支援学校)

自主シンポジウム6-16

9月18日(祝・月) 9:30～11:30 会議室233

特別支援教育の授業づくりと授業分析(4)

～「主体的な学び」と「集団」「教師」の関わりを再考する～

企画者：新井 英靖 (茨城大学教育学部)  
湯浅 恭正 (中部大学)  
高橋 浩平 (杉並区立杉並第四小学校)  
司会者：吉田 茂孝 (大阪教育大学)  
話題提供者：小川 英彦 (愛知教育大学)  
櫻井 貴大 (岡崎女子短期大学)  
成田 孝 (前鹿児島国際大学)

自主シンポジウム6-17

9月18日(祝・月) 9:30~11:30 会議室234-1

児童自立支援施設の現状と矯正教育の効果研究

企画者：松浦 直己 (三重大学 教育学部 特別支援講座)  
司会者：松浦 直己 (三重大学 教育学部 特別支援講座)  
話題提供者：大原 天青 (国立武蔵野学院)  
寺岡 牧 (国立武蔵野学院)  
赤地 芳輝 (さいたま市立美園中学校分教室)  
富田 拓 (国立きぬ川学院)  
指定討論者：松浦 直己 (三重大学 教育学部 特別支援講座)

自主シンポジウム6-18

9月18日(祝・月) 9:30~11:30 会議室234-2

特別支援教育における発達障害への実験的接近(4)  
自閉症スペクトラム障害児における対人的空間

企画者：平田 正吾 (茨城キリスト教大学)  
北 洋輔 (国立精神・神経医療研究センター)  
司会者：池田 吉史 (上越教育大学)  
話題提供者：浅田 晃佑 (白鷗大学)  
北 洋輔 (国立精神・神経医療研究センター)  
指定討論者：奥村安寿子 (国立精神・神経医療研究センター)  
鈴木 浩太 (国立精神・神経医療研究センター)  
江尻 桂子 (茨城キリスト教大学)

自主シンポジウム7-1

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室131+132

特別支援学校(聾学校)幼稚部における「話し合い活動」(その2)  
活動の展開をめぐる様々な課題

企画者：庄司 和史 (信州大学)  
松本 末男 (筑波大学附属学校教育局)  
司会者：庄司 和史 (信州大学)  
話題提供者：上山 知子 (広島県立広島南特別支援学校)  
小柳 達朗 (筑波大学附属聴覚特別支援学校)  
指定討論者：齋藤 佐和 (筑波大学名誉教授)  
松本 末男 (筑波大学附属学校教育局)

自主シンポジウム7-2

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室133+134

強度行動障害に関わる専門援助職に求められること(2)  
— 学校・医療・行政・司法を含む関係機関との連携 —

企画者：笹田 夕美子 (浜松市発達医療総合福祉センター)  
奥田 健次 (行動コーチングアカデミー)  
話題提供者：日野 浩志 (徳島県立国府支援学校)  
杓掛 英明 (長野県青木村教育委員会)  
指定討論者：柘植 雅義 (筑波大学人間系)

自主シンポジウム7-3

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室135

アイスランド・フィンランドにおける「非行・触法・薬物依存等」の発達困難を有する青少年への発達支援の取り組みと日本の課題

企画者：高橋 智 (東京学芸大学)  
田部 絢子 (大阪体育大学)  
内藤 千尋 (松本大学／東京学芸大学大学院博士課程)  
石川 衣紀 (長崎大)  
石井 智也 (日本福祉大学／東京学芸大学大学院博士課程)  
能田 昂 (白梅学園大学／東京学芸大学大学院博士課程)  
柴田 真緒 (東京学芸大学大学院修士課程／埼玉県立所沢特別支援学)  
神長 涼 (東京都自閉症協会)  
司会者：高橋 智 (東京学芸大学)  
話題提供者：内藤 千尋 (松本大学／東京学芸大学大学院博士課程)  
田部 絢子 (大阪体育大学)  
指定討論者：金子 陽子 (法務省高松矯正管区)  
小山 定明 (法務省大阪矯正管区)

自主シンポジウム7-4

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室141+142

インクルーシブ教育システム推進の取り組み  
地域・学校の教育力向上を目指した取り組みの効果と課題

企画者：後上 鐵夫 (大阪体育大学)  
小林 倫代 (横浜薬科大学)  
司会者：後上 鐵夫 (大阪体育大学)  
小林 倫代 (横浜薬科大学)  
話題提供者：大植 布美 (大阪府立岸和田支援学校)  
西村 敬子 (大阪府立佐野支援学校)  
大久保圭子 (兵庫県立赤穂特別支援学校)  
長澤 洋信 (大阪府立和泉支援学校)  
指定討論者：小林 倫代 (横浜薬科大学)

自主シンポジウム7-5

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室143

地域生活を目指したソーシャルスキプトを用いた支援Ⅳ  
社会的ライフスキルのアセスメントと支援

企画者：大槻美智子 (千葉県香取市教育委員会)  
司会者：大槻美智子 (千葉県香取市教育委員会)  
話題提供者：氏原 佳香 (山梨県立やまびこ支援学校)  
吉井 勘人 (山梨大学大学院教育学域)  
鍋谷 梨恵 (山形県立保健医療大学)  
長崎 勤 (実践女子大学生活科学部)  
指定討論者：佐竹 真次 (山形県立保健医療大学)

自主シンポジウム7-6

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室211-1

障がい重い子の支援の在り方の検討  
M.O.V.E.プログラムが提起するもの

企画者：渡邊あゆみ (豊田市立豊田特別支援学校)  
司会者：伊藤佐奈美 (中部大学現代教育学部)  
話題提供者：古屋 周子 (愛知県立名古屋特別支援学校)  
熊木佳代子 (愛知県立港特別支援学校 (保護者))  
野々垣 聡 (愛知県青い鳥医療療育センター)  
指定討論者：湯浅 恭正 (中部大学現代教育学部)

自主シンポジウム7-7

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室211-2

高等学校における「教科指導の配慮や工夫」の充実のために

企画者：大橋 智 (明星大学心理学部)  
司会者：大橋 智 (明星大学心理学部支援室)  
話題提供者：小栗 貴弘 (作新学院大学女子短期大学部幼児教育科)  
原 健太郎 (東京理科大学大学院理学研究科科学教育専攻)  
矢野 善教 (江戸川大学総合福祉専門学校)  
指定討論者：若林 上総 (独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所)

自主シンポジウム7-8

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室212

高等学校における特別支援教育のこれまでとこれから  
-通級による指導の開始を見据えて-

企画者：梅田 真理 (宮城学院女子大学)  
司会者：梅田 真理 (宮城学院女子大学)  
話題提供者：鳥居 深雪 (神戸大学大学院)  
桂 志保 (兵庫県立西宮香風高等学校)  
芹澤 健二 (一般財団法人共生教育財団)  
指定討論者：渡辺 徹 (宮城学院女子大学)

自主シンポジウム7-9

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室221

感覚と運動の高次化による臨床的アプローチ そのII  
-感覚と運動の高次化理論における教材論を考える-

企画者：渡邊 正人 (千葉県立袖ヶ浦特別支援学校)  
司会者：渡邊 正人 (千葉県立袖ヶ浦特別支援学校)  
話題提供者：星 茂行 (葛飾区教育委員会)  
星 久仁子 (茨城県立つくば特別支援学校)  
堀川 聖子 (社会福祉法人愛宕福祉会グループホーム空港西)  
指定討論者：船越 知行 (目白大学)  
石井みや子 (元 淑徳大学発達臨床研究センター)

自主シンポジウム7-10

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室222

特別支援教育推進のための学校と専門家の効果的な連携  
専門家配置から5年間の活用実践の結果報告と検証

企画者：齊藤 宇開 (たすく株式会社)  
肥後 祥治 (鹿児島大学教育学部)  
司会者：渡邊 倫 (TASUC株式会社)  
話題提供者：丹野 哲也 (文部科学省初等中等教育局視学官)  
吉田真理子 (東京都立八王子特別支援学校)  
指定討論者：渡部 匡隆 (横浜国立大学教育学部)

自主シンポジウム7-11

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室223

特別支援教育システム化による学力・不登校等の波及効果

企画者：三浦 光哉 (山形大学)  
司会者：川村 修弘 (宮城教育大学附属特別支援学校)  
話題提供者：佐藤奈保子 (山形県鶴岡市教育委員会)  
島守 詩子 (青森県三戸地方教育研究所)  
内和 通 (山形県真室川町教育委員会)  
指定討論者：西川 崇 (長崎大学附属特別支援学校)  
山口 純枝 (名古屋市教育委員会)

自主シンポジウム7-12

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室224-1

通級による指導における「ある」と「なる」

企画者：原 広治 (島根大学)  
牧野 泰美 (国立特別支援教育総合研究所)  
司会者：原 広治 (島根大学)  
話題提供者：安部 満明 (松江市立古志原小学校)  
森 章子 (神戸市立西落合小学校 こうべ学びの支援センター巡回相談員)  
松原 洋司 (大田市立静間小学校)  
万年 康男 (長野県稲荷山養護学校)  
指定討論者：牧野 泰美 (国立特別支援教育総合研究所)

自主シンポジウム7-13

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室224-2

障害のある子どもの療育や教育で「包括的」は何を意味するか

企画者：真鍋 健 (千葉大学教育学部)  
七木田 敦 (広島大学大学院教育学研究科)  
松井 剛太 (香川大学教育学部)  
司会者：佐藤 智恵 (神戸親和女子大学発達教育学部)  
河口 麻希 (山口学芸大学教育学部)  
話題提供者：真鍋 健 (千葉大学教育学部)  
仲野 真史 (東京学芸大学附属特別支援学校)  
菅原 宏樹 (千葉大学教育学部附属特別支援学校)  
指定討論者：吉川 和幸 (帝京科学大学教育人間科学部)

自主シンポジウム7-14

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室231

知的障害者の自己決定に関わる問題解決能力の形成に向けた学習支援  
-生涯学習機会での実践を通して-

企画者：城田 和晃 (東京都立矢口特別支援学校)  
菅野 敦 (東京学芸大学教育実践研究支援センター)  
司会者：今枝 史雄 (東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)  
話題提供者：今枝 史雄 (東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)  
城田 和晃 (東京都立矢口特別支援学校)  
吉澤 洋人 (東京都立清瀬特別支援学校)  
指定討論者：井澤 信三 (兵庫教育大学)

自主シンポジウム7-15

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室232

自立活動における感覚と運動の高次化理論の活用(4)

企画者：高橋 浩 (奈良県立奈良養護学校)  
司会者：高橋 浩 (奈良県立奈良養護学校)  
話題提供者：長洞 萌美 (淑徳大学発達臨床研究センター)  
深田 竜一 (奈良県立奈良養護学校)  
指定討論者：野口 明紀 (山陰発達と学びの研究会)  
池畑美恵子 (淑徳大学発達臨床研究センター)  
下山 直人 (筑波大学人間系・附属久里浜特別支援学校)

自主シンポジウム7-16

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室233

自立活動の実態把握と指導目標のプロセスⅡ

企画者：渡邊 弘規 (福島県立郡山支援学校)  
司会者：菅野 和彦 (福島県教育庁いわき教育事務所)  
話題提供者：近藤 聡美 (福島県立郡山支援学校)  
五十嵐亜子 (福島県立いわき支援学校)  
指定討論者：分藤 賢之 (文部科学省初等中等教育局)  
長沼 俊夫 (日本体育大学体育学部)

自主シンポジウム7-17

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 会議室234-1

幼児期における手先の不器用さのアセスメントと支援の開発

企画者：尾崎 康子 (相模女子大学)  
司会者：尾崎 康子 (相模女子大学人間社会学部)  
話題提供者：尾崎 康子 (相模女子大学人間社会学部)  
Toth Gabor (相模女子大学学芸学部)  
勝二 博亮 (茨城大学教育学部)  
指定討論者：澤江 幸則 (筑波大学体育系)

特別支援教育におけるロマンティック・サイエンス(8)

子どもと一緒に、一緒の世界を作り上げようとする中で考えてきたこと

企画者：野口 和人 (東北大学大学院教育学研究科)

司会者：野口 和人 (東北大学大学院教育学研究科)

話題提供者：鈴木 徹 (秋田大学教育文化学部)

佐々木健太郎 (宮城教育大学附属特別支援学校)

太田 博巳 (石川県立いしかわ特別支援学校)

吉川 一義 (金沢大学人間社会研究域)

指定討論者：平野 幹雄 (東北文化学園大学医療福祉学部)

前川 久男 (筑波大学名誉教授)



# 口頭発表



1. LD, ADHD等、その他・部門間交流 9月16日(土) 13:00~15:00 レセプションホール①

座長 衛藤 裕司・大島 光代

- |      |   |  |
|------|---|--|
| O1-1 | ICTを利用したポイントテイクのアプローチ<br>ウェブ・ホワイトボードを使った授業実践                                | 今西 雅次(京都大学大学院 人間・環境学研究所)                               |
| O1-2 | 教育現場の実践に根ざした教材作成支援アプリ開発<br>活用のための工夫と支援の可能性を広げるために                           | 向山 和子(大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科)<br>仲矢 史雄(大阪教育大学科学教育センター) |
| O1-3 | 学習障害の疑い・診断に対する反応<br>自分の高校生時代を仮定した大学生を対象に                                    | 衛藤 裕司(大分大学 教育学部)                                       |
| O1-4 | 算数困難児への数直線ジャンプを用いた指導<br>かけ算九九を中心に   | 池田 康子(早稲田大学大学院教育学研究科研究生)                               |
| O1-5 | 幼児期の語彙及び音韻意識の獲得状況と小学校1年生におけ<br>る読解力の調査結果との関連性<br>A県B市C保育園・D小学校における追跡調査の実践から | 大島 光代(名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部 子どもケア学科)                       |
| O1-6 | 発達障害児者の有する睡眠困難に関する研究の動向と課題<br>—国内における先行研究の検討から—                             | 柴田 真緒(東京学芸大学大学院)<br>高橋 智(東京学芸大学)                       |

2A. 障害一般1

9月16日(土) 15:30~17:30 レセプションホール①

座長 石井 智也・石川 衣紀

- |       |   |  |
|-------|---|--|
| O2A-1 | 肢体不自由養護学校(高等部)の歩み<br>兵庫県立播磨養護学校高等部の草創期の教育 | 高村 法保(元北海道岩見沢高等養護学校)   |
| O2A-2 | 盲啞学校の学校経営に関する研究<br>愛知県内盲啞学校3校を中心として       | 吉田 直美(名古屋大学大学院教育発達科学研究科)                                       |
| O2A-3 | 戦前の東京市における教育救済事業と特別学級編制<br>研究の動向と課題       | 石井 智也(日本福祉大学/東京学芸大学大学院博士課程)<br>石川 衣紀(長崎大学)<br>高橋 智(東京学芸大学)     |
| O2A-4 | 戦前的大阪市における貧民教育と教育改善事業<br>—研究の動向と課題—       | 石川 衣紀(長崎大学教育学部)<br>石井 智也(日本福祉大学/東京学芸大学大学院博士課程)<br>高橋 智(東京学芸大学) |
| O2A-5 | 1891年濃尾震災における石井亮一と孤女学院の孤児救済活<br>動に関する研究   | 能田 昂(白梅学園大学/東京学芸大学大学院博士課程)<br>高橋 智(東京学芸大学)                     |
| O2A-6 | 寄宿舎教育研究の動向と課題<br>多様な心身の発達困難を有する子どもの視点から   | 小野川文子(名寄市立大学)<br>高橋 智(東京学芸大学)                                  |

## 2B. 視覚障害

9月16日(土) 15:30~17:30 レセプションホール②

座長 佐々木正晴・藤芳 衛

- |       |   |   |
|-------|---|---|
| O2B-1 | 眼科医療における知的障害児への対応<br>視能訓練士を対象とした眼科医療と教育・療育機関の連携に関する実態調査 | 草間 涼菜(東邦大学医療センター 大森病院眼科)<br>佐島 毅(筑波大学人間系)   |
| O2B-2 | 先天盲-2人, 事物認知の形成過程                                       | 佐々木正晴(弘前学院大学)<br>鳥居 修晃(東京大学)<br>佐藤 佑介(日本大学)<br>今村 勤(青森県立盲学校)                      |
| O2B-3 | 盲ろう者の理療就労に関する実態調査<br>-理療師免許取得から理療就労に焦点を当てて-             | 高橋 忠庸(国立障害者リハビリテーションセンター)<br>浮田 正貴(国立障害者リハビリテーションセンター)<br>佐島 毅(筑波大学人間系)           |
| O2B-4 | 手と教材の大きさの比が視覚障害児の触察に及ぼす影響<br>~一事例による予備的検討~              | 佐々木淳哉(宮城教育大学大学院)<br>永井 伸幸(宮城教育大学特別支援教育講座)   |
| O2B-5 | アクセシブル電子書籍制作・編集・閲覧システムの多言語対応について                        | 山口 雄仁(日本大学短期大学部)<br>鈴木 昌和(九州大学マス・フォア・インダストリ研究所)                                   |
| O2B-6 | 音声案内付き触図が図の読み取り速度と正確性に及ぼす影響                             | 細川 陽一(名古屋工業大学大学院工学研究科)  |
| O2B-7 | 重度視覚障害者が触読図からインクプリントの線画の描画を可能にする技術                      | 藤芳 衛(大学入試センター名誉教授)<br>石田 透(国立職業リハビリテーションセンター)<br>澤崎 陽彦(都立武蔵村山高等学校)<br>藤芳 明生(茨城大学) |

## 3. 障害一般2

9月17日(日) 9:30~11:30 レセプションホール①

座長 田中 良広・池本喜代正

- |      |   |  |
|------|---|--|
| O3-1 | 日本人学校における合理的配慮(1)   | 田中 良広(帝京平成大学)                                  |
| O3-2 | 中国特殊教育発達史に関する一研究(4)<br>-『残疾人教育条例』2017年改正について-   | 金 寿蓮(首都大学東京 人文・社会系)<br>松矢 勝宏(東京学芸大学名誉教授)       |
| O3-3 | Equity, Society and Inclusive Education<br>A Case Study of Head Teacher Interviews in the US<br>and the Netherlands | 徐 之英(栃木県連合教育研究所)                               |
| O3-4 | 韓国「2015特殊教育教育課程」の基本教育課程(知的障害)の<br>国語科に関する研究<br>日本の知的障害特別支援学校学習指導要領との比較を通して  | 宋 在玉(国立公州大学校)<br>田 炳雲(国立公州大学校)<br>高橋 智(東京学芸大学) |
| O3-5 | 韓国の多文化家庭における障害リスクと障害児に関する教育<br>プログラムの開発   | 李 尚禧(順天郷大学校)<br>黄 銀珍(順天郷大学校)                   |
| O3-6 | 育成を目指す資質・能力を中心とした教育課程の展開<br>特別支援教育を中心として  | 福本 徹(国立教育政策研究所)                                |
| O3-7 | 連続性のある学びの場における「特別支援教室」の意義(2)<br>宇都宮市における「かがやきルーム」担当者の意識   | 池本喜代正(宇都宮大学)                                   |

#### 4. 聴覚障害、言語障害

9月17日(日) 12:30~14:30 レセプションホール①

座長 松藤みどり・小山 正

- |      |  |   |
|------|--|---|
| 04-1 | 人工内耳を装用する中高生の機能的アウトカム<br>中学時から高校時への縦断変化                              | 齋藤 友介(大東文化大学文学部教育学科)<br>杉中 拓央(早稲田大学人間科学学術院)<br>河野 淳(東京医科大学)                               |
| 04-2 | 公立高校入試における聴覚障害対応の変遷<br>英語のリスニングを中心に                                  | 松藤みどり(筑波技術大学)   |
| 04-3 | 障害理解に関する中学生を対象とした意識調査について<br>健聴中学生を対象とした質問紙調査結果の比較から                 | 金子 俊明(筑波大学附属聴覚特別支援学校)<br>廣瀬 由美(筑波大学附属聴覚特別支援学校)<br>太田 康子(筑波大学附属聴覚特別支援学校)<br>加藤 靖佳(筑波大学人間系) |
| 04-4 | 聴覚障害児の韻律聴取と聴覚特性及び言語力との関係(1)  | 喜屋武 睦(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)<br>濱田 豊彦(東京学芸大学特別支援科学講座)                                       |
| 04-5 | 視線特性分析を通じた算数困難ろう児への学習支援<br>文章問題における段階的ヒント指南                          | 松永 信介(東京工科大学 メディア学部)  |
| 04-6 | 自閉スペクトラム症幼児の初期語彙領域の構成と文の複雑さ  | 小山 正(神戸学院大学人文学部)  |
| 04-7 | DMD児の自立活動(言語)を考慮した授業作りの検討<br>国語の「話す」「読む」と自立活動の「呼吸」「発声発語」を組み合わせた指導の試み | 堂前 見子(千葉県立四街道特別支援学校)  |

#### 5. 障害一般3

9月17日(日) 15:00~17:00 レセプションホール①

座長 三田地真実・権 明愛

- |      |  |  |
|------|--|--|
| 05-1 | インクルーシブ教育システム下において児童生徒の健康問題<br>へ適切に対応できる教員養成カリキュラムの開発<br>医教連携による学際的講義・実習の実習を目指して | 樫木 暢子(愛媛大学大学院教育学研究科)<br>中野 広輔(愛媛大学教育学部)<br>菊田 知則(愛媛大学教育学部)<br>吉松 靖文(愛媛大学教育学部)<br>加藤 公史(愛媛大学教育学部附属特別支援学校) |
| 05-2 | 大学における発達障害学生支援の現状と学生支援コーディネーターの役割<br>—全国の国公立大学調査から—                              | 池田 敦子(東海学院大学人間関係学部)<br>高橋 智(東京学芸大学)  |
| 05-3 | 問題行動に対応できる教員養成のためのビデオ動画の効果<br>応用行動分析学(ABA)の基礎知識の理解を促進するツール<br>としての活用             | 三田地真実(星槎大学)<br>岡村 章司(兵庫教育大学)<br>原口 一郎(神奈川県立小田原養護学校)<br>遠藤 佑一(筑波大学附属久里浜特別支援学校)<br>佐藤 智彦(星槎大学大学院)          |
| 05-4 | 障害理解教育による発達障害に対する態度変容  | 林 慎吾(東北大学大学院教育学研究科)  |
| 05-5 | 障害児保育の担い手となる現職保育者育成に繋がる発達モデルの構築  | 権 明愛(十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科)<br>齋藤 忍(十文字学園女子大学特別支援教育センター)<br>山田 陽子(十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科)                 |
| 05-6 | 大学における視覚障害学生に対する支援や配慮の実態調査<br>障害学生と大学のコミュニケーションおよび災害対策を中心に                       | 青松 利明(筑波大学附属視覚特別支援学校)<br>清和 嘉子(筑波大学附属視覚特別支援学校)   |

## 6. 障害一般4、矯正教育

9月18日(祝・月) 9:30~11:30 レセプションホール①

座長 高橋 智・石黒 栄亀

- |      |  |  |
|------|--|--|
| O6-1 | 更生保護における発達上の課題を有する非行少年への支援の現状と課題(その1)<br>—全国の保護観察所職員・保護司等の調査を通して—  | 内藤 千尋(松本大学)<br>田部 絢子(大阪体育大学)<br>高橋 智(東京学芸大学)                   |
| O6-2 | 更生保護における発達上の課題を有する非行少年 への支援の現状と課題(その2)<br>—全国の保護観察所職員・保護司等の調査を通して— | 高橋 智(東京学芸大学)<br>内藤 千尋(松本大学)<br>田部 絢子(大阪体育大学)                   |
| O6-3 | 発達上の問題のある少年院在院者の集団適応に関する研究<br>発達上の問題の有無とソシオメトリックテストの結果との関連性に着目して   | 宇治田直樹(和泉学園)<br>川田 聖展(和泉学園)                                     |
| O6-4 | 二群二種の視覚的知覚課題と4つの遅延条件における記憶過程                                       | 足立 圭子(よこはま児童文化研究所)   |
| O6-5 | 軽度知的障害生徒の自己理解に関する研究<br>自己評価の取組を通して                                 | 伊藤佐奈美(愛知教育大学大学院教育学研究科)   |
| O6-6 | 計数課題に伴うANS活性と遂行能力の関係について   | 石黒 栄亀(九州女子大学人間科学部)<br>鎌田 義彦(九州女子大学人間科学部)<br>堀江 幸治(九州女子大学人間科学部) |
| O6-7 | 発達障害を有する子どもの「食の困難」の実態と支援ニーズに関する研究<br>—発達障害の当事者調査から—                | 田部 絢子(大阪体育大学)<br>高橋 智(東京学芸大学)                                  |

## 7. 重度・重複障害、その他・部門間交流

9月18日(祝・月) 12:30~14:30 レセプションホール①

座長 武長 龍樹・宮脇 修

- |      |  |  |
|------|--|--|
| O7-1 | 特別支援学校における医療的ケア項目と看護師業務の負担感  | 田中 千絵(聖マリア学院大学)<br>猪狩恵美子(福岡女学院大学)                                    |
| O7-2 | 重度・重複障害をもつ子どものベースライン<br>コンピュータビジョンによる動きの可視化  | 武長 龍樹(東京大学先端科学技術研究センター)  |
| O7-3 | 表情の認知特性 II<br>顔アイコンの目と馬の目皿(民芸・工芸)  | 永井 弘人(愛知教育大学教育学研究科共同教科開発学 博士課程)                                      |
| O7-4 | 視覚障害教育のアセスメントとエビデンスに基づいた手立てを<br>広範な特別支援教育に生かしていくために<br>適切なアセスメントと介入による方法を特別支援教育に生か<br>していくための指針と現状の問題点について | 刀禰 豊(岡山県立岡山東支援学校)  |
| O7-5 | 姿勢くずれなどで、注意集中困難ないわゆる気になる子への教育的<br>接近について<br>= 感覚統合的アプローチの側面からその具体的取り組みを語る =                                | 宮脇 修(名古屋女子大学)<br>中島 英雄(各務原市立蘇原中学校)                                   |
| O7-6 | 学校と放課後等デイサービス事業所との連携の現状と課題<br>両者の「壁」を超えて多様な子どもたちの育ちと学びを保障す<br>る地域を創るために                                    | 谷田 悦男(埼玉県立所沢特別支援学校)<br>加瀬 進(東京学芸大学特別支援科学講座)<br>三田地真実(星槎大学大学院教育実践研究科) |

# ポスター発表



ポスター1

9月16日(土) 13:00~15:00 イベントホール

P1-1	視線分析による視覚認知の特徴 晴眼者と弱視者の視覚探索活動の比較	小中 雅文(大分県立盲学校) 衛藤 裕司(大分大学教育学部)
P1-2	視覚障害のある児童生徒が授業場面で有効活用できる教科書・教材等閲覧アプリの開発	中野 泰志(慶應義塾大学) 氏間 和仁(広島大学) 田中 良広(帝京平成大学) 韓 星民(福岡教育大学) 永井 伸幸(宮城教育大学)
P1-3	室内の空間認知とそのイメージ操作に困難を示す先天性視覚障害児への室内移動の指導効果 -基準点での触地図構成と移動による検討-	丹所 忍(筑波大学大学院人間総合科学研究科障害科学専攻) 小林 秀之(筑波大学人間系障害科学域)
P1-4	盲児童におけるはめこみ構成課題の達成とWISC-IV知能検査の得点との関連	福田 奏子(東京都立葛飾盲学校) 金井 沙彩(東京都立葛飾盲学校) 吉岡 陶子(千葉県立千葉盲学校) 岡宮 彩奈(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 佐島 毅(筑波大学人間系)
P1-5	弱視者のデジタル・リーディング環境に関する研究 臨界文字サイズと最大文字サイズを用いた検討	氏間 和仁(広島大学)
P1-6	点字触読軌跡の分類	牟田口辰己(広島大学大学院教育学研究科) 菊池 志乃(元広島大学大学院) 門脇 弘樹(広島大学大学院)
P1-7	読書チャートに用いる繁体字中国語の読材料の選出	黄 柏翰(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 柿澤 敏文(筑波大学人間系)
P1-8	免許法認定講習(視覚障害領域)の現状と課題(その1) -どのような者が受講しているのか-	永井 伸幸(宮城教育大学) 相羽 大輔(愛知教育大学) 氏間 和仁(広島大学) 田中 良広(帝京平成大学) 中野 泰志(慶應義塾大学) 韓 星民(福岡教育大学) 山本 利和(大阪教育大学)
P1-9	大学における視覚障害学生に対する支援や配慮の実態調査 定期試験での配慮の状況と希望を中心に	清和 嘉子(筑波大学附属視覚特別支援学校) 青松 利明(筑波大学附属視覚特別支援学校)
P1-10	初期的発達段階にある盲・知的障害児の手指探索行動の拡大 -平面玉落とし課題遂行時における手の動かし方および行動の変化に着目して-	岡宮 彩奈(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 吉岡 陶子(千葉県立千葉盲学校) 金井 沙彩(東京都立葛飾盲学校) 福田 奏子(東京都立葛飾盲学校) 佐島 毅(筑波大学人間系)
P1-11	歩行軌跡の予測と定量的分析 -ベアリングが大きく生じる対象者の歩行軌跡から-	門脇 弘樹(広島大学大学院教育学研究科) 菊池 志乃(元広島大学大学院教育学研究科) 牟田口辰己(広島大学特別支援教育学講座)
P1-12	聾学校および聾児の学習・生活環境に関する研究 その1 -デフスペースに関する意識調査-	今井 計(国立大学法人筑波技術大学) 濱尾 昂史(三機工業株式会社)
P1-13	聾学校および聾児の学習・生活環境に関する研究 その2 -鳥取聾学校のリノベーション案の提案-	濱尾 昂史(三機工業株式会社) 今井 計(国立大学法人筑波技術大学)
P1-14	日本手話・日本語バイリンガル児童の日本語の習得 小学部第3学年と中学部第1学年における日本語作文の比較をとおして	阿部 敬信(別府大学短期大学部)

P1-15	高等教育機関における意思疎通支援推進に関する研究 ー現状の把握と展望ー	池谷 航介(東京大学先端科学技術研究センター/国立民族学博物館) 井坂 行男(大阪教育大学) 望月 直人(大阪大学) 楠 敬太(大阪大学)
P1-16	音声認識アプリを活用した情報保障支援システムの開発 ー少人数討論型授業に適した方式の探索と運用ー	松崎 丈(宮城教育大学)
P1-17	通常の学級における聴覚障害のある児童生徒への配慮と支援に関する文献的考察 ーインクルDB「合理的配慮」実践事例データベースに着目してー	下中村 武(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究所)
P1-18	聴覚障がい児者の自己開示と自己権利擁護意識の発達についての一考察 どのようにして「トリセツ」をつくろうとするに至るか	高井 小織(京都光華女子大学医療福祉学科言語聴覚専攻)
P1-19	指文字の獲得と流暢性に及ぼす指導効果の実験的検討	大土 恵子(大阪府立中央聴覚支援学校) 野田 航(大阪教育大学教育学部)
P1-20	聴覚障害児の学習のつまずきに対する指導について(12) これまでの指導例から想定される認知の特性	菊地 和則(仙台市立柞江小学校)
P1-21	聴覚障害児童に対する日記指導における指導内容の特徴 高学年在籍児童に対する指導内容の分析	茂木 成友(東北福祉大学)
P1-22	聴覚障害教員のストレス反応に影響を及ぼす要因の検討	奥沢 忍(つくば市立竹園西小学校) 廣田 栄子(筑波大学)
P1-23	聴覚障害学生支援における相談体制のあり方に関する予備的検討(2) 大学等教職員に対する助言機能を中心に	中島亜紀子(国立大学法人筑波技術大学) 白澤 麻弓(国立大学法人筑波技術大学) 萩原 彩子(国立大学法人筑波技術大学) 磯田 恭子(国立大学法人筑波技術大学) 石野麻衣子(国立大学法人筑波技術大学)
P1-24	成人聴覚障害者の音読および黙読の使用実態	宮谷 祐史(大阪教育大学) 井坂 行男(大阪教育大学)
P1-25	手話-日本語同時通訳における論旨の伝達	白澤 麻弓(筑波技術大学)
P1-26	聴覚支援学校幼稚部における言語指導の実態 生活の中での指導上の工夫に着目して	大内真梨奈(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)
P1-27	聴覚障害者のキャリア発達支援に関する研究 ジェンダーの視点をふまえたキャリア教育の必要性を見据えて	小林 洋子(国立大学法人筑波技術大学) 石原 保志(国立大学法人筑波技術大学) 大杉 豊(国立大学法人筑波技術大学)
P1-28	聴覚障害学生の意思表示を促す支援担当教職員の働きかけ	有海 順子(山形大学) 益子 徹(日本社会事業大学大学院博士後期課程) 甲斐 更紗(九州大学) 吉川あゆみ(関東聴覚障害学生サポートセンター) 松崎 丈(宮城教育大学) 池谷 航介(東京大学/国立民族学博物館) 太田 琢磨(愛媛大学) 木谷 恵(立命館大学障害学生支援室) 萩原 彩子(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター) 中島亜紀子(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター) 平良 悟子(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター) 白澤 麻弓(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター)

P1-29	聴覚障害学生—健聴学生が「議論」できる環境の構築 —音声認識システムの学校教育への導入についての検討—	三森 伸一郎(宮城教育大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻) 村上 由則(宮城教育大学) 菅井 裕行(宮城教育大学) 松崎 丈(宮城教育大学)
P1-30	難聴通級指導教室に通う児童の学級適応に関する研究	大川 将貴(東京学芸大学大学院教育学研究科) 澤 隆史(東京学芸大学)
P1-31	聴覚障害児の作文評価における評価観点の特徴 —印象評定による分析的評価を中心とした検討—	新海 晃(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 澤 隆史(東京学芸大学) 林 雄大(東京学芸大学大学院教育学研究科) 大川 将貴(東京学芸大学大学院教育学研究科)
P1-32	聴覚障害学生及び支援学生の支援に対する考え方	岡田 雄佑(筑波技術大学大学院技術科学研究科) 佐藤 正幸(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター) 白澤 麻弓(筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター)
P1-33	聴覚障害教育の専門性に関する研究の推移(3) —聴覚障害教育の専門性に関わるキー・ワードによる分析—	雁丸 新一(筑波大学附属聴覚特別支援学校) 鄭 仁豪(筑波大学人間系)
P1-34	学校間交流の事前指導における障害理解学習の効果(1) 5年生における授業実践を通して	細谷 一博(北海道教育大学教育学部函館校) 田名部沙織(北海道教育大学学校教育研究科)
P1-35	学校間交流の事前指導における障害理解学習の効果(2) 6年生における授業実践を通して	田名部沙織(北海道教育大学大学院教育学研究科) 細谷 一博(北海道教育大学教育学部函館校)
P1-36	積み木課題における「学び」の変化に関する分析 知的障害特別支援学校小学部における友達同士のペアによる 取り組みの観察	畠山 和也(埼玉県立所沢おおぞら特別支援学校) 衛藤 裕司(大分大学教育学部)
P1-37	軽度知的障害児に対する国語指導の生徒による授業評価	佐原恒一郎(千葉県立矢切特別支援学校)
P1-38	知的障害特別支援学校における「社会性の学習」で付けたい 力の系統性 小学部・中学部・高等部教員が捉える「社会性」の違いに着 目して	土屋 美奈(東京学芸大学(都立品川特別支援学校)) 奥住 秀之(東京学芸大学)
P1-39	知的障害児童が関わり合う授業づくりに関する研究 ～対象児童の発達段階を踏まえて～	宮田 大嗣(鹿児島県立牧之原養護学校) 片岡 美華(鹿児島大学教育学系)
P1-40	知的障害者の企業就労に影響する要因の検討	藤田 達也(栃木県立那須特別支援学校)
P1-41	知的障害児のコミュニケーション力向上をめざした指導 カリキュラムマネジメントによる言語社会領域の発達	三好 喜久(高知県立山田養護学校)
P1-42	知的障害者を対象とした数量概念の獲得を促すための支援 方法	井上 和紀(新潟市立中野山小学校) 大庭 重治(上越教育大学)
P1-43	軽度知的障害生徒のための本人参画型の合理的配慮の提供 (2) 開発したテキスト教材の内容的妥当性の検討	三原 彰夫(大分県教育庁特別支援教育課) 衛藤 裕司(大分大学教育学部)
P1-44	音楽における“創作”を視野に入れたリズム表現Ⅱ ～リトミック教育法を活用して Vol.3～	松田孝可子(京都府立宇治支援学校)
P1-45	知的障害児の立ち幅跳び動作向上のための取り組み	原 満登里(山梨大学教育学部附属特別支援学校)
P1-46	知的障害特別支援学校における自立活動指導のアセスメント に関する研究(3) 地域支援における「実態把握チェックリスト」及び「解説書」 (改訂版)の活用とその効果について	清水 謙二(大阪府立佐野支援学校) 山本 春奈(大阪府立佐野支援学校)

P1-47	「遊びの指導」の充実を図る授業改善プロジェクトの取組 秋田県教育委員会における各教科等を合わせた指導の研究 開発③	高田屋陽子(秋田大学教育文化学部) 小山 高志(秋田県教育庁) 清水 潤(国立特別支援教育総合研究所)
P1-48	知的障害児との教科を通した「共同教育」実践の特徴 1970年代の京都府立与謝の海養護学校と宮津市立上宮津小 学校における事例を踏まえて	金丸 彰寿(神戸大学大学院人間発達環境学研究所人間発達専攻)
P1-49	難聴・言語障害特別支援学級及び通級指導教室の現状(1) －2016年度全国調査に見られる指導対象児の実態－	久保山 茂樹(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 小林 倫代(横浜薬科大学) 牧野 泰美(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 原田 公人(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 滑川 典宏(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)
P1-50	難聴・言語障害特別支援学級及び通級指導教室の現状(2) －難聴・言語障害学級や通級指導教室がインクルーシブ教 育システムにおいて果たす機能－	牧野 泰美(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 久保山 茂樹(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 小林 倫代(横浜薬科大学) 原田 公人(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 滑川 典宏(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)
P1-51	「ことばの教室」を利用する児童の実態と通級において用い られる語彙指導の方略	大伴 潔(東京学芸大学)
P1-52	アンケートを活用した吃音のある児童への教育実践(2) ICFに基づいたアセスメントプログラムを用いて	小林 宏明(金沢大学人間社会研究域学校教育系)
P1-53	吃音のある子どもを持つ保護者のためのセルフヘルプグ ループに関する研究と今後の課題	堅田 利明(関西外国語大学)
P1-54	吃音のある児童の自尊感情に関わる因子の探索	小宮 歩(筑波大学人間総合科学研究科) 宮本 昌子(筑波大学人間系)
P1-55	幼・小・中学校における選択性緘黙に関する質問紙調査(Ⅰ) －在籍状況および学校における困難と支援の課題について－	松下 浩之(山梨大学大学院教育学域) 酒井 貴庸(甲南女子大学人間科学部) 奥村真衣子(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 下山 真衣(信州大学学術研究院教育学系) 園山 繁樹(筑波大学人間系)
P1-56	幼・小・中学校における選択性緘黙に関する質問紙調査(Ⅱ) －支援体制の整備状況と今後の課題－	奥村真衣子(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 松下 浩之(山梨大学教育学域) 酒井 貴庸(甲南女子大学人間科学部) 下山 真衣(信州大学学術研究院) 園山 繁樹(筑波大学人間系)
P1-57	選択性緘黙幼児に対する教育相談場面における刺激フェイ ディング法の適用	趙 成河(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 園山 繁樹(筑波大学人間系)
P1-58	場面緘黙の年長女児へのチェックリストを用いた介入	竹中 薫(ABAソリューション) 奥田 健次(行動コーチングアカデミー) 小口 詔子(ABAソリューション)
P1-59	乳幼児期の運動発達チェックリストの作成(2) 社会・生活スキルの発達に視点を当てて	是枝喜代治(東洋大学)
P1-60	中学校自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍している生徒 の進路と引継ぎに関する調査研究	井上 和久(大和大学教育学部) 井澤 信三(兵庫教育大学大学院) 郷間 英世(姫路大学大学院) 姉崎 弘(常葉大学教育学部)
P1-61	場面緘黙の出現率に関する基本調査(2) 大規模調査の必要性(1)	梶 正義(関西国際大学) 藤田 継道(臨床行動分析学研究所)

P1-62	家庭での問題行動が目立つ発達障害傾向と診断された女児への睡眠問題に対する介入 睡眠問題を行動という側面で捉えること児童発達支援事業所での意義	枝松慎次郎(社会福祉法人 木犀会 ケアステーション コナン)
P1-63	生活年齢に応じた自立活動の指導 個別の指導計画の12年間の指導記録に着目して	宮尾 尚樹(長崎県立諫早特別支援学校) 一木 薫(福岡教育大学) 古川 勝也(西九州大学)
P1-64	重度・重複障害児のアイコンタクトの促進 やりとり遊びを通して	児山 隆史(鳥取県立倉吉養護学校) 樋口 和彦(鳥根大学) 三島 修治(鳥根大学) 小川 巖(鳥根大学)
P1-65	交流及び共同学習に関する調査(1) －全国の特別支援学校における学校間交流及び居住地校交流の実態調査－	定岡 孝治(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所) 久保山茂樹(国立特別支援教育総合研究所) 齊藤由美子(国立特別支援教育総合研究所) 西村 崇宏(国立特別支援教育総合研究所) 小澤 至賢(国立特別支援教育総合研究所) 井上久美子(静岡県立西部特別支援学校)
P1-66	交流及び共同学習に関する調査(2) －静岡県内の特別支援学校における学校間交流及び居住地校交流の実態調査－	西村 崇宏(国立特別支援教育総合研究所) 久保山茂樹(国立特別支援教育総合研究所) 井上久美子(静岡県立西部特別支援学校) 定岡 孝治(国立特別支援教育総合研究所) 齊藤由美子(国立特別支援教育総合研究所) 小澤 至賢(国立特別支援教育総合研究所)
P1-67	地域におけるインクルーシブ教育システム構築の現状と課題(1) A県に焦点を当てて	李 熙馥(国立特別支援教育総合研究所) 涌井 恵(国立特別支援教育総合研究所) 深草 瑞世(国立特別支援教育総合研究所) 牧野 泰美(国立特別支援教育総合研究所) 森山 貴史(青森県立八戸第一養護学校) 佐々木 恵(青森県立八戸第一養護学校) 藤本 裕人(帝京平成大学)
P1-68	地域におけるインクルーシブ教育システム構築の現状と課題(2)	佐々木 恵(青森県立八戸第一養護学校) 森山 貴史(青森県立八戸第一養護学校) 李 熙馥(国立特別支援教育総合研究所) 牧野 泰美(国立特別支援教育総合研究所) 涌井 恵(国立特別支援教育総合研究所) 深草 瑞世(国立特別支援教育総合研究所) 藤本 裕人(帝京平成大学)
P1-69	カンボジアとベトナムの特別ニーズ教育の実情(その1) －プノンペン特別市とその周辺での調査を踏まえて－	問々田和彦(カンボジア王国 王立プノンベン大学教育学部) 黒田 学(立命館大学産業社会科学部)
P1-70	カンボジアとベトナムの特別ニーズ教育の実情(その2) －ホーチミン市での調査を踏まえて－	黒田 学(立命館大学産業社会科学部) 問々田和彦(王立プノンベン大学教育学部)
P1-71	高等学校に在籍する課題のある生徒の実態に関する研究 公立高校・私立高校との比較を通して	楠 敬太(大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター) 金森 裕治(大阪教育大学)
P1-72	特別支援学級設置の地域格差に関する一考察 茨城県を事例に検討	寺門 宏倫(茨城県立つくば特別支援学校)
P1-73	特別支援学校の教育課程等の実態に関する研究 特別支援学校学習指導要領等の改訂のポイントと特別支援学校の教育課程等との比較から	太田 容次(京都ノートルダム女子大学)
P1-74	「小1プロブレムを防ぐ保育活動」の効果と持続	三浦 光哉(山形大学)

P1-75	インクルーシブ教育に必要な教員養成に関する研究 中学校教育に対するニーズ調査	磯貝 順子(山梨大学) 小畑 文也(山梨大学) 吉井 勘人(山梨大学) 渡邊 雅俊(國學院大學)
P1-76	特別支援教育推進のための課題の検討 都道府県の財政力指数や教育費、特別支援学校在学者一人当たりの学校教育費との関連に着目して	柴垣 登(立命館大学大学院先端総合学術研究科)
P1-77	卒業後の就職支援を見据えた地域連携 I 高等支援学校とコープCS推進室の連携事例	田実 潔(北星学園大学社会福祉学部)
P1-78	保育現場におけるノート型ホワイトボードの活用2 ～年齢とサイズの関係、効果を高める工夫のポイント～	越智 早智(香川大学大学院) 西村 健一(香川県立高松養護学校)
P1-79	合理的配慮における合意形成について 国立特別支援教育総合研究所「合理的配慮」実践事例データベースからの検討	藤井 茂樹(びわこ学院大学) 横尾 俊(国立特別支援教育総合研究所)
P1-80	特別支援学校の教員による子どもの行動への「ポジティブな評価」の促進 行動コンサルテーションを通して	土田 菜穂(立命館大学総合心理学部) 中鹿 直樹(立命館大学総合心理学部)
P1-81	保育所における内部コンサルテーションを維持させる外部支援のあり方の検討	原 康行(和歌山県立はまゆう支援学校) 井澤 信三(兵庫教育大学大学院)
P1-82	スヌーズレンの研修会及びスヌーズレン環境に関する調査	藤澤 憲(和歌山県立和歌山さくら支援学校) 姉崎 弘(常葉大学教育学部) 桃井 克将(徳島文理大学保健福祉学部) 高橋 真琴(鳴門教育大学大学院)

## ポスター2

9月16日(土) 15:30～17:30 イベントホール

P2-1	教師の主体性を支える遊びの指導の授業づくり(1) Building Blocks(積み木)の視点に基づくモデルの提案	真鍋 健(千葉大学教育学部) 菅原 宏樹(千葉大学教育学部附属特別支援学校)
P2-2	教師の主体性を支える遊びの指導の授業づくり(2) 遊びの指導に適したケース検討会の検討	菅原 宏樹(千葉大学教育学部附属特別支援学校(千葉大学教育学部研究科)) 丹野 祐介(千葉大学教育学部附属特別支援学校) 真鍋 健(千葉大学教育学部)
P2-3	センター的機能を介した特別支援学校と高等学校との連携の在り方(1) ～A高等学校とB特別支援学校への調査を通して～	平沼 倫枝(神奈川県立平塚養護学校) 加藤 陽子(神奈川県立鶴見養護学校) 徳永亜希雄(横浜国立大学教育学部)
P2-4	センター的機能を介した特別支援学校と高等学校との連携の在り方(2) ～県内4校の高等学校のアンケート調査を通して～	加藤 陽子(神奈川県立鶴見養護学校) 平沼 倫枝(神奈川県立平塚養護学校) 渡部 匡隆(横浜国立大学教育学部)
P2-5	特別支援学校における20mシャトルランと時間走の比較とその効果 中学部、夏季休業中の部活動における検討	岩松 雅文(栃木県立益子特別支援学校) 三浦 光哉(山形大学教職大学院)
P2-6	二種の視覚的知覚課題と遅延条件下における記憶保持	高津 久子(よこはま児童文化研究所)
P2-7	知的障害を有する方々への選挙における合理的配慮の検討 I 卒業生アンケートから	石飛 了一(筑波大学附属大塚特別支援学校)
P2-8	教職を履修する大学生の知的障害児童・生徒とのボランティア活動を通じての障害および支援へのイメージの変化	伊藤かおり(帝京平成大学)

P2-9	知的障害特別支援学校における自由遊びを中心とした「遊びの指導」の検討(3) ～「遊びの指導」の授業づくりに関する教師の意識～	櫻田 佳枝(秋田大学教育文化学部附属特別支援学校) 武田 篤(秋田大学教育文化学部)
P2-10	ダウン症生徒の自己選択と意思の表明に関する支援 知的障害特別支援学校における休み時間の過ごし方の取り組みから	佐藤 義竹(筑波大学附属大塚特別支援学校) 工藤 傑史(筑波大学附属大塚特別支援学校)
P2-11	知的障害教育における「主体的・対話的で深い学び」の指導と効果 -「総合的な学習の時間」による協同学習の授業分析を通して-	中村 晋(筑波大学附属大塚特別支援学校) 石飛 了一(筑波大学附属大塚特別支援学校) 原田 薫(筑波大学附属大塚特別支援学校) 柘植 雅義(筑波大学人間系)
P2-12	知的障害特別支援学校におけるAACの利用実態に関する調査 ここ10年間の変化と合理的配慮および基礎的環境整備との関連に焦点をあてて	藤野 博(東京学芸大学)
P2-13	児童生徒一人一人が今、主体的に活動できる授業づくりの検討 個に応じた適切な目標と支援を目指して	田村 典子(岩手大学教育学部附属特別支援学校) 名古屋恒彦(岩手大学教育学部)
P2-14	「T1-T2-T3-T4学習法」におけるワーキングメモリ	原 ふみ(よこはま児童文化研究所)
P2-15	成人期知的障害者のコミュニケーションスキル向上に向けた問題解決型の学習支援 ーオープンカレッジ東京2016「コミュニケーションの“わざ”」を通してー	島田 博祐(明星大学教育学部) 平井 威(明星大学教育学部) 今枝 史雄(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 菅野 敦(東京学芸大学)
P2-16	知的障がい特別支援学校高等部における生徒指導の取組心得の設定と障がいの特性に配慮した対応を目指して	太田千佳子(北海道教育大学附属特別支援学校) 齋藤 良二(北海道釧路鶴野支援学校)
P2-17	オノマトペが知的障害児の理解と動作遂行に及ぼす効果	吉田 圭祐(千葉大学大学院 教育学研究科 学校教育学専攻) 細川かおり(千葉大学)
P2-18	発達障害児のごっこ遊びを支える場面設定とかかわり	本庄 由佳(鳥取県立倉吉養護学校) 池畑美恵子(淑徳大学発達臨床研究センター) 横田千賀子(淑徳大学発達臨床研究センター)
P2-19	知的障害特別支援学校における児童生徒との関わりの中で生じる教師の受傷状況とその原因に関する分析 鳥取県における聞き取り調査	阪本 清美(鳥取大学医学系研究科医学専攻脳神経小児科学) 井上 雅彦(鳥取大学医学系研究科臨床心理学講座)
P2-20	知的障害児を持つ保護者へのペアレントトレーニングの効果 保護者の養育スキルの変化に焦点を当てて	松本 将平(三重県教育委員会) 半田 健(国立特別支援教育総合研究所)
P2-21	広汎性発達障害及び知的障害のある子どもの音楽活動におけるリズムパターン同期の促進	針原 慶子(富山聴覚総合支援学校) 村中 智彦(上越教育大学 学校教育研究科)
P2-22	臨床美術の観点を活かした卒業生支援に関する検討	半田 彩子(茨城県立勝田特別支援学校) 新井 英靖(茨城大学)
P2-23	重度知的障害者のライフステージ別の生活課題に関する研究 生活介護事業所への調査を通して	本光 侑(東京学芸大学大学院) 今枝 史雄(東京学芸大学大学院連合学校) 佐藤 麗奈(東京学芸大学大学院) 菅野 敦(東京学芸大学)
P2-24	成人期ダウン症候群の認知特性に関する研究 田中ビネー知能検査Vによる認知機能の定型発達児との比較	伊藤 浩(社会福祉法人 幸会) 菅野 敦(東京学芸大学 教育実践研究支援センター)

P2-25	高機能自閉症スペクトラムのある青年における「悪質商法の勧誘を断るスキル」の指導の効果の検討(1)	山本多佳実(個別療育支援TRIAL) 古田 湧也(兵庫県立北はりま特別支援学校) 山本 真也(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科) 井澤 信三(兵庫教育大学大学院)
P2-26	高機能自閉症スペクトラムのある青年における「悪質商法の勧誘を断るスキル」の指導の効果の検討(2)	古田 湧也(兵庫県立北はりま特別支援学校) 山本多佳実(個別療育支援TRIAL) 山本 真也(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科) 井澤 信三(兵庫教育大学大学院)
P2-27	小学校特別支援教育コーディネーターに対する就学前の支援情報を活用した機能的アセスメントのガイダンスに関する検討	平澤 紀子(岐阜大学)
P2-28	自閉症スペクトラム児に対する早期集中行動介入(EIBI)の検討	松田光一郎(中部学院大学)
P2-29	特別支援学校(知的障害)における自閉症教育の取組状況と課題 各学部における自閉症のある子どもの在籍状況と自閉症教育の取組	柳澤亜希子(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 西村 崇宏(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 李 熙馥(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 村井敬太郎(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)
P2-30	発達障害児者のライフプランニングに関する研究	清水 浩(山形県立米沢女子短期大学)
P2-31	ASD児へのソーシャルスキルトレーニングに関する実践研究 ～小集団のメリットを活かしたかわり～	氏家 享子(東北福祉大学)
P2-32	熊本地震における発達障害児とその家族に関する研究 脆弱性とレジリエンスに着目して	綾戸ゆかり(熊本市立城西小学校) 古田 弘子(熊本大学教育学部)
P2-33	動作模倣の獲得過程における「動作-音声」同時提示の効果	田口 典子(作新学院大学大学院附属臨床心理センター) 高浜 浩二(作新学院大学大学院心理学研究科)
P2-34	幼稚園における自閉スペクトラム症児に対する社会的遊びの支援 保育現場における遊び支援のためのフォーマットの作成に向けて	藤原 あや(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 園山 繁樹(筑波大学人間系)
P2-35	自閉症スペクトラム障害児における社会的行動獲得の指導に関する事例研究 ～視覚的手がかりを用いた自己主張行動形成の効果～	猿樂 知子(水巻町立伊左座小学校) 倉光 晃子(福岡教育大学特別支援教育講座)
P2-36	ふたごの自閉症児をもつ母親の養育行動を高める支援 ～トイレット・トレーニングの行動コンサルテーションを通して～	石坂 務(横浜市立本郷特別支援学校) 渡部 匡隆(横浜国立大学)
P2-37	特別支援学校(病弱)における発達障害の二次障害軽減への教育的取組の開発 ～認知行動的介入による登校行動の形成～	吉井 紀文(高知県立高知江の口養護学校) 小野 智子(高知県教育委員会事務局特別支援教育課) 寺田 信一(高知大学教育学部門)
P2-38	自閉症児の家庭生活スキルの形成と要因 親の支援行動を促す標的行動の選定手順を中心に	山本紗也子(新潟県立村上特別支援学校) 村中 智彦(上越教育大学 学校教育研究科)
P2-39	自閉スペクトラム症児における動作模倣の促進について フルガイダンスと段階的プロンプトの効果の比較	王 旭(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 雨貝 太郎(千葉経済大学短期大学部) 裴 虹(筑波大学人間系) 園山 繁樹(筑波大学人間系)

P2-40	広汎性発達障がい児の登校行動と学校活動に及ぼす遅延 トークンの効果 学校と家庭との連携を通じて登校行動に及ぼす影響	岩橋 春奈(神戸市立東舞子小学校) 藤本進太郎(神戸市立兵庫大開小学校) 藤田 継道(臨床行動分析学研究所)
P2-41	日記作成支援アプリ導入の効果とICT導入の課題 -きもち日記を用いた指導を通して-	坂井 聡(国立大学法人香川大学教育学部) 宮崎 英一(国立大学法人香川大学教育学部) 境 薫(富士通デザイン(株)) 杉妻 謙(富士通デザイン(株)) 鈴木 潜(所沢市立通級指導教室)
P2-42	特別支援学級に在籍する児童への「交流及び共同学習」の現 状と課題に関する調査研究 特別支援学級担任と交流学級担任へのアンケート調査を通 して	須之内由起(愛媛県松山市立さくら小学校) 吉松 靖文(愛媛大学教育学部)
P2-43	ASD児に対する動画を用いた報告言語行動の指導 -複数の範例による訓練を用いた般化の促進-	張替 希(鹿沼市総合教育研究所教育相談室) 高浜 浩二(作新学院大学大学院心理学研究科)
P2-44	発達障害のある学生に望まれる就労スキルに関する研究Ⅱ 高等教育機関と就労移行支援事業所における意識の違いとは	松久 眞実(プール学院大学) 金森 裕治(大阪教育大学) 楠 敬太(大阪大学)
P2-45	発達障害学生に対する修学支援における効果評価の試み 各学生における修学上の課題との関連	佐々木銀河(筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター) 青木 真純(筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター) 五味 洋一(筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター) 竹田 一則(筑波大学人間系)
P2-46	自閉症スペクトラム障害児・者のこだわりに対する支援者 の捉え方と対応に関する研究	本郷 薫(横浜市立若葉台特別支援学校) 奥住 秀之(東京学芸大学)
P2-47	低年齢の気になる子どもへの発達臨床コンサルテーション 発達理解を通して、人に対する模倣をするようになった子 どもの事例から	辻 あゆみ(和光大学) 別府 哲(岐阜大学)
P2-48	ASD児に対するCRMTS課題を用いた漢字の読み書き指導	瀬谷奈々美(作新こころの相談クリニック) 高浜 浩二(作新学院大学大学院心理学研究科)
P2-49	母親への支援が広汎性発達障がい児の不登校行動の改善に 及ぼす効果	藤本進太郎(神戸市立兵庫大開小学校) 藤田 継道(臨床行動分析学研究所)
P2-50	自閉症スペクトラム障害児における課題従事行動促進の手 立てに関する事例研究 -課題の内容順序選択と課題量調整の導入による効果につ いて-	藤本 夏美(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 倉光 晃子(福岡教育大学特別支援教育講座)
P2-51	発達障害児の亜者の要求を充足するスキルの促進 -刺激等価性の視点から-	藤金 倫徳(福岡教育大学)
P2-52	特別支援学校における自閉症スペクトラム障害のある児童 のコミュニケーション表出指導について 妥当性のある指導を行うためのプロセスに着目して	黒木 美帆(佐賀県立金立特別支援学校) 高橋 甲介(長崎大学教育学部)
P2-53	保育園での学級介入による特別な支援を必要とする幼児の 活動参加の促進	宮内 絢香(東京都立矢口特別支援学校) 村中 智彦(上越教育大学 臨床・健康教育学系)
P2-54	学習に特異的な困難を示す生徒に対する認知特性に応じた指 導法の検討 英語学習に特異的な困難を持つ生徒への英単語指導法の検討	上岡 清乃(高知大学総合人間自然科学研究科) 北岡 智子(TECHNO CRAFT KOCHI) 鈴木 恵太(高知大学教育学部)

P2-55	学習に特異的な困難を示す生徒に対する認知特性に応じた指導法の検討 英語学習に特異的な困難を持つ生徒への英文法指導法の検討	鈴木 恵太(高知大学教育学部) 上岡 清乃(高知大学総合人間自然科学研究科) 北岡 智子(TECHNO CRAFT KOCHI)
P2-56	ひらがな・漢字単語の完成・検索課題による音読支援効果指導効果の持続と音読に対する意識調査	増田 純子(NPO法人スマイル・プラネット) 銘苅 実土(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 中 知華穂(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 小池 敏英(東京学芸大学教育学部)
P2-57	高等学校教員による発達障害への教えづらさに関する研究 高等学校から特別支援学校高等部に異動した教員の専門性を中心に	土谷 充章(大分県立爽風館高等学校) 衛藤 裕司(大分大学教育学部)
P2-58	高等学校全日制課程における特別支援教育に関する教育実践 - 発達障害の傾向のある生徒への自立活動の取組 -	古山 勝(千葉県立香取特別支援学校) 真城 知巳(関西学院大学)
P2-59	通常の学級における算数困難児への指導 - 多様な教育的ニーズに応じた実践による効果の検証 -	川合 紀宗(広島大学大学院教育学研究科)
P2-60	国立大学附属小学校における発達障害の理解を促す保護者向け特別支援教育セミナーの有効性 年間教育相談件数と通級による指導を受けた児童数の推移の比較	川村 修弘(宮城教育大学附属特別支援学校) 三浦 光哉(山形大学教職大学院)
P2-61	特別支援教育の基礎用語に関する学校教員の主観的認識度 中学校における特別支援教育校内研修会による変化	松本 秀彦(高知大学)
P2-62	障害がある子どもの「言葉で伝える」力を伸ばす指導	秋本 公志(静岡県立中央特別支援学校)
P2-63	学習障害のリスクがある幼児の幼小接続 保育の様子と就学後の学習における実態との検討	河口 麻希(山口学芸大学)
P2-64	読み書き背景要因の発達の因果関係について - 縦断調査の交差遅延効果モデルと同時効果モデルに基づく検討 -	吉田 有里(東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科) 銘苅 実土(東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科) 中 知華穂(日本学術振興会特別研究員) 小池 敏英(東京学芸大学)
P2-65	応用行動分析学的アプローチによる問題行動のある外国人男子生徒の学校適応	野上 慶子(明治学院大学) 小野 昌彦(明治学院大学)
P2-66	特別支援教育における連携に関する予備的検討 - 小学校低学年の事例についての通常学級担任教師の語り -	竹村 洋子(国立特別支援教育総合研究所)
P2-67	通常学級の学習場面における相互依存型集団随伴性の適用 - 学級全児童の相互交渉の変容にともなう学業成績への派生効果の検討 -	岩本 佳世(筑波大学大学院人間総合科学研究科/日本学術振興会) 野呂 文行(筑波大学人間系)
P2-68	中学校2～3年生における語彙の深さの測定の試み 社会生活上重要であると思われる語句を用いて	須藤 史晴(東京学芸大学教育学研究科) 須藤 邦彦(山口大学) 中 知華穂(東京学芸大学連合学校教育学研究科) 小池 敏英(東京学芸大学)
P2-69	中学生の英単語綴り困難のリスク要因に関する縦断的研究 英単語綴りの基礎スキルの習得と単語の透明性の関係における検討	銘苅 実土(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 中 知華穂(日本学術振興会特別研究員) 小池 敏英(東京学芸大学教育学部)
P2-70	肢体不自由及び病弱特別支援学校のセンター的機能の特徴 担当部署、コーディネーター育成、課題	田中 雅子(東京都立中野特別支援学校) 奥住 秀之(東京学芸大学) 池田 吉史(上越教育大学)

P2-71	通常の学級と通級による指導の学びの連続性に関する研究① 市区町村教育委員会を対象としたアンケート調査結果から	武富 博文(国立特別支援教育総合研究所) 清水 潤(国立特別支援教育総合研究所) 笹森 洋樹(国立特別支援教育総合研究所) 江田 良市(国立特別支援教育総合研究所) 海津重希子(国立特別支援教育総合研究所) 北川 貴章(国立特別支援教育総合研究所) 村井敬太郎(国立特別支援教育総合研究所) 若林 上総(国立特別支援教育総合研究所) 澤田 真弓(国立特別支援教育総合研究所)
P2-72	通常の学級と通級による指導の学びの連続性に関する研究② - 学校長を対象としたアンケート調査結果から -	村井敬太郎(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 江田 良市(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 笹森 洋樹(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 武富 博文(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 海津重希子(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 北川 貴章(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 清水 潤(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 若林 上総(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 澤田 真弓(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)
P2-73	通常の学級と通級による指導の学びの連続性に関する研究③ 通級による指導を受けている児童生徒の学級担任を対象にしたアンケート調査結果から	北川 貴章(国立特別支援教育総合研究所) 笹森 洋樹(国立特別支援教育総合研究所) 海津重希子(国立特別支援教育総合研究所) 江田 良市(国立特別支援教育総合研究所) 村井敬太郎(国立特別支援教育総合研究所) 若林 上総(国立特別支援教育総合研究所) 武富 博文(国立特別支援教育総合研究所) 清水 潤(国立特別支援教育総合研究所) 澤田 真弓(国立特別支援教育総合研究所)
P2-74	愛知県私立学校における特別支援教育の整備・進捗状況(1) 合理的配慮の実情把握	島田 尚幸(東海学園 東海中学校) 岩田 昌子(はるかメンタルクリニック) 藤井美穂子(至学館高等学校)
P2-75	愛知県私立学校における特別支援教育の整備・進捗状況(2) 特別支援教育実施実態の類型化の試み	岩田 昌子(はるかメンタルクリニック) 島田 尚幸(東海中学校) 藤井美穂子(至学館高等学校)
P2-76	特別支援学校における主権者教育に関する現状と課題 視覚・聴覚・肢体不自由・病弱の全国特別支援学校を対象とした質問紙調査から	和田 充紀(富山大学) 水内 豊和(富山大学)
P2-77	近藤益雄の学校外(自宅)での教育に関する一考察 益雄の妻・近藤えい子『厨にありて一教師の妻の手記』1941年の分析	船橋 秀彦(福祉型専攻科シャンティつくば)
P2-78	ICTを利用した教材作成とその効果に関する研究 - 「障害児への支援」の講義を通して -	有村 玲香(鹿児島純心女子大学) 生田 茂(大妻女子大学)
P2-79	北海道における自立活動教諭の実践による専門性の確立 - 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の資格をもつ自立活動教諭のアンケート調査から -	古川 章子(北海道大学大学院教育学院・北海道手稲養護学校) 今野 邦彦(藤女子大学)
P2-80	特別支援学校における地域資源活用に関する検討 ～授業で地域資源を活用する利点と課題について～	本多 由香(秋田大学大学院教育学研究科) 武田 篤(秋田大学教育文化学部)
P2-81	教育課程改善につなげるための個別の指導計画の活用 学級目標と個別の指導計画の関連に着目して	長谷川 哲(新潟県立東新潟特別支援学校) 藤井 和子(上越教育大学)

P3-1	盲幼児児童における分解合成課題遂行中の手の使い方の研究 —課題得点からの分析—	吉岡 陶子(千葉県立千葉盲学校) 金井 沙彩(東京都立葛飾盲学校) 岡宮 彩奈(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 福田 奏子(東京都立葛飾盲学校) 佐島 毅(筑波大学人間系)
P3-2	盲幼児児童における比較参照手続を用いたブロック構成課題における課題遂行中の手の動き	金井 沙彩(東京都立葛飾盲学校) 福田 奏子(東京都立葛飾盲学校) 吉岡 陶子(千葉県立千葉盲学校) 岡宮 彩奈(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 佐島 毅(筑波大学人間系)
P3-3	視覚障害者のための歩行訓練の実施状況2 平成28年度について	和角輝美子(社会福祉法人日本ライトハウス養成部) 山本 利和(大阪教育大学教育学部) 村江 鉄平(大阪府立大阪南視覚支援学校中学部)
P3-4	視覚特別支援学校専攻科生徒の視覚障害原因等の推移 2000年度と2015年度調査結果との比較	柿澤 敏文(筑波大学人間系) 黄 柏翰(筑波大学大学院人間総合科学研究科) Hisham Elser Bilal Salih (筑波大学大学院人間総合科学研究科)
P3-5	点字読書速度の客観化に向けて —点字読書チャートの開発—	大島 研介(神奈川大学 人間科学部) 中野 泰志(慶應義塾大学 経済学部)
P3-6	弱視乳幼児の注視を促す玩具制作の試み	山口 慶子(東北化学工業大学 医療福祉学部 視覚機能学) 猪平 真理(宮城教育大学) 楠田 徹郎(東京都教育委員会) 高見 節子(筑波大学附属視覚特別支援学校) 三浦佳奈江(筑波大学附属視覚特別支援学校)
P3-7	ふぞろいの点字ブロック 不統一の原因になっているご当地ブロック	徳田 克己(筑波大学医学医療系) 水野 智美(筑波大学医学医療系) 西館 有沙(富山大学人間発達科学部)
P3-8	Shared Spaceにおける視覚障害者への対応に関する国際的な調査	Bilal Salih Hisham Elser(筑波大学) 竹田 一則(筑波大学) 柿澤 敏文(筑波大学) 小林 秀之(筑波大学) 森 まゆ(筑波大学)
P3-9	視覚障害者の住環境における工夫1 —住宅内で使用している支援機器を中心に—	水野 智美(筑波大学 医学医療系) 徳田 克己(筑波大学 医学医療系) 河田 正興(岡山ライトハウス)
P3-10	ADHD様のある聴覚障害児と母親の変容に関する事例報告 —3年間の支援記録及び連絡ノートをもとにして—	鈴木友里恵(東京学芸大学大学院) 濱田 豊彦(東京学芸大学) 大鹿 綾(筑波技術大学) 喜屋武 睦(東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科) 岩田能理子(東京学芸大学大学院)
P3-11	集団参加を苦手とする聴覚障害児に対する支援の一事例	岩田能理子(東京学芸大学大学院) 濱田 豊彦(東京学芸大学) 大鹿 綾(筑波技術大学) 喜屋武 睦(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 鈴木友里恵(東京学芸大学大学院)
P3-12	難聴幼児への絵日記を使った言語指導 保護者の関与を促進するための工夫	佐々木あき子(東北福祉大学大学院教育学研究科) 庭野賀津子(東北福祉大学大学院教育学研究科)

P3-13	人工内耳装用幼児の語彙の発達的变化 難聴の発見が遅れた幼児への言語指導を通して	庭野賀津子(東北福祉大学大学院教育学研究科) 佐々木あき子(東北福祉大学大学院教育学研究科)
P3-14	特別支援学校(聴覚障害)におけるキャリア教育実態調査	新谷 洋介(国立特別支援教育総合研究所) 原田 公人(国立特別支援教育総合研究所) 定岡 孝治(国立特別支援教育総合研究所) 山本 晃(国立特別支援教育総合研究所)
P3-15	聴覚障害児の日本語意識に関する一研究 －日本語意識と読書・インターネット利用状況を中心に－	林 雄大(東京学芸大学院教育学研究科) 澤 隆史(東京学芸大学) 新海 晃(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)
P3-16	聴覚障害学生への情報保障支援を担う学生のメンタルヘルス 不調に影響する要因 －自己イメージの良さと社会的スキルの高さとの関連から－	磯田 恭子(筑波技術大学、筑波大学大学院人間総合科学研究科) 橋本佐由理(筑波大学体育系)
P3-17	聴覚障害者の視覚的注意の特徴に関する研究 中心視野における視覚的注意の効率を中心に	林 珊竹(筑波大学) 前川 久樹(筑波大学) 鄭 仁豪(筑波大学)
P3-18	聴覚障害児における動詞の意味理解と使用傾向 －文完成課題と動詞マッチング課題による検討－	林田 真志(広島大学)
P3-19	難聴学級教室における音環境測定・評価手法の検討 遮音量・音圧レベル分布・残響時間の測定結果について	福原 安里(筑波大学人間総合科学研究科) 加藤 靖佳(筑波大学人間系) 福原 博篤(瀋陽薬科大学環境科学科)
P3-20	聴覚障害乳幼児の絵本の興味の特徴に関する研究 大学生・大学院生の評価を通して	三枝 里江(筑波大学人間総合科学研究科) 鄭 仁豪(筑波大学人間系)
P3-21	特別支援学校(聴覚障害)幼稚部の指導場面における手指の 活用に関する研究 教員による聴覚口話を基盤とした手指の使用意図	井口亜希子(筑波大学人間総合科学研究科) 原島 恒夫(筑波大学人間系) 田原 敬(茨城大学教育学部) 堅田 明義(中部学院大学)
P3-22	きこえの困難さ検出用チェックリストによる相談事例の検討 きこえ困難の要因とその背景について	小川 征利(岐阜県立揖斐特別支援学校)
P3-23	心因性難聴と診断された小児の聴覚情報処理機能について	八田 徳高(川崎医療福祉大学) 太田 富雄(福岡教育大学)
P3-24	発達障害様の困難のある聴覚障害児への気付きシート作成 の試み －全国の聴覚障害特別支援学校に対する聞き取り調査を通 して－	天野 貴博(東京都立葛飾ろう学校) 濱田 豊彦(東京学芸大学特別支援科学講座)
P3-25	特別支援学校生徒の卒業後を見据えた総合的な学習の時間 および自立活動の指導実践	永井 直美(愛知県立岡崎聾学校)
P3-26	FM補聴システムの効果的活用に影響する要因	小林 優子(上越教育大学臨床・健康教育学系) 永井 美帆(埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園) 田原 敬(茨城大学教育学部)
P3-27	ろう重複障害児におけるアセスメントを活用した指導の重 要性 語彙指導を通して	森田 輝洋(東京都立大塚ろう学校) 手塚 美来(東京都立大塚ろう学校) 喜屋武 睦(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)
P3-28	聴覚障害児の格助詞の理解に関する一研究③ －文を読み上げる音声及びアニメーションを用いた格助詞 学習教材の検討－	坂口 嘉菜(筑波大学附属聴覚特別支援学校) 澤 隆史(東京学芸大学総合教育学系)

P3-29	公立聴覚特別支援学校を対象とした質問紙調査の回答結果にみられる教員の手話の向上を必要とする理由の傾向 教員の手話の向上に関する学校の方針・目標および手話研修実施の根拠についての管理職による自由記述の内容分析	坂井 肇(筑波技術大学大学院技術科学研究科) 大杉 豊(筑波技術大学)
P3-30	知的障害生徒の「願い」を育てる授業づくり(1) 興味・関心からはじめる国際理解教育	工藤 傑史(筑波大学附属大塚特別支援学校) 高津 梓(筑波大学附属大塚特別支援学校) 深津 達也(筑波大学附属大塚特別支援学校) 佐藤 義竹(筑波大学附属大塚特別支援学校) 安達 敬子(筑波大学附属大塚特別支援学校) 宇佐美太郎(筑波大学附属大塚特別支援学校)
P3-31	知的障害生徒の「願い」をあげ育てる授業づくり(2) 仲間とともに学びを深める「協同学習」の検討	高津 梓(筑波大学附属大塚特別支援学校) 工藤 傑史(筑波大学附属大塚特別支援学校) 深津 達也(筑波大学附属大塚特別支援学校) 佐藤 義竹(筑波大学附属大塚特別支援学校) 安達 敬子(筑波大学附属大塚特別支援学校) 宇佐美太郎(筑波大学附属大塚特別支援学校)
P3-32	知的障害教育における「育成すべき資質・能力」を踏まえた教育課程編成の在り方(1) アクティブ・ラーニングを活用した各教科の目標・内容・方法・学習評価の一体化	明官 茂(国立特別支援教育総合研究所) 神山 努(国立特別支援教育総合研究所) 横尾 俊(国立特別支援教育総合研究所) 清水 潤(国立特別支援教育総合研究所) 松井 優子(国立特別支援教育総合研究所) 半田 健(国立特別支援教育総合研究所) 村井敬太郎(国立特別支援教育総合研究所) 福本 徹(国立政策研究所、国立特別支援教育総合研究所) 涌井 恵(国立特別支援教育総合研究所) 武富 博文(国立特別支援教育総合研究所)
P3-33	知的障害教育における「育成すべき資質・能力」を踏まえた教育課程編成の在り方(2) 特別支援学校(知的障害)におけるアクティブ・ラーニングの事例検討	神山 努(国立特別支援教育総合研究所) 横尾 俊(国立特別支援教育総合研究所) 清水 潤(国立特別支援教育総合研究所) 松井 優子(国立特別支援教育総合研究所) 半田 健(国立特別支援教育総合研究所) 村井敬太郎(国立特別支援教育総合研究所) 福本 徹(国立特別支援教育総合研究所 国立教育政策研究所) 涌井 恵(国立特別支援教育総合研究所) 武富 博文(国立特別支援教育総合研究所) 明官 茂(国立特別支援教育総合研究所)
P3-34	知的障害者の自己決定に関わる問題理解プロセス遂行の特徴(1) —科学実験を通じた実践を通して—	城田 和晃(東京都立矢口特別支援学校) 今枝 史雄(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 菅野 敦(東京学芸大学)
P3-35	知的障害者の自己決定に関わる問題理解プロセス遂行の特徴(2) 比較の観点を抽出する手続きに焦点をあてて	川西 邦子(東京都立羽村特別支援学校) 吉澤 洋人(東京都立清瀬特別支援学校) 今枝 史雄(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 菅野 敦(東京学芸大学)
P3-36	知的障害特別支援学校におけるコミュニケーションの「情緒的な側面」に着目した授業研究 教員の対話による授業の振り返り	石橋あゆみ(広島市立広島特別支援学校) 竹林地 毅(広島大学大学院教育学研究科)
P3-37	知的障害特別支援学校における持久走指導 生徒のペース配分と心拍数の変動に注目したペース走の指導を通して	佐野 哲広(静岡大学教育学部附属特別支援学校) 國宗 久男(静岡大学教育学部附属特別支援) 原田 唯司(静岡大学大学院教育学研究科)

P3-38	重度知的障害児A児へ本人主体の合理的配慮を提供するための研究 実態把握資料を作成・活用した意思の推察及び意思決定支援を基盤にして	鈴木紀理子(千葉県立八千代特別支援学校) 阿部 崇(筑波大学附属大塚特別支援学校) 小曾根和子(筑波大学附属久里浜特別支援学校) 柘植 雅義(筑波大学 人間系)
P3-39	指導略案を活用した教育課程の改善	片岡 愛(広島大学大学院教育学研究科) 平川 泰寛(広島県立廿日市特別支援学校)
P3-40	特別支援学校の体育の授業におけるipadを利用した介入の在り方	藤井 誠(就実大学大学院) 岡田 信吾(就実大学大学院)
P3-41	千葉県内知的障害特別支援学校による放課後等デイサービスとの情報交換・連携の取組に関する研究 学校側への調査と実践研究を通して	西原 数馬(千葉県立市川特別支援学校) 阿部 崇(筑波大学附属大塚特別支援学校) 小曾根和子(筑波大学附属久里浜特別支援学校) 柘植 雅義(筑波大学人間系)
P3-42	ダウン症者の切り替え困難と抑制機能との関係について 抑制課題の実施を通して	竹井 卓也(東京都立八王子特別支援学校) 今枝 史雄(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 烏雲畢力格(筑波大学大学院) 菅野 敦(東京学芸大学)
P3-43	知的障害のある児童生徒の英語教育 兵庫県の特別支援学校への質問紙調査からの考察	高野美由紀(兵庫教育大学) 上田 直子(川西市立川西中学校) 武田 博子(兵庫県立西神戸特別支援学校) 有働真理子(兵庫教育大学)
P3-44	特別支援学校における保護者面談に関する教員研修の効果の検討 グループによるロールプレイを通して	大脇 知子(兵庫県立阪神特別支援学校) 岡村 章司(兵庫教育大学大学院)
P3-45	知的発達障害児のプランニングに関する研究 定型発達幼児との比較および障害種別による検討	仁科いくみ(小金井市立小金井第二小学校)
P3-46	特別支援学級における対話的教育の検討 —ヴィゴツキーの障害学理論から—	荒巻 恵子(東京大学大学院教育学研究科) 八代 史子(武蔵野市立境南小学校)
P3-47	知的障害者の自己決定における選択行為形成に向けた学習支援 —選択行為の振り返りに焦点をあてて—	深井 敏行(東京都立志村学園) 加藤 宏昭(東京都立武蔵台学園) 小笠原 拓(株式会社ドコモ・プラスハーティ) 今枝 史雄(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 菅野 敦(東京学芸大学)
P3-48	個別の指導計画作成における日本版Vineland-II 適応行動尺度の活用可能性に関する研究	四ツ永信也(鹿児島大学教育学部附属特別支援学校 鹿児島大学教育学研究科) 福留 花菜(鹿児島県立武岡台養護学校) 肥後 祥治(鹿児島大学教育学部)
P3-49	海外学術雑誌における日本の知的障害に関する研究論文 2007年以降のERIC検索結果を中心に	高野 聡子(東洋大学)
P3-50	アダプテッドスポーツ「タグ柔道」に関する実践報告	深津 達也(筑波大学附属大塚特別支援学校) 工藤 傑史(筑波大学附属大塚特別支援学校) 安達 敬子(筑波大学附属大塚特別支援学校) 中村 晋(筑波大学附属大塚特別支援学校) 宇佐美太郎(筑波大学附属大塚特別支援学校) 高津 梓(筑波大学附属大塚特別支援学校) 佐藤 義竹(筑波大学附属大塚特別支援学校)
P3-51	知的障害特別支援学校高等部における軽度知的障害のある生徒への授業実践の検討	八木絵梨奈(兵庫県立芦屋特別支援学校) 井澤 信三(兵庫教育大学)

P3-52	特別支援学校における運動部の現状と課題 部活動実施状況の調査から	熊地 需(秋田県立ゆり支援学校) 武田 篤(秋田大学) 藤井 慶博(秋田大学)
P3-53	我が国におけるインクルーシブ教育システム構築に関する 総合的研究Ⅰ インクルーシブ教育システム構築状況調査の「機関間連 携」、「構築の課題と考えている事項」に焦点を当てて	星 祐子(国立特別支援教育総合研究所) 原田 公人(国立特別支援教育総合研究所) 金子 健(国立特別支援教育総合研究所) 生駒 良雄(国立特別支援教育総合研究所) 横山 貢一(国立特別支援教育総合研究所) 滑川 典宏(国立特別支援教育総合研究所) 小林 倫代(横浜薬科大学)
P3-54	我が国におけるインクルーシブ教育システム構築に関する 総合的研究Ⅱ 諸外国におけるインクルーシブ教育に関する施策動向とそ の実際	松井 優子(国立特別支援教育総合研究所) 土井 幸輝(国立特別支援教育総合研究所) 柳澤亜希子(国立特別支援教育総合研究所)
P3-55	カサンドラ症候群と愛着障害との関係性について	岩田 ふみ(明星大学大学院 教育学研究科 教育学専攻 博士前期課程) 森下由規子(明星大学 教育学部)
P3-56	諸外国における特別支援教育の現状と日本の課題	江崎 広也(明星大学大学院 教育学研究科) 森下由規子(明星大学 教育学部)
P3-57	特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援 岐阜県の特別支援学校を対象とした調査から	松本 和久(岐阜聖徳学園大学教育学部) 安田 和夫(岐阜聖徳学園大学教育学部) 櫻井 康博(埼玉大学教育学部) 山内 達仁(合同会社太陽ホスピタリティー)
P3-58	東京都西部地区の高等学校等における特別支援教育の推進 状況3	加藤 宏昭(東京都教育庁) 吉池 久(都立南大沢学園)
P3-59	「デジタル連絡帳アプリ」による教育支援連携システムの構 築とその評価 ー児童・保護者・教師・学校に対する「効果」からー	中川 宣子(京都教育大学附属特別支援学校)
P3-60	肢体不自由児の体育指導における指導目標・指導内容の設 定に向けた取り組み 桐が丘L字型構造に基づく指導の具体化	佐々木高一(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 松浦 孝明(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 岡崎 志乃(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 川間健之介(筑波大学人間系) 宇野 彰(筑波大学附属桐が丘特別支援学校・筑波大学人間系)
P3-61	発達障害学生支援に対する大学教職員の理解 ー法的知識の理解の有無と支援に対する許容度の関連につ いてー	甲斐 更紗(九州大学基幹教育院) 横田 晋務(九州大学基幹教育院) 面高 有作(九州大学基幹教育院) 田中 真理(九州大学)
P3-62	合理的配慮の提供に活かす就学前後の支援情報の機能的翻 訳に関する研究3 就学前後の支援場面の関係について	有川 宏幸(新潟大学) 立田幸代子(岸和田市立保健センター)
P3-63	英語科における指導の重点化に向けた脳性まひ生徒の英語 学習の実態と「育てたい力」の検討 「桐が丘L字構造」に基づく指導の具体化	高橋佳菜子(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 川間健之介(筑波大学人間系) 宇野 彰(筑波大学人間系)
P3-64	インクルーシブ教育における専門家との連携の可能性(1) 保育所等訪問支援制度に関する質問紙及びインタビュー調 査を通して	藤井 梓(子ども発達スクールかすたねっと)
P3-65	小学校特別支援学級と通常の学級の教科学習における共同 学習に関する調査研究	石川 圭(愛媛大学教育学部附属特別支援学校) 加藤 哲則(愛媛大学教育学部)

P3-66	交流及び共同学習「音楽科」における合理的配慮 実践及び教員へのインタビューからの一考察	岡本 星(社会福祉法人福祉楽団)
P3-67	聾保交流保育の取り組みに関する一考察 幼児のかかわりの変容に着目して	原子はるみ(函館短期大学)
P3-68	通級担当教員の新任期における力量形成の実態に関する研究	大和田裕貴(上越教育大学) 水沢 陽代(上越教育大学) 橋本 真央(上越教育大学) 朝倉明香音(上越教育大学) 藤井 和子(上越教育大学)
P3-69	合理的配慮検討におけるICF-CYカテゴリーの活用 学校における合理的配慮の観点との適合性検討に基づいて	堺 裕(帝京大学福岡医療技術学部) 徳永亜希雄(横浜国立大学教育学部) 田中 浩二(東京成徳短期大学幼児教育科)
P3-70	脳性麻痺のある1生徒における数学科の自己調整学習支援	百瀬 翔悟(荒川区立第三峡田小学校) 八島 猛(上越教育大学大学院臨床・健康教育学系)
P3-71	合理的配慮決定のための合意形成ツール試案	徳永亜希雄(横浜国立大学) 堺 裕(帝京大学) 田中 浩二(東京成徳短期大学) 山元 薫(静岡大学)
P3-72	算数・数学科における「考える力」に着目した授業づくり -「桐が丘L字型構造」に基づく指導の具体化-	白石 利夫(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 古山 貴仁(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 類瀬 健二(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 杉林 寛仁(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 川間健之介(筑波大学人間系) 宇野 彰(筑波大学人間系)
P3-73	肢体不自由教育と知的障害教育の連携による発達障害や軽 度知的発達障害のある生徒に対する書字指導Ⅰ 書字指導の要点を導き出す肢体不自由教育の実践事例	河野 文子(国立大学法人筑波大学) 阿部 敦子(東京都立青峰学園) 諏訪 肇(東京都中部学校経営支援センター)
P3-74	肢体不自由教育と知的障害教育の連携による発達障害や軽 度知的発達障害のある生徒に対する書字指導Ⅱ キャリア教育としての書字指導の価値	諏訪 肇(東京都中部学校経営支援センター) 河野 文子(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 阿部 敦子(東京都立青峰学園)
P3-75	肢体不自由教育と知的障害教育の連携による発達障害や軽 度知的発達障害のある生徒に対する書字指導Ⅲ 発達障害や軽度の知的障害のある生徒への活用	阿部 敦子(都立青峰学園) 河野 文子(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 諏訪 肇(東京都中部学校経営支援センター)
P3-76	高等学校における通級による指導の在り方に関する研究 都道府県教育委員会アンケートから見た導入段階の課題	江田 良市(国立特別支援教育総合研究所) 笹森 洋樹(国立特別支援教育総合研究所) 伊藤 由美(国立特別支援教育総合研究所) 若林 上総(国立特別支援教育総合研究所) 海津亜希子(国立特別支援教育総合研究所) 横山 貢一(国立特別支援教育総合研究所) 棟方 哲弥(国立特別支援教育総合研究所) 渥美 義賢(国立特別支援教育総合研究所) 玉木 宗久(国立特別支援教育総合研究所)
P3-77	教師のグループ演習が行動支援計画作成技能に及ぼす効果 -特別支援教育に携わる教師効力感への影響-	酒井 武志(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科)
P3-78	特別支援学校での教育実習が教育実習生に与える影響 教育学部生用教師効力感尺度(TESPT)による一考察	立石 力斗(福岡教育大学教育学研究科)
P3-79	幼少期の親子関係が青年期の愛着関係に及ぼす影響 内的作業モデルの形成過程に着目して	遊馬 結(立教大学大学院)

- P3-80 発達障害学生支援における地域医療機関との連携  
修学支援体制と大学保健管理体制の協働に期待されること  
森脇 愛子(東京学芸大学 障がい学生支援室)  
奥住 秀之(東京学芸大学 特別支援科学講座)  
藤野 博(東京学芸大学 特別支援科学講座)
- P3-81 特別支援学校教師の職務意識に関する研究Ⅱ  
教師へのアンケート結果分析を通して  
南木 正史(栃木県芳賀青年の家)

ポスター4

9月17日(日) 12:30~14:30 イベントホール

- P4-1 東京学芸大学版『インクルーシブ保育』の実践研究Ⅰ  
附属特別支援学校幼稚部と保育園との交流学习  
小泉 浩一(東京学芸大学)  
山内 裕史(東京学芸大学)  
田口悦津子(東京学芸大学)  
橋本 創一(東京学芸大学)  
大伴 潔(東京学芸大学)  
林 安紀子(東京学芸大学)  
伊東久美子(東京学芸大学)
- P4-2 東京学芸大学版「インクルーシブ保育」の実践研究Ⅱ  
特別支援学校幼児の個別教育計画を活用した支援  
山内 裕史(東京学芸大学附属特別支援学校)  
小泉 浩一(東京学芸大学附属特別支援学校)  
伊東久美子(東京学芸大学附属特別支援学校)  
田口悦津子(東京学芸大学附属特別支援学校)  
大伴 潔(東京学芸大学)  
橋本 創一(東京学芸大学)  
林 安紀子(東京学芸大学)
- P4-3 東京学芸大学版『インクルーシブ保育』の実践研究Ⅲ  
- 保育園児のニーズに配慮した支援 -  
田口悦津子(東京学芸大学附属特別支援学校)  
伊東久美子(東京学芸大学附属特別支援学校)  
小泉 浩一(東京学芸大学附属特別支援学校)  
山内 裕史(東京学芸大学附属特別支援学校)  
大伴 潔(東京学芸大学)  
橋本 創一(東京学芸大学)  
林 安紀子(東京学芸大学)
- P4-4 特別支援学校(知的障害)における交通安全教育の実態調査  
交通安全学習による全国調査からわかること  
吉岡 学(金沢大学)  
竹川久美子(金沢大学附属特別支援学校)
- P4-5 知的障害児の地域社会とのつながりをめざす授業づくり  
公共交通機関の利用から考える  
竹川久美子(金沢大学附属特別支援学校)
- P4-6 特別支援学校教員のチームワークはどのようなものか?  
~複数担任制を敷く特別支援学校(知的障害)を対象とした、  
質問紙調査及び探索的因子分析の結果~  
宮野 雄太(横浜国立大学教育学部附属特別支援学校)
- P4-7 モデルのない構成課題(入れ子課題)において既得の行動に  
固執する自閉スペクトラム症の生徒への方略使用の促進  
木山 清貴(鳥取県立米子養護学校)  
樋口 和彦(島根大学教育学部)  
小川 巖(島根大学教育学部)  
三島 修治(島根大学大学院教育学研究科)
- P4-8 知的障害者のライフコース・アプローチ試論  
多声的質的調査から明らかになること  
平井 威(明星大学)
- P4-9 共通実行機能に弱さが見られる児童に対する指導  
- 共通実行機能課題に基づくゲーム課題を用いて -  
五十嵐晴菜(北海道教育大学大学院教育学研究科)  
北村 博幸(北海道教育大学函館校)
- P4-10 「百人一首」教材を活用した、知的障害特別支援学校におけ  
る「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の  
試み  
居石 俊二(大和特別支援学校)  
畠山富士雄(大和特別支援学校)  
久野 建夫(佐賀駅南クリニック)

P4-11	校内授業研究会における授業評価に関する研究Ⅱ -「授業評価シート」の項目改善による記述内容の変容-	若井広太郎(筑波大学附属大塚特別支援学校) 田上 幸太(筑波大学附属大塚特別支援学校) 仲野 みこ(筑波大学附属大塚特別支援学校) 初村多津子(筑波大学附属大塚特別支援学校) 高津 梓(筑波大学附属大塚特別支援学校) 北村洋次郎(筑波大学附属大塚特別支援学校) 森澤 亮介(筑波大学附属大塚特別支援学校)
P4-12	習得した知識・技能を主体的に活用することを目指した数 学科の授業実践	佐藤 誠(鹿児島大学教育学部附属特別支援学校) 上飯屋祐介(鹿児島大学教育学部附属特別支援学校)
P4-13	知的障害のある児童に対する授業づくりの研究 体育科サーキット運動の指導を通して	伊藤 曜子(東京都立王子第二特別支援学校)
P4-14	音声ペンを活用して意思の表出を促す授業を目指して 「みんなでゲームをしよう！」～絵合わせカルタゲーム～	杉田 葉子(筑波大学附属大塚特別支援学校) 本間 貴子(筑波大学附属大塚特別支援学校) 佐藤 知洋(筑波大学附属大塚特別支援学校) 根本 文雄(筑波大学附属大塚特別支援学校) 生田 茂(大妻女子大学)
P4-15	知的障害特別支援学校の授業づくりに関する質的研究 ミドルリーダーの実践知の質的分析を通して	遠藤 貴則(茨城大学大学院教育学研究科) 新井 英靖(茨城大学教育学部)
P4-16	通常学級と特別支援学級の連携に関する考察 -S市におけるアンケート調査の分析を通して-	岡崎 茜(北海道教育大学大学院教育学研究科) 青山 眞二(北海道教育大学)
P4-17	知的障害特別支援学級における授業分析 -小学校特別支援学級の算数授業を通して-	庄子 果那(北海道教育大学大学院教育学研究科) 青山 眞二(北海道教育大学)
P4-18	知的障害者の身体模倣におけるモデルの向きの影響	新垣香菜子(東京学芸大学大学院教育学研究科)
P4-19	特別支援学校のセンター的機能に関する研究-学校コンサル テーションの考え方に着目して-	高垣 尚子(広島県立尾道特別支援学校)
P4-20	交流及び共同学習における「かかわり場面」に関する調査 -授業場面の観察から-	大桑 初音(横浜国立大学教育学研究科) 五島 脩(横浜国立大学教育学研究科) 佐藤 賢也(横浜国立大学教育学研究科) 高野 陽介(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 泉 真由子(横浜国立大学教育学部)
P4-21	ASD児に対する言行一致行動訓練がセルフコントロールに 与える効果について 自己選択と自己教示	半田 瞳(作新学院大学臨床心理センター) 高浜 浩二(作新学院大学大学院心理学研究科)
P4-22	人間関係上の課題を有する特別な教育的支援を必要とする 幼児へのハイブリッド型SSTの効果	戸ヶ崎泰子(宮崎大学教育学部)
P4-23	発達障害のある児童生徒を対象とした小集団型感情理解プ ログラムの効果と課題に関する文献的検討	岬 和希(岡山大学院教育学研究科) 丹治 敬之(岡山大学院教育学研究科)
P4-24	発達障害のある中学生の援助要請行動に関する調査研究 どのような理由から援助要請できないのかの検討	杉岡 千宏(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 橋本 創一(東京学芸大学教育実践研究支援センター)
P4-25	広汎性発達障害児に対する共同的な遊びの促進と他者を誘 う行動の形成に関する検討	佐野 文美(東京学芸大学教育学研究科) 井草亜季子(東京学芸大学教育学研究科) 前川圭一郎(足立区子ども支援センター) 小笠原 恵(東京学芸大学)
P4-26	自閉スペクトラム症児における問題解決的要求言語行動の 形成	下山 真平(東京学芸大学教育学研究科) 小笠原 恵(東京学芸大学)

P4-27	情動調整に視点を当てることによる教師の子ども理解の変容 特別支援学校高等部における S C E R T S モデルを活用した 実践から	岩附 敦史(静岡県立富士特別支援学校)
P4-28	自閉スペクトラム症児に対する社会的問題解決スキル指導 の検討 —Mind-Readingプログラムを通して—	堀越麻友紀(筑波大学人間総合科学研究科) 中野 泰伺(筑波大学人間総合科学研究科) 岡崎 慎治(筑波大学人間系)
P4-29	自閉症者のソーシャルアメンティの獲得におけるルール従 事行動に対する強化手続きの効果の検討	山本 真也(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科) 井澤 信三(兵庫教育大学大学院)
P4-30	自閉症児における模倣指導によるルール習得に関する一考察	金重 和也(東京学芸大学特別支援教育特別専攻科) 石井 偲花(東京学芸大学大学院教育学研究科) 小笠原 恵(東京学芸大学)
P4-31	自閉スペクトラム症のある学生への就労支援プログラム 自己理解を含む社会移行の準備性に焦点を当てた取り組み	面高 有作(九州大学 基幹教育院) 田中 真理(九州大学)
P4-32	自閉スペクトラム症の事象関連性コヒーレンスの予備的検討	高橋 由子(高知大学総合人間自然科学研究科) 寺田 信一(高知大学教育学部門) 松本 秀彦(高知大学学生総合支援センター)
P4-33	知的能力障害を伴わないASD男児群のWISC-IVにおける GAIとCPIの検討	天海 丈久(弘前大学) 衛藤 裕司(大分大学)
P4-34	高等教育機関における発達障害学生に対するピアサポート (1) 自閉症スペクトラム障害学生が抱える支援ニーズに焦点を 当てて	永瀬 開(山口県立大学社会福祉学部)
P4-35	50歳を超えた自閉症の人たちの生活能力の加齢変化	近藤 裕彦(社会福祉法人檜の里 あさけ学園)
P4-36	自閉スペクトラム症児における表情模倣と視線追跡	菊池 哲平(熊本大学教育学部)
P4-37	自閉スペクトラム症(ASD)児の行動調整を促す環境介入 実行機能に着目した評価とアプローチを通じて	高宮明日香(立教大学大学院 現代心理学研究科)
P4-38	自閉スペクトラム傾向のある児童に対する登校改善支援 多角的なアセスメントによる生活リズム改善に関する介入 事例	平野 晋吾(福山市立大学教育学部) 神野 愛(茨城大学特別支援教育特別専攻科)
P4-39	PECSが自閉スペクトラム症児の母親の育児ストレスに及ぼ す効果	永井 祐也(くらしき作陽大学子ども教育学部) 日野林俊彦(藍野大学医療保健学部) 金澤 忠博(大阪大学大学院人間科学研究科)
P4-40	道徳的葛藤場面におけるASD児の行動選択 他者の気持ちの想像が自己優先方略に与える影響の検討	岡村恵里子(守谷市こども療育教室) 岡崎 慎治(筑波大学人間総合科学研究科) 大六 一志(なし)
P4-41	放課後等デイサービスにおけるSSTの効果に関する研究2 A S D 男子における1年間の症状と行動問題の変化について の検討	荒牧 要右(YCCこども教育研究所) 堂 周平(YCCこども教育研究所) 小國真由子(YCCこども教育研究所) 中嶋 麻美(YCCこども教育研究所) 藤井茉衣子(YCCこども教育研究所) 安原 昭博(安原こどもクリニック)
P4-42	発達障害学生への就業支援の効果と要因分析 支援効果と被援助志向性の関連に着目して	吉田 ゆり(長崎大学教育学部) 田山 淳(長崎大学大学院教育学研究科) 鈴木 保巳(長崎大学大学院教育学研究科)

P4-43	軽度知的障害のある子どもの数字の読み書きと認知特性	黄 淵熙(東北福祉大学) 小野寺那佳(東北福祉大学大学院) 平野 裕司(東北福祉大学大学院)
P4-44	自閉症スペクトラム障害のある児童を対象とした語彙の指導 絵本の読み聞かせを用いた試み	平野 裕司(東北福祉大学大学院 総合福祉学研究所) 小野寺那佳(東北福祉大学大学院教育学研究科) 黄 淵熙(東北福祉大学教育学部)
P4-45	定時制高校生の社会性習得度チェックリストの開発① 教員用チェックリストの妥当性、信頼性の検証	若林 上総(国立特別支援教育総合研究所) 土居 正城(長野県飯田養護学校) 戸賀沢亮子(埼玉県立川越工業高等学校) 佐野 和規(山梨県立教育センター) 加藤 哲文(上越教育大学)
P4-46	定時制高校生の社会性習得度チェックリストの開発② 高校生と担任教員の社会性習得度評定の比較	土居 正城(長野県飯田養護学校) 若林 上総(国立特別支援教育総合研究所) 戸賀沢亮子(埼玉県立川越工業高等学校) 佐野 和規(山梨県立教育センター) 加藤 哲文(上越教育大学)
P4-47	「読めた」「わかった」「できた」読み書きアセスメント(1) －漢字単語の読み書きテストの妥当性に関する検討－	中 知華穂(日本学術振興会) 竹村 幸見(東京学芸大学大学院教育学研究科) 銘荊 実土(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 成田 まい(NPO法人スマイルプラネット) 須藤 史晴(東京学芸大学大学院教育学研究科・世田谷区立砦小学校) 小池 敏英(東京学芸大学教育学部) 緒方 直彦(東京都教育庁)
P4-48	「読めた」「わかった」「できた」読み書きアセスメント(2) －読み書きアセスメントに基づく、漢字書き支援の効果－	竹村 幸見(東京学芸大学大学院) 中 知華穂(日本学術振興会特別研究員) 銘荊 実土(東京学芸大学大学院) 成田 まい(NPO法人スマイルプラネット) 須藤 史晴(世田谷区立砦小学校) 小池 敏英(東京学芸大学) 緒方 直彦(東京都教育庁)
P4-49	UDL(Universal Design for Learning)の視点による中学校3年理科(物理)の授業改善 現状把握に基づき、主体的に学ぶ生徒の育成を目指したオプション(学び方の選択肢)の提供	三浦 睦美(島根大学教育学部附属学校学習生活支援研究センター) 大谷みどり(島根大学教育学部) 樋口 和彦(島根大学教育学部) 小川 巖(島根大学教育学部) 三島 修治(島根大学教職大学院)
P4-50	ユニバーサルデザイン化と児童による評価の変化－担任と児童への質問紙調査から－	山元 薫(静岡大学)
P4-51	学習困難児の授業参加と学習集団づくりに関する研究 小学校に勤務する4名の教師へのインタビュー調査を通して	小里 直通(茨城大学大学院教育学研究科) 新井 英靖(茨城大学教育学部)
P4-52	漢字書字学習における振り返りによる行動調整 振り返り条件の検討	霜田 浩信(群馬大学教育学部) 本間 健一(高崎市立中居小学校)
P4-53	小学2年生における漢字書字低成績の誤答特徴に関する研究 重度低成績児及び要配慮児についての検討	中村 理美(東京学芸大学附属特別支援学校) 中 知華穂(日本学術振興会) 小池 敏英(東京学芸大学)
P4-54	中学校における通級による指導の在り方に関する研究 担当者へのアンケート調査結果から見た現状と課題	笹森 洋樹(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 若林 上総(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)
P4-55	小集団学習場面における特別な教育的ニーズのある児童のかかわりを促すための意見集約型課題の活用	石田 脩介(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科) 大庭 重治(上越教育大学大学院学校教育研究科) 池田 吉史(上越教育大学大学院学校教育研究科)

P4-56	地域スポーツ活動における特別な教育的支援を要する児童と周囲児との相互的関わり	鷹野 遥香(山梨大学大学院教育学研究科) 吉井 勘人(山梨大学大学院教育学域)
P4-57	マルチメディアデジ教科書の普及促進に向けた取組	平岡 昌樹(大阪市教育委員会) 長田 江里(日本障害者リハビリテーション協会)
P4-58	通常学級における特別支援教育研修の在り方 ーニーズ調査に基づくプログラムの設定とその評価ー	熊谷 彩(株式会社LITALICO) 野口 晃菜(株式会社LITALICO) 米田 宏樹(筑波大学人間系)
P4-59	様々な音声付教材の統一的作成システムの開発	藤芳 明生(茨城大学) 藤芳 衛(大学入試センター)
P4-60	絵カード文学療法(Literary therapy)プログラムがEBD青少年のADHD症状の軽減に及ぼす効果に関する研究 SST基盤文学療法(Literary therapy)プログラムを中心として	落合 俊郎(大和大学 教育学部) KIM Youngghan(韓国 大邱大学校 師範大学 特殊教育科) LEE Hyoshin(韓国 大邱大学校 師範大学 特殊教育科) KIM Sungbum(韓国 大邱大学校 師範大学 特殊教育科) KIM Darae(韓国 大邱大学校 師範大学 特殊教育科) KWON Soojung(韓国 大邱大学校 師範大学 特殊教育科) PARK Jungmin(韓国 大邱大学校 師範大学 特殊教育科) LEE Jinok(韓国 大邱大学校 師範大学 特殊教育科)
P4-61	行動障害への指導力向上に向けたOJTプログラムの効果Ⅱ ～特別支援学校でのプログラムの効果の検討と修正を通して～	野村 理絵(鹿児島大学大学院教育学研究科(県立串木野養護学校)) 肥後 祥治(鹿児島大学教育学部)
P4-62	行動障害への指導力向上に向けたOJTプログラムの効果Ⅰ (2) プログラムの効果の質的分析	肥後 祥治(鹿児島大学教育学系) 永田 留菜(鹿屋市立寿北小学校)
P4-63	視覚障害のある女子生徒が示す行動への包括的な支援 ー教師の記録行動と会議での情報共有による支援の効果の検討ー	式部 義信(兵庫県立視覚特別支援学校)
P4-64	粗暴行為のある子どもの子育てに悩む母親に対するペアレント・トレーニング実施の効果 個別指導による子どもの変化について	前野 明子(鹿児島大学教育学研究科) 肥後 祥治(鹿児島大学教育学系)
P4-65	通常学校設置の特別支援学校分校・分教室の今後の諸課題 ーインクルーシブ教育システムの観点からみたー	柳本 雄次(東京家政大学)
P4-66	障害理解教育の授業を通じた中学生の思考の変容 M-GTAを用いた授業終了後の感想文の分析から	平沼 源志(大阪体育大学教育学部) 藤井 梓(子ども発達スクールかすたねっと) 富永 光昭(大阪教育大学)
P4-67	高校生の障害観に及ぼす要因の検討(1) ー各属性、接触頻度及び交流経験による差異に焦点を当ててー	佐藤 賢也(横浜国立大学大学院教育学研究科) 大桑 初音(横浜国立大学大学院教育学研究科) 五島 脩(横浜国立大学大学院教育学研究科) 高野 陽介(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 泉 真由子(横浜国立大学教育学部)
P4-68	「障害のある」子どもと「ない」子どもが共に過ごすとは 保育・教育の場で保育実践する社会人保育者1年目の語りから	鈴木 晴子(十文字学園女子大学) 潮谷 恵美(十文字学園女子大学) 山田 陽子(十文字学園女子大学) 権 明愛(十文字学園女子大学)
P4-69	系統性をふまえ、一人ひとりの育てたい力を明確にした国語科の指導 「桐が丘L字構造」に基づく指導の具体化	田村 裕子(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 有井 香織(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 川間健之介(筑波大学人間系) 宇野 彰(筑波大学人間系)

P4-70	小中学校特別支援学級における学生ボランティアの活用(3) 3年間の総括と単位化について	今野 邦彦(藤女子大学)
P4-71	理科の学習に難しさのある児童生徒に対する系統的な指導 目標の設定と評価 ー「桐が丘L字型構造」に基づく指導の具体化ー	小山 信博(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 山浦 和久(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 川間健之介(筑波大学人間系) 宇野 彰(筑波大学人間系)
P4-72	当該学年の目標及び内容、進捗での学習が難しい子どもへの 社会科(地理歴史科)の指導実践 「桐が丘L字型構造」に基づく指導の具体化	小林 博信(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 田中 麻衣(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 川間健之介(筑波大学人間系) 宇野 彰(筑波大学人間系, 筑波大学附属桐が丘特別支援学校)
P4-73	京都府スーパーサポートセンター(SSC)の取組 京都府立特別支援学校の地域支援センター等との連携による、 特別支援教育の拠点機能の充実	大森 直也(京都府立宇治支援学校) 須郷 敏広(京都府立宇治支援学校) 関口 佳美(京都府立宇治支援学校) 杉崎 紀子(京都府立宇治支援学校)
P4-74	「交流及び交流学习」における児童同士の関係の変容過程 ー特別支援学級在籍児童の事例からー	瀧音 夏実(宇都宮市石井小学校) 司城紀代美(宇都宮大学大学院教育学研究科)
P4-75	肢体不自由児の小学校体育授業における現状分析 インクルーシブ体育の教育的ニーズと合理的配慮について	松浦 孝明(筑波大学附属桐が丘特別支援学校)
P4-76	障害がある子の家族支援とアセスメントの活用 家族QOLアセスメントを用いた事例研究より①	小林 保子(鎌倉女子大学)
P4-77	小学校の特別支援教育コーディネーターに対する参画型研 修の効果 コーディネーションの役割に焦点を当てて	名村 嘉将(相生市立双葉小学校) 岡村 章司(兵庫教育大学大学院)
P4-78	特別な教育ニーズのある子どもとのコミュニケーションV 子どもの発達に寄り添って	松本 彰之(日本体育大学大学院)
P4-79	発達障害に対する高校生の知識と意識に関する調査研究	村上 理絵(岡山大学大学院教育学研究科) 吉利 宗久(岡山大学大学院教育学研究科)
P4-80	学習時間の配分に影響を及ぼす心理的要因の検討	秋元 響(立教大学大学院)
P4-81	特別支援学校における超早期段階からの知的・重複・発達 障害児への支援の在り方(4) 「乳幼児教育相談」からみる幼稚園教育要領に則った地域子 育て支援への貢献と可能性	田尻 由起(東洋大学) 高橋 幸子(國學院大學) 森澤 亮介(筑波大学附属大塚特別支援学校) 安部 博志(筑波大学附属大塚特別支援学校) 藤原 義博(創価大学) 佐島 毅(筑波大学) 柘植 雅義(筑波大学)
P4-82	インクルーシブな教育を担う教員養成に向けて(1) ー学部講義における「特別支援教育の視点」の認識傾向ー	青山 新吾(ノートルダム清心女子大学人間生活学部)

## ポスター5

9月17日(日) 15:00~17:00 イベントホール

P5-1	知的障害者の自己決定の選択プロセスの遂行の特徴 未知課題を題材とした実践を通して	今枝 史雄(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 小笠原 拓(株式会社ドコモ・プラスハーティ) 竹井 卓也(東京都立八王子特別支援学校) 菅野 敦(東京学芸大学)
------	---	--

P5-2	知的障害者の単独通所に対する教育機会の影響 ライフステージ別のニーズならびに支援実態に基づく分析	五味 洋一(筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター) 神山 努(国立特別支援教育総合研究所) 本間 貴子(筑波大学附属大塚特別支援学校) 山田 康広(中電ウイング株式会社)
P5-3	知的障害児の運動技能に関する縦断的研究	松坂 晃(茨城大学)
P5-4	知的障害特別支援学校高等部専門学科の授業における生徒指導について ～生徒指導に携わる教員に対する調査から～	小松 良平(秋田県立大曲支援学校) 藤井 慶博(秋田大学教育文化学部)
P5-5	特別支援学級担任者の職務と専門性の向上に関する研究 小学校特別支援学級(自閉症・情緒障害)における教育実践のM-GTA分析結果より	高木 由希(新潟県立佐渡特別支援学校) 竹林地 毅(広島大学大学院教育学研究科)
P5-6	卒業後の生活から見た自立活動の指導の検証	貝本 智和(長崎県立島原特別支援学校) 一木 薫(福岡教育大学) 古川 勝也(西九州大学)
P5-7	特別支援教育におけるパートナーシップ形成に対する保護者の意識に関する研究	古樋 咲世(大阪府立 守口支援学校) 佐藤 克敏(京都教育大学)
P5-8	生徒の自己選択・自己決定を生かす指導法の検討 就業技術科における実践から	昼間 友彦(東京都立調布特別支援学校) 吉池 久(東京都立南大沢学園)
P5-9	成人期知的障害者の就労における自己調整方略に関する研究 自己調整方略尺度の作成を通して	烏雲畢力格(筑波大学 人間総合科学研究科 障害科学専攻) 今枝 史雄(東京学芸大学大学院) 伊藤 浩(社会福祉法人幸会) 小笠原 拓(樹ドコモプラスハーティ) 菅野 敦(東京学芸大学) 柘植 雅義(筑波大学)
P5-10	児童生徒のキャリア発達を支えるARA・SHIの教育プログラムの構築(3) 子ども一人一人の自立を目指して	林 健太郎(熊本県立荒尾支援学校)
P5-11	知的障害特別支援学校におけるアセスメントツールの活用状況に関する調査研究 活用上の課題や工夫	熊谷 亮(福岡教育大学障害学生支援センター) 橋本 創一(東京学芸大学教育実践研究支援センター) 宮崎 義成(東京都立府中けやきの森学園) 川池 順也(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)
P5-12	Functional List of Survival Words for Students with Severe Disabilities in South Korea	田 炳雲(国立公州大学) 徐 知援(国立公州大学) 金 ミンジョン(国立公州大学) 権 會娟(U1大学)
P5-13	知的障害児における自発的な要求言語行動の形成に関する研究 2種類の要求言語行動の使い分けを通して	成田 遼(東京学芸大学大学院教育学研究科) 加藤 慎吾(東京学芸大学) 小笠原 恵(東京学芸大学)
P5-14	特別支援学校中学部での授業「見つけた考えた」に関する考察 -「対話的な学び」における、一人ひとりへの対応の充実に向けた取り組み-	山崎 大輔(旭出学園(特別支援学校)) 菊池けい子(旭出学園教育研究所)
P5-15	成人期知的障害者の障害福祉サービスにおける一般就労へ向けた支援課題に関する研究 -全国の就労移行支援事業所への調査を通して-	近藤 拓弥(独立行政法人福祉医療機構) 今枝 史雄(東京学芸大学大学院) 竹井 卓也(東京都立八王子特別支援学校) 烏雲畢力格(筑波大学大学院) 菅野 敦(東京学芸大学)

P5-16	都立特別支援学校における新たな地域支援の取組 知的障害特別支援学校と知的障害特別支援学級との連携	池尻加奈子(東京都立清瀬特別支援学校) 市川 裕二(東京都立清瀬特別支援学校)
P5-17	保護者による知的・発達障害児のきょうだいに対する障害 説明の実態	三浦 果菜(神奈川県立中原養護学校) 米田 宏樹(筑波大学人間系)
P5-18	特別支援学校(知的障害)における話し合い活動の指導につ いての実践的研究	棚内 伸子(弘前大学教育学研究科) 増田 貴人(弘前大学)
P5-19	心理・保育系学部生に対する大学内での発達支援臨床のト レーニング・プログラム(1) -学生の包括的発達支援プログラムへの参加-	長崎 勤(実践女子大学) 鈴木はるみ(北海道医療大学)
P5-20	心理・保育系学部学生に対する大学内での発達支援臨床の トレーニング・プログラム(2) 学生の支援スキルの習得と子ども観・スペクトルな障害観 への変化	鈴木はるみ(北海道医療大学) 長崎 勤(実践女子大学生生活科学部)
P5-21	肢体不自由特別支援学校における自立活動専任の役割に関 する研究(1) 自立活動の専門性の継承に向けた学校組織改編の取り組み	内山誉利子(大阪府立堺支援学校) 浅野裕加子(大阪府立堺支援学校) 浦井 尚女(大阪府立堺支援学校) 三木 容子(大阪府立堺支援学校) 三宅 有(大阪府立堺支援学校) 岩佐 昌英(奈良学園大学)
P5-22	肢体不自由特別支援学校における自立活動専任の役割に関 する研究(2) 自立活動専任スタッフ業務の「認知度」と「有用度」に関する 全校アンケートより	浦井 尚女(大阪府立堺支援学校) 浅野裕加子(大阪府立堺支援学校) 内山誉利子(大阪府立堺支援学校) 三木 容子(大阪府立堺支援学校) 三宅 有(大阪府立堺支援学校) 岩佐 昌英(奈良学園大学)
P5-23	体育授業におけるICT機器の活用に関する予備的検討 ICTの活用は肢体不自由児者の運動意欲や他者への関心を 高めるのに有効か	金井 大(横浜市立上菅田特別支援学校) 岡鼻 千尋(横浜市立上菅田特別支援学校) 鈴木 章裕(横浜市立上菅田特別支援学校)
P5-24	視知覚障害を有する脳性麻痺児における分数の学習過程 筋運動感覚フィードバックが明確な教材・教具に着目をして	松本健太郎(東京都立永福学園) 福田 奏子(東京都立葛飾首学校) 佐島 毅(筑波大学人間系障害科学域)
P5-25	機能訓練から養護・訓練への移行 -指導体制・指導内容を中心に-	丹野 傑史(長野大学社会福祉学部)
P5-26	肢体不自由特別支援学校における認知面の実態把握について 感覚と運動の高次化発達診断評価法の肢体不自由特別支援学 校への応用	富田 直(埼玉県立越谷特別支援学校) 池畑美恵子(淑徳大学発達臨床研究センター)
P5-27	全国高等学校への質問紙調査による肢体不自由生徒の教 育・支援の実態と課題についての検討	高野 陽介(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 泉 真由子(横浜国立大学教育学部) 佐藤 賢也(横浜国立大学大学院教育学研究科) 大桑 初音(横浜国立大学大学院教育学研究科) 五島 脩(横浜国立大学大学院教育学研究科)
P5-28	重度肢体不自由学生に対する合理的配慮の検討 情報系演習科目におけるマルチディスプレイ導入を通して	橋本 陽介(宮城大学事業構想学群) 熊井 正之(東北大学大学院教育情報学研究部)
P5-29	肢体不自由児の地域支援研究Ⅶ 通級による支援教室を通して	佐藤 孝二(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 河野 文子(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 清野 祥範(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 古山 貴仁(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 小泉 清華(筑波大学附属桐が丘特別支援学校)

P5-30	アメリカ公教育のSchool-Based Physical Therapyについて 特別支援学校外部専門家の活動指針に関する文献研究	高野 有紀(筑波大学人間総合科学研究科) 川間健之介(筑波大学人間系)
P5-31	東京都立光明特別支援学校における進路指導の変遷	竹内 博紀(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 安藤 隆男(筑波大学人間系)
P5-32	病弱特別支援学校におけるセンター的機能の現状と課題	藤井 慶博(秋田大学)
P5-33	特別支援学校(病弱)に在籍する生徒の他者への意識と不安 の関連	川内絵莉子(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 永井 祐也(くらしき作陽大学子ども教育学部) 竹田 一則(筑波大学人間系)
P5-34	入院児の教育における学校間連携の在り方 - 病院訪問教育において特別支援学校が果たすべき役割 -	門脇 恵(秋田大学大学院教育学研究科) 藤井 慶博(秋田大学大学院教育学研究科)
P5-35	院内学級教員の児童生徒との死別による悲嘆とその対応	寺本あかり(静岡大学教育学部特別支援教育専攻) 石川 慶和(静岡大学教育学部)
P5-36	感覚障害を伴う重複障害児への学習支援に関する実践研究Ⅰ 聴覚障害を伴う重複障害事例	遠藤亜未奈(宮城教育大学大学院教育学研究科) 菅井 裕行(宮城教育大学特別支援教育講座)
P5-37	感覚障害を伴う重複障害児への学習支援に関する実践研究Ⅱ 視覚障害を伴う重複障害事例	菅井 裕行(宮城教育大学) 遠藤亜美奈(宮城教育大学大学院教育学研究科)
P5-38	重度・重複障害のある子どもの教科指導と自立活動の指導 の関連Ⅲ	立岡 里香(長崎県立長崎特別支援学校) 一木 薫(福岡教育大学) 古川 勝也(西九州大学)
P5-39	重度・重複障害のある子どもの教科指導と自立活動の指導 の関連 - 国語と自立活動の関連に着目して -	西村 大介(長崎県立諫早特別支援学校) 一木 薫(福岡教育大学) 古川 勝也(西九州大学)
P5-40	小中学校等で学習する重複障害のある子どもの教育の充実 に関する研究(1) 市区町村教育委員会を対象としたアンケート調査の数値 データから	小澤 至賢(国立特別支援教育総合研究所) 齊藤由美子(国立特別支援教育総合研究所) 大崎 博史(国立特別支援教育総合研究所) 星 祐子(国立特別支援教育総合研究所) 藤本 裕人(帝京平成大学)
P5-41	小中学校等で学習する重複障害のある子どもの教育の充実 に関する研究(2) 市区町村教育委員会対象のアンケート調査結果から人的配 置・専門性の担保に焦点をあてて	齊藤由美子(国立特別支援教育総合研究所) 小澤 至賢(国立特別支援教育総合研究所) 大崎 博史(国立特別支援教育総合研究所) 星 祐子(国立特別支援教育総合研究所) 藤本 裕人(帝京平成大学)
P5-42	肢体不自由特別支援学校における重度・重複障害児の自立 活動の指導理論・技法に関する全国調査(1)	姉崎 弘(常葉大学教育学部) 藤澤 憲(和歌山県立和歌山さくら支援学校) 桃井 克将(徳島文理大学保健福祉学部) 井上 和久(和歌山大学教育学部)
P5-43	働きかけに対する意識的反応がみられない超重症児への指 導の成果に関する担任教師の認識	野崎 義和(宮城教育大学教員キャリア研究機構)
P5-44	全国の肢体不自由特別支援学校を対象としたアセスメント ツールの実態に関する調査研究 - 各校独自のアセスメントツールの項目の分析を中心に -	宮崎 義成(東京学芸大学教育実践研究支援センター) 橋本 創一(京学芸大学教育実践研究支援センター) 川池 順也(東京都立村山特別支援学校)
P5-45	訪問教育対象児童生徒の学習環境に関する研究 家庭訪問教育の人的環境に係る調査結果	川住 隆一(東北福祉大学教育学部) 野崎 義和(宮城教育大学教員キャリア研究機構)
P5-46	寝返り不可の重度・重複障害者における視覚機能評価 心拍指標を用いて	石田 修(筑波大学大学院人間総合科学研究科・さいたま市立仲本小学校) 水谷 勉(株式会社ビー・オール・システムズ)

P5-47	重度・重複障害のある子どもの国語科の指導について	榊原 知恵(長崎県立長崎特別支援学校) 一木 薫(福岡教育大学) 古川 勝也(西九州大学)
P5-48	重度肢体不自由児の表出行動における理解と支援	黒江 純子(和歌山県立紀伊コスモス支援学校) 江田 裕介(和歌山大学教育学部 教授)
P5-49	肢体不自由と知的障害を併せ有する生徒のトイレトレーニング(その2) —学級経営としての介入の効果と課題の検証—	伊澤 良太(神奈川県立中原養護学校)
P5-50	自立活動の学習評価に基づく「3年後の姿」の評価 —重度・重複障害のある子どもの指導実践を通して—	相良知恵子(長崎県立佐世保特別支援学校) 一木 薫(福岡教育大学) 古川 勝也(西九州大学)
P5-51	特別支援学校(肢体不自由)における教育課程と多様な集団のなかでの教育指導の実際 A特別支援学校小学部における「発達保障」の実践事例	垂髪あかり(神戸大学大学院人間発達環境学研究所博士課程後期課程)
P5-52	重症心身障害児を対象とした映像空間の継続的効果 行動観察及び瞬目を用いた検討	津瀬 直彦(長野県松本養護学校) 宮地弘一郎(信州大学教育学部)
P5-53	重度重複障害児の可能性の分析に関する考察 「読み聞かせ」における受信・発信行動に注目して	奥山 敬(東京都立光明学園)
P5-54	障害の重い子どもの目標設定とその妥当性(2) 目標設定の手がかりとなる考え方の整理	徳永 豊(福岡大学) 田中 信利(北九州市立大学) 古山 勝(千葉県立立香取特別支援学校) 一木 薫(福岡教育大学) 吉川 知夫(国立特別支援教育総合研究所)
P5-55	重症心身障害児の体幹変形と呼吸運動の関係 肢体不自由特別支援学校の自立活動・時間の指導の取り組みから	武田 俊男(金沢大学大学院 人間社会環境研究科)
P5-56	特別支援学校(肢体不自由)の重度・重複障害児を対象とした「個別の指導計画」作成の方法と課題に関する質問紙調査 実態把握や指導目標設定のためのツールに着目して	長野 実和(筑波大学附属視覚特別支援学校) 川間健之介(筑波大学人間系)
P5-57	覚醒レベルの低い重度・重複障害児の学習を促進する条件	菅 智津子(島根県立松江清心養護学校) 樋口 和彦(島根大学) 三島 修治(松江清心養護学校)
P5-58	特別支援教育における音声ペンを活用した教育実践(1) ICTツールを活用した合理的配慮の実際	佐々木大輔(千葉大学教育学部附属特別支援学校) 綿貫 正道(グリッドマーク株式会社) 生田 茂(大妻女子大学社会情報学部)
P5-59	特別支援学校における音声ペンを活用した教育実践(2) I C Tツールを活用した合理的配慮の実際	漆畑 千帆(千葉県立市川特別支援学校) 飯島 徹(筑波大学附属大塚特別支援学校) 田上 幸太(筑波大学附属大塚特別支援学校) 生田 茂(大妻女子大学社会情報学部)
P5-60	障害者スポーツに対する特別支援学校教員の関わり方と学校における生徒への取り組み	渡邊 貴裕(順天堂大学スポーツ健康科学部) 鈴木 宏哉(順天堂大学スポーツ健康科学部) 杉岡 千宏(東京学芸大学大学院) 杉浦 采夏(東京学芸大学大学院) 熊谷 亮(福岡教育大学障害学生支援センター) 尾高 邦生(東京学芸大学附属特別支援学校) 橋本 創一(東京学芸大学教育実践研究支援センター)

P5-61	支援が必要な子どもの各教科等の指導推進のための教員養成プログラムの検討(3) 教育委員会が求める支援が必要な子どもの指導に関する専門性	楠浦 舞子(上越教育大学大学院) 後藤 千明(上越教育大学大学院) 武知 由佳(上越教育大学大学院) 堤 勇登(上越教育大学大学院) 笠原 芳隆(上越教育大学)
P5-62	障害幼児への就学先決定に関わる取り組みの実態 -「発達障害早期総合支援モデル事業」指定地域への調査を通して-	佐藤 麗奈(東京学芸大学大学院教育学研究科) 今枝 史雄(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 菅野 敦(東京学芸大学)
P5-63	特別な支援が必要な児童に対する教員間の連携の構造分析	大塚 玲(静岡大学)
P5-64	知的障害児への性教育実践の改善に関する基礎的視点の検討(3) 中学校特別支援学級における性教育実践をもとに	児嶋 芳郎(広島都市学園大学子ども教育学部子ども教育学科)
P5-65	個別の指導計画を扱う専門性を高める校内研修プログラム 先生同士の主体的・協働的な学び合いを生み出す校内体制整備の推進	加藤 和子(埼玉大学教育学部附属特別支援学校) 若林 上総(国立特別支援教育総合研究所) 杉浦 里奈(熊谷市立熊谷西小学校)
P5-66	学習ルールのUD化による通常学級での支援と効果	加藤 健(本巣市立一色小学校)
P5-67	発達障害のある高校生の在籍学級の友人への障害理解学習 授業実践後の意識調査と行動変容	古長 祐治(大分県立中津東高等学校) 衛藤 裕司(大分大学教育学部)
P5-68	特別支援学校管理職の職能に関する調査研究に基づく教職大学院での研修モデルの検討Ⅳ	坂本 裕(岐阜大学教職大学院) 一門 恵子(九州ルーテル学院大学人文学部) 平澤 紀子(岐阜大学教職大学院) 松本 和久(岐阜聖徳学園大学教育学部)
P5-69	「T1-T2-T3-T4学習法」における記憶の保持と働き	松阪 啓子(よこはま児童文化研究所)
P5-70	eラーニングシステムの特別支援利用時における品質に関する予備的検討	熊井 正之(東北大学大学院教育情報学研究部) 森 つくり(MORI SPEECH CLINIC) 橋本 陽介(宮城大学事業構想学群)
P5-71	アクセシビリティにおける車いすユーザーと学生の合理的配慮への意識について	阿部 詩織(新潟県立高田特別支援学校) 有川 宏幸(新潟大学教育学部)
P5-72	車いすシミュレーション体験の違いが大学生の意識に与える影響について 道徳教材「車いすの少年」を通して	今井まどか(新潟県立月ヶ岡特別支援学校) 有川 宏幸(新潟大学教育学部)
P5-73	大学生の車椅子利用者への援助行動に関する実験的研究 対人距離と傍観者介入の影響	加茂川 文(新潟県立月ヶ岡特別支援学校) 有川 宏幸(新潟大学教育学部)
P5-74	発達障がい児の早期支援に関する研究 保護者の「気づき」の時期と相談行動までのプロセスの分析から	植松 勝子(中部学院大学) 堅田 明義(中部学院大学)
P5-75	移動支援機器に対する高齢者の心理的抵抗感 福祉用具専門相談員に対する調査結果から	安心院朗子(目白大学) 西村 実穂(東京未来大学子ども心理学部) 西館 有沙(富山大学人間発達科学部) 水野 智美(筑波大学医学医療系) 徳田 克己(筑波大学医学医療系)
P5-76	障害のある子どものきょうだいを育てる親のニーズ - 親へのインタビュー調査から -	阿部美穂子(北海道教育大学)
P5-77	特別支援学校の読書活動を充実させる手法の開発 - 貸出し1万冊に至る環境整備・推進企画等の工夫 -	田村康二郎(東京都立光明学園) 本多 桂子(東京都立鹿本学園)

P5-78	『インクルージョン保育のためのグループ指導カリキュラム』の保育所での活用－その適用可能性の検討－	南 博(みなみ栄保育園) 清水 直治(日本体育大学体育学部特別支援教育) 土橋とも子(認定NPO法人日本ボーテジ協会) 福本みどり(認定NPO法人日本ボーテジ協会)
P5-79	個別の教育支援計画の指導と支援の継承に関する現状と課題～特別支援学校における経験年数別のインタビュー調査から～	山崎 一三(埼玉県立浦和特別支援学校)
P5-80	特別支援教育における教員の役割に関する研究(5) 教員の連携タイプ別の特別支援教育に対する実態と意識との関係について	石橋 裕子(帝京科学大学) 林 幸範(池坊短期大学)
P5-81	行動コンサルテーションにおける非言語的相互作用 コンサルタントがコンサルティに及ぼす影響の検討	大石 幸二(立教大学)

ポスター6

9月18日(祝・月) 9:30～11:30 イベントホール

P6-1	障害種の異なる教員と子どもの係わり合いについて 一聴覚に障害のある教員に視点を当てて一	石川 美希(宮城教育大学) 藤島 省太(宮城教育大学)
P6-2	大学における聴覚障害学生の意思表示支援	益子 徹(日本社会事業大学大学院) 有海 順子(山形大学) 甲斐 更紗(九州大学) 吉川あゆみ(関東聴覚障害学生サポートセンター) 松崎 丈(宮城教育大学) 池谷 航介(東京大学/国立民族学博物館) 太田 琢磨(愛媛大学) 木谷 恵(立命館大学) 萩原 彩子(筑波技術大学) 中島亜紀子(筑波技術大学) 平良 悟子(筑波技術大学) 白澤 麻弓(筑波技術大学)
P6-3	講義受講時の音声の聞き取りに関する研究 健聴学生と聴覚障害学生の比較を通して	鈴木 祥隆(岐阜大学教育学部) 原島 恒夫(筑波大学人間系) 堅田 明義(中部学院大学)
P6-4	特別支援学校(聴覚障害)における乗法九九の指導 小学部第2学年における状況	谷本 忠明(広島大学大学院教育学研究科)
P6-5	中国聴覚障害児音声における発話速度の分析	湯浅 哲也(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 加藤 靖佳(筑波大学人間系) 于 曉慧(筑波大学大学院人間総合科学研究科)
P6-6	聴覚障害児の中国語単音節における四声の特徴	于 曉慧(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 湯浅 哲也(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 加藤 靖佳(筑波大学人間系)
P6-7	聴覚障害大学生の単語レベルの構音の分析 構音方法に焦点を当てて	加藤誠太郎(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 加藤 靖佳(筑波大学人間系) 湯浅 哲也(筑波大学大学院人間総合科学研究科)
P6-8	聴覚障害児が書く文章の特徴と評価との関連 言語要素の使用からみた作文の分類と評価	澤 隆史(東京学芸大学教育学部) 新海 晃(東京学芸大学連合大学院博士課程学校教育学研究科) 白石 健人(東京学芸大学研究生) 林 雄大(東京学芸大学大学院教育学研究科) 大川 将貴(東京学芸大学大学院教育学研究科) 相澤 宏充(福岡教育大学教育学部) 林田 真志(広島大学大学院教育学研究科)

P6-9	聴覚障害児の文章読解時における文脈把握に関する研究 エラー検出課題を用いたオンライン的検討	白石 健人(東京学芸大学大学院教育学研究科) 大川 将貴(東京学芸大学大学院教育学研究科) 澤 隆史(東京学芸大学)
P6-10	音声受容における視覚刺激と聴覚刺激の相補性	中川 辰雄(横浜国立大学教育学部) 井上 正之(筑波技術大学) 佐藤 正幸(筑波技術大学) 須藤 正彦(筑波技術大学)
P6-11	学術手話通訳に求められる訳出スキルに関する予備的検討 ろう通訳者を講師とした日本手話翻訳研究講座の記録から	中野 聡子(大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター) 原 大介(豊田工業大学 工学部) 金澤 貴之(群馬大学 教育学部) 川鶴 和子(大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター) 細井 裕子(大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター) 望月 直人(大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター) 楠 敬太(大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター) 伊藤 愛里(大阪教育大学大学院)
P6-12	人工内耳装用生徒の進路課題に対する自信	杉中 拓央(早稲田大学) 齋藤 友介(大東文化大学) 河野 淳(東京医科大学)
P6-13	重度聴覚障害者の読話における韻律情報の活用 一話声の基本周波数を保持した加工音声による検討一	土手 信(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 原島 恒夫(筑波大学) 井口亜希子(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 堅田 明義(中部学院大学)
P6-14	青年期にある人工内耳装用者の自己認識の検討 一アンケート調査の自由記述から一	石田 彩(愛知淑徳大学) 高橋 信雄(鷹の子病院愛媛人工内耳リハビリテーションセンター)
P6-15	聴覚障害児の環境音認知における聴力と聴取成績との関係 周波数ごとの聴力に着目して	田原 敬(茨城大学教育学部) 小林 優子(上越教育大学臨床・健康教育学系) 茂木 成友(東北福祉大学教育学部)
P6-16	Treacher Collins症候群の心理面における実態に関する研究 一当事者の生活上の困難さ・悩み・不安に焦点をあてて一	石田 祐貴(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 鄭 仁豪(筑波大学人間系)
P6-17	聴覚障害児の説明文理解と最上位構造 一比較及び因果の標識の理解と文章記憶の関連性一	相澤 宏充(福岡教育大学) 澤 隆史(東京学芸大学)
P6-18	日本手話版言語流暢性検査の開発(1) 表出型手話語彙検査の試行版作成について	武居 渡(金沢大学学校教育系)
P6-19	災害時における情報保障としてのデジタルサポート 一音声文字変換アプリの辞書能力の改善・向上を通して一	山田 京子(熊本県立熊本聾学校)
P6-20	知的障害特別支援学校における学習評価に基づく授業改善 児童生徒の個の特性に配慮した協働的な学びの実現を目指して	滝澤 健(香川大学教育学部附属特別支援学校) 福家 美香(香川大学教育学部附属特別支援学校) 惠羅 修吉(香川大学教育学部附属特別支援学校)
P6-21	生徒同士でやり取りしながら思考を働かせるための支援の 検討 一知的障害特別支援学校中学部「生活単元学習」の授業実践 を通して一	福家 美香(香川大学教育学部附属特別支援学校) 滝澤 健(香川大学教育学部附属特別支援学校) 武蔵 博文(香川大学教育学部)
P6-22	知的障害特別支援学校高等部におけるキンボールの取組	榎並 浩(香川大学教育学部附属特別支援学校) 坂井 聡(香川大学教育学部) 西田 智子(香川大学教育学部)

P6-23	自閉症生徒に対する関係づけの思考力を高めるための取組	谷 亜由美(高知大学教育学部附属特別支援学校) 安岡 知美(高知大学教育学部附属特別支援学校) 山崎 敏秀(高知大学教育学部附属特別支援学校) 喜多尾 哲(高知大学) 鈴木 恵太(高知大学) 是永かな子(高知大学) 寺田 信一(高知大学)
P6-24	知的・発達障害者の就労率向上と就労継続に向けた取組その2 - 文科省事業 キャリア教育・就労支援等の充実事業から高知大学附属特別支援学校方式を目指して -	山崎 敏秀(高知大学教育学部附属特別支援学校) 谷 亜由美(高知大学教育学部附属特別支援学校) 安岡 知美(高知大学教育学部附属特別支援学校) 寺田 信一(高知大学) 喜多尾 哲(高知大学) 是永かな子(高知大学) 鈴木 恵太(高知大学)
P6-25	行動問題支援教師トレーニングの効果 支援計画作成スキルに関する2種類のトレーニングの比較	加藤 慎吾(東京学芸大学教育学部) 小笠原 恵(東京学芸大学教育学部)
P6-26	ペアレント・トレーニングを介した保護者と教師の連携の促進	竹中 正彦(兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校)
P6-27	公立特別支援学校における機能的アセスメントを用いた行動問題の軽減 授業逃避行動から授業参加行動へ	貞光 由希(山口県立下関総合支援学校) 松岡 勝彦(山口大学教育学部)
P6-28	特別支援学校中学部におけるスクールワイド積極的行動支援の実践 登校時に自分から先生に挨拶をする行動の指導	永富 大輔(筑波大学人間総合科学研究科)
P6-29	知的障害児及び自閉症児のあつまりにおける応答行動の形成 視覚的手がかりの活用を中心に	飯島 徹(筑波大学附属大塚特別支援学校) 田上 幸太(筑波大学附属大塚特別支援学校) 柘植 雅義(筑波大学人間系)
P6-30	中学生期の発達障害児に対するテストテイキングの指導の検討 一定期試験における英語指導を中心に	堀内 善仁(筑波大学人間総合科学研究科) 中野 泰伺(筑波大学人間総合科学研究科) 岡崎 慎治(筑波大学人間系)
P6-31	知的障害者を教育する特別支援学校における将来の余暇利用・余暇活動にかかわる支援の実態調査	杉山 章(東海学院大学) 岩野 美咲(岐阜県立東濃特別支援学校)
P6-32	遊び場における「気になる行動」の出現プロセス 設定した場から離れがちな自閉児の姿とそれに対する教員の意識に注目して	道家 令子(千葉大学大学院教育学研究科) 真鍋 健(千葉大学教育学部) 菅原 宏樹(千葉大学教育学部附属特別支援学校)
P6-33	発達障害児の不安に対するゲーム場面を用いた指導の検討	木場 和香(筑波大学人間総合科学研究科) 岡崎 慎治(筑波大学人間系)
P6-34	「遊びの指導」の授業づくりの可視化の試み PDCAサイクルのP(企画段階から遊び場づくり)に注目して	丹野 祐介(千葉大学教育学部附属特別支援学校) 菅原 宏樹(千葉大学教育学部附属特別支援学校) 真鍋 健(千葉大学教育学部)
P6-35	障害者の保護者が考える「親亡き後」の生活形態とその支援	桑原 愛実(東京学芸大学大学院)
P6-36	文章理解の困難さを伴う児童を対象としたICT利用による文章題構造組み立て演習とその効果	小川 修史(兵庫教育大学) 山元 翔(近畿大学工学部情報学科)
P6-37	自分でメニューを考える家庭科「食」学習の取組	安岡 知美(高知大学教育学部附属特別支援学校) 谷 亜由美(高知大学教育学部附属特別支援学校) 山崎 敏秀(高知大学教育学部附属特別支援学校) 鈴木 恵太(高知大学)

P6-38	支援機関との情報共有に関する保護者のニーズ	仲野 真史(東京学芸大学附属特別支援学校) 尾高 邦生(東京学芸大学附属特別支援学校) 田口悦津子(東京学芸大学附属特別支援学校) 中村 理美(東京学芸大学附属特別支援学校) 蓮香 美園(東京学芸大学附属特別支援学校) 松本 晃(東京学芸大学附属特別支援学校)
P6-39	自閉症スペクトラム幼児に対する家庭支援(1) “柔軟性をもった”家庭支援プログラムの開発と効果についての検討	伊藤 志穂(埼玉県立越谷西特別支援学校) 深松 綾花(埼玉県立越谷西特別支援学校) 小野里美帆(文教大学教育学部)
P6-40	自閉症スペクトラム幼児に対する家庭支援(2) 語獲得のプロセスと安定的使用からみる家庭支援プログラムの効果についての検討	深松 綾花(埼玉県立越谷西特別支援学校) 伊藤 志穂(埼玉県立越谷西特別支援学校) 小野里美帆(文教大学教育学部)
P6-41	疑似的対人場面での表情刺激に対する視線追跡の特徴(1) 自閉スペクトラム症の発達過程	佐々木和義(早稲田大学) 柳 忠宏(埼玉福祉・保育専門学校) 門脇 千恵(人間環境大学松山看護学部) 白石 彩(東京学芸大学大学院教育学研究科)
P6-42	疑似的対人場面での表情刺激に対する視線追跡の特徴(2) 自閉スペクトラム青年と健常青年の比較	白石 彩(東京学芸大学大学院教育学研究科) 佐々木和義(早稲田大学) 柳 忠宏(埼玉福祉・保育専門学校) 門脇 千恵(人間環境大学松山看護学部)
P6-43	自閉症児の親訓練におけるビデオを用いた介入効果の検討 フィードバックとセルフモニタリングの比較	大森 五月(千葉県発達障害者支援センターCAS) 加藤 哲文(上越教育大学臨床・健康教育学系)
P6-44	「作り笑い」表情の理解と社会的スキルの関連 —自閉スペクトラム症者の視線に着目して—	今村 栞(福岡市立東部療育センター) 田中 真理(九州大学大学院)
P6-45	アプリ教材を用いた短期ペアレントトレーニングの開発と評価 応用行動分析学に基づく早期発達支援方法の普及を目指して	松崎 敦子(慶應義塾大学先導研究センター) 山本 淳一(慶應義塾大学文学部)
P6-46	感覚過敏とその関連行動の出現過程と動作法による軽減過程	今野 義孝(文教大学人間科学部臨床心理学科)
P6-47	自閉症スペクトラム障害児における皮肉理解の特徴 皮肉の理解能力についての年齢縦断的検討及び表情理解能力との関連に注目して	土屋 勇太(山梨県立ふじざくら支援学校) 平田 正吾(茨城キリスト教大学) 奥住 秀之(東京学芸大学) 國分 充(東京学芸大学)
P6-48	自閉症スペクトラム児における協力行為獲得のための指導 —「お菓子作り」場面を通して—	中川真悠子(埼玉県立春日部特別支援学校) 小野里美帆(文教大学教育学部)
P6-49	提示条件の相違によるASD児の発話意図推測	伊藤 恵子(十文字学園女子大学人間発達心理学科) 安田 哲也(十文字学園女子大学人間発達心理学科) 高田 栄子(埼玉医科大学総合医療センター) 小林 春美(東京電機大学理工学部)
P6-50	母親の療育スキル獲得が及ぼすASD児の問題行動への影響 母親に対するビデオを用いた介入を通して	小笠原 忍(明星大学大学院) 竹内 康二(明星大学)
P6-51	成人ASD者の自己の記憶に関する研究 ～後悔に着目して～	山本 健太(神戸大学大学院人間発達環境学研究所) 増本 康平(神戸大学大学院人間発達環境学研究所)
P6-52	自閉スペクトラム症児の言語を介した仲間との協同活動の特徴 —「船の色塗り」課題における相互作用の分析を通して—	吉井 勘人(山梨大学大学院総合研究部教育学域)

P6-53	「とけあい動作法」を用いたペアレントトレーニングの有効性について	石井 里穂(新潟市立大通小学校) 有川 宏幸(新潟大学教育学部)
P6-54	発達障害への潜在的態度と学生支援への意識との関連 自閉スペクトラム症と視覚・聴覚障害への合理的配慮における比較検討から	横田 晋務(九州大学基幹教育院) 松崎 泰(東北大学加齢医学研究所) 田中 真理(九州大学)
P6-55	自閉スペクトラム症児における授与動詞の理解に関する検討 受け渡し場面の眼球運動の分析	朝岡 寛史(筑波大学人間系) 渡部 匡隆(横浜国立大学教育学部) 野呂 文行(筑波大学人間系)
P6-56	自閉症スペクトラム障害児への家庭課題による発達支援(1) SCERTSモデルのアセスメントによる共同注意・模倣を中心とした支援経過を通して	上村 誠也(NPO法人正讃会 相談支援かみひこうき) 小野里美帆(文教大学教育学部)
P6-57	ASD児へのコミュニケーションと情動調整の発達支援 -SCERTSモデルにおけるMA&PMアプローチの視点から-	氏原 佳香(山梨県立やまびこ支援学校) 吉井 勘人(山梨大学大学院総合研究部教育学域)
P6-58	境界知能領域にある自閉スペクトラム症児に対する検索による学習の効果 定型発達児との有効性の比較	堀田 千絵(関西福祉科学大学) 十一 元三(京都大学大学院)
P6-59	遊びを共有しづらい幼児の象徴機能に関する臨床的研究 象徴機能を支える動作化の視点	横田千賀子(淑徳大学発達臨床研究センター)
P6-60	聴覚優位傾向を示す自閉症児の臨床像把握 新版K式発達検査の分析から	池畑美恵子(淑徳大学発達臨床研究センター)
P6-61	自閉症児のキャッチボール活動の特徴 シンボル表象機能の有無による比較を通じて	若林 秀昭(兵庫県立リハビリテーション中央病院) 峯松 徹(兵庫県立神戸特別支援学校)
P6-62	発達障害のある人のパートナーの感じる困り感 -パートナーによるブログの分析から-	西村 実穂(東京未来大学) 徳田 克己(筑波大学)
P6-63	早期支援にかかる効果的な巡回相談 M県I市での巡回相談を振り返って	片瀬 道(㈱アスム療育・研修センター)
P6-64	自閉スペクトラム症傾向のある大学生の就職活動における諸意識の検討 発達障害当事者への面接調査から	末吉 彩香(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 柘植 雅義(筑波大学人間系)
P6-65	通常学級担任が行動問題を示す自閉症児の保護者と連携した支援プロセスの検討	岡村 章司(兵庫教育大学大学院)
P6-66	小学校通常学級の授業内における合理的配慮の実践と課題	腰川 一恵(聖徳大学) 芳賀 明子(帝京短期大学) 河村 久(聖徳大学)
P6-67	長期研修派遣教員による在籍校への行動コンサルテーションの効果(1) -通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童及び担任並びに支援員への教育的支援-	松岡 勝彦(山口大学教育学部) 須藤 邦彦(山口大学教育学部)
P6-68	長期研修派遣教員による在籍校への行動コンサルテーションの効果(2) -中学校特別支援学級に在籍するディスレクシアの生徒に対する英単語の学習指導を通して-	須藤 邦彦(山口大学教育学部) 松岡 勝彦(山口大学教育学部)

P6-69	小学2年生における読み書き習得の影響因 音韻意識と形態素意識の比較から	室谷 直子(常磐短期大学) 井上 知洋(聖学院大学人間福祉学部) 細川美由紀(茨城大学教育学部) 前川 久男(いわき短期大学)
P6-70	水頭症事例における漢字書字習得に関する実践研究	豊田 崇仁(茨城県立水戸飯富特別支援学校) 細川美由紀(茨城大学教育学部)
P6-71	高等学校定時制課程におけるティーチャートレーニング	式部 陽子(奈良教育大学特別支援教育研究センター)
P6-72	小中学校の巡回相談におけるコンサルテーション 通常学級の相談ニーズの実態と課題	別府 悦子(中部学院大学) 垣添 奈巳(岐阜県立飛騨特別支援学校) 伊花ひとみ(岐阜県立可茂特別支援学校)
P6-73	Trail Making TestとADHD特性との関連	藤田 貴久(茨城県立友部東特別支援学校) 斎藤遼太郎(茨城キリスト教大学) 奥住 秀之(東京学芸大学)
P6-74	就学後の学習困難が心配される幼児の知能・認知機能の特徴 WPPSIとDN-CASによる就学前後の結果から	杉浦 采夏(東京学芸大学大学院 教育学研究科) 橋本 創一(東京学芸大学教育実践研究支援センター)
P6-75	高次脳機能障害児の認知特性評価の検討 場面を限定したPASS評定尺度を用いた検討	岡崎 慎治(筑波大学人間系) 武村 知保(筑波大学心理・発達教育相談室)
P6-76	運動が注意欠如・多動性障害児の実行機能と行動面に与える 効果について -メタ分析による検討-	本間美桃子(筑波大学人間総合科学研究科) 岡崎 慎治(筑波大学人間系) 佐藤 克敏(京都教育大学)
P6-77	集団活動に困難を示す幼児における指示従事場面の観察	久保 愛恵(茨城大学大学院教育学研究科) 平野 晋吾(福山市立大学教育学部) 田原 敬(茨城大学教育学部) 勝二 博亮(茨城大学教育学部)
P6-78	平仮名の読みに困難を示す児童の意味処理機能の特性 小学校1学年から2学年にかけての項目特定処理効果の発達 傾向	島田 恭仁(関西福祉科学大学)
P6-79	ひらがな単語の読みにおける語彙処理の評価に関する研究 小学生を対象とした一斉評価に基づく検討	雲井 未歆(鹿児島大学教育学系) 中 智華穂(日本学術振興会) 小池 敏英(東京学芸大学教育学部)
P6-80	思春期の発達障害児のキャリア発達を促す地域支援の試み	渡邊 雅俊(國學院大学人間開発学部)
P6-81	発達障害のある大学生の就職支援に関する研究 大学と支援機関の連携のあり方の検討	三島 遥(広島県立尾道特別支援学校) 竹林地 毅(広島大学大学院)

## ポスター7

9月18日(祝・月)

12:30~14:30 イベントホール

P7-1	A B Aに基づく特別支援学校初任者研修の効果検討 ~専門家と連携して実施した校内研修~	石津 乃宣(兵庫県立こやの里特別支援学校) 岡村 章司(兵庫教育大学大学院)
P7-2	アクティブ・ラーニングの視点で問い直す生活単元学習の 指導に関する実践研究 -小・中・高12年間で子どもたちのもつ力を引き出す授業 づくり-	吉松 靖文(愛媛大学) 檜木 暢子(愛媛大学大学院教育学研究科) 荻田 知則(愛媛大学教育学部) 加藤 公史(愛媛大学教育学部附属特別支援学校)
P7-3	特別支援学校におけるアクティブ・ラーニングの有効性 理科およびプログラミング教育の実践を中心として	前田 友子(兵庫県立こやの里特別支援学校) 種村 雅子(大阪教育大学大学院)

P7-4	鹿児島における離島と都市部の特別支援学級担任が直面する困難と研修ニーズの把握に関する研究	深浦 望(熊本大学特別支援教育特別専攻科) 肥後 祥治(鹿児島大学教育学部)
P7-5	特別支援学校の生徒の対人関係の力を向上させるための教師支援の方法の開発と検証 「生活適応支援チェックリスト【知的障害特別支援学校版】」と「対人関係トレーニングサポート集(T T S T)」による高等部の職業の学習を通して	宮田 愛(東京都立府中けやきの森学園) 吉池 久(東京都立南大沢学園) 村上 卓郎(東京都教育庁)
P7-6	社会的困難を抱える生徒への進路支援と「専攻科」 障害児入所施設で暮らす子ども・青年にとっての「中間的な学びの場」	辻 和美(学校法人特別支援学校聖母の家学園)
P7-7	特別支援学校(知的障害)の不登校に関する質問紙調査(I) - 在籍状況を中心に -	酒井 貴庸(甲南女子大学人間科学部) 柘植 雅義(筑波大学人間系) 河内山 冴(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 園山 繁樹(筑波大学人間系)
P7-8	知的障害児・者に対する水泳指導法の検討	石田むつき(大田原市立西原小学校) 有川 宏幸(新潟大学)
P7-9	知的障害児における紙芝居視聴時の視覚探索パターン	倉持 光(黒内小学校) 勝二 博亮(茨城大学教育学部)
P7-10	発達障害児の主体的な活動参加の支援(1) 自発的な言語化と自己選択を促進する条件の検討	竹森 亜美(立教大学心理芸術人文学研究所) 中内 麻美(立教大学心理芸術人文学研究所) 大石 幸二(立教大学現代心理学部)
P7-11	発達障害児の主体的な活動参加の支援(2) 「話し合いカード」を用いた自己と他者の好みをふまえた活動選択と言語化の関連性	中内 麻美(立教大学心理芸術人文学研究所) 竹森 亜美(立教大学心理芸術人文学研究所) 大石 幸二(立教大学現代心理学部)
P7-12	筆記プロセスからみたダウン症児の書字行動評価	加納 茜音(茨城県立境特別支援学校) 勝二 博亮(茨城大学) 田原 敬(茨城大学)
P7-13	知的障害者の視覚探索における環境要因の影響	斎藤遼太郎(茨城キリスト教大学/東京学芸大学大学院連合学校教育学専攻科) 奥住 秀之(東京学芸大学) 國分 充(東京学芸大学)
P7-14	視空間情報の記銘時と想起時に関与する知的障害児・者の注意制御機能	大井 雄平(常葉大学・東京学芸大学大学院) 奥住 秀之(東京学芸大学) 國分 充(東京学芸大学)
P7-15	「対象としての主体」に出会うエピソード記述 自傷・他害行動のあるリョウタとの昼食時の関与観察の検討から	石川由美子(宇都宮大学) 青野 清香(とちぎリハビリテーションセンター) 森下 俊一(那須塩原市こども未来部子育て支援課)
P7-16	知的障害児・者の記銘方略における音韻ループに関する研究	三橋 翔太(東京学芸大学大学院) 斎藤遼太郎(茨城キリスト教大学) 奥住 秀之(東京学芸大学)
P7-17	知的障害者における微細運動の時間的一貫性	渡邊 啓暉(東京学芸大学大学院 教育科学研究科) 奥住 秀之(東京学芸大学) 斎藤遼太郎(茨城キリスト教大学)
P7-18	発達障害児者に対する運動発達アセスメントの現状と課題 過去10年間の国内主要文献における研究結果をもとに	土井畑幸一郎(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 澤江 幸則(筑波大学体育系)
P7-19	特別支援学校進路指導担当教員の研修ニーズに関する調査 研修内容の関心度と研修条件の影響に関する分析から	藤井明日香(高松大学発達科学部) 川合 紀宗(広島大学大学院) 落合 俊郎(大和大学教育学部)

P7-20	成人期知的障害者を対象とした休日スポーツ活動の実践 自主運営を目指した支援方法の検討	鈴木 洸平(北海道余市養護学校) 細谷 一博(北海道教育大学函館校)
P7-21	肢体不自由特別支援学校における自立活動の指導のあり方 に関する研究(2) 自立活動の正しい理解に基づく指導の充実を目指して	井上妃呂子(大阪府立堺支援学校) 浦井 尚女(大阪府立堺支援学校)
P7-22	ハンドサッカーにおけるシュート方法の分析 特別支援教育におけるスポーツ活動	金森 克浩(日本福祉大学)
P7-23	肢体不自由特別支援学校における教育課程の編成と実施に 関する研究 自立活動の時間における指導と教科等の指導との関連から	落合優貴子(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 安藤 隆男(筑波大学人間系)
P7-24	重複障害児の実態把握におけるチームアプローチの有効性	任 龍在(群馬大学)
P7-25	「働く生活」を実現させるための肢体不自由教育ならではの 「作業学習」を創る！ 肢体不自由教育特別支援学校高等部知的障害を併せ有する 教育課程における4年間の実践および、準ずる教育課程「作 業演習」との連携について	江見 大輔(東京都立府中けやきの森学園) 山下さつき(東京都立府中けやきの森学園) 菅野 敦(東京学芸大学)
P7-26	知的障害が疑われる脳性まひ児への読字支援 ひらがな2音節の単語の読みを中心として	亀浦 優佑(東北福祉大学大学院教育学研究科) 和 史朗(東北福祉大学教育学部) 庭野賀津子(東北福祉大学大学院教育学研究科)
P7-27	教科の目標設定に対する特別支援学校教師の意識について 肢体不自由特別支援学校における国語・算数／数学の目標 設定に関する実態調査から	小倉 靖範(北海道真駒内養護学校)
P7-28	二分脊椎症児の教科学習の困難 —教師が把握する困難とその対応—	川間健之介(筑波大学) 成田美恵子(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 杉林 寛仁(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 古山 貴仁(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 田村 裕子(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 加藤 隆芳(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 長門亜由美(筑波大学附属桐が丘特別支援学校)
P7-29	肢体不自由特別支援学校の児童生徒を対象としたICT活用 による遠隔スポーツ指導	和 史朗(東北福祉大学)
P7-30	幼児期における協調運動チェックリストの開発	古屋 友希(アイベックス早池峰こどもプラスつくば西島名教室) 久保 愛恵(茨城大学大学院教育学研究科) 勝二 博亮(茨城大学教育学部) 田原 敬(茨城大学教育学部)
P7-31	二分脊椎症児の教科学習における困難さの検討 心理検査と標準学力検査による算数学習での困難さの整 理・分析	古山 貴仁(筑波大学附属桐が丘特別支援学校) 川間健之介(筑波大学人間系)
P7-32	上肢機能の障害がボタンの掛け外しに与える影響 脳性まひ者に使いやすいズボンのボタンの検討	雙田 珠己(熊本大学教育学部)
P7-33	生活のしづらさなどに関する調査の詳細統計作成 若年発生の肢体不自由者の年齢別ADLと成人の活動	北村 弥生(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
P7-34	高校における病弱教育を対象とした障がい理解教育の一実践	兒玉 尚子(大阪教育大学大学院教育学研究科)
P7-35	小児がん拠点病院に設置されている特別支援学校(病弱)の 教育課程に関する一考察	滝川 国芳(東洋大学文学部)

P7-36	精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的ニーズに関する研究 特別支援学校教員を対象とした調査より	深草 瑞世(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 森山 貴史(青森県立八戸第一養護学校) 土屋 忠之(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)
P7-37	病気療養児に対する余暇・学習支援活動の意識調査 施設職員と活動参加学生との比較を通して	山下 祥代(愛媛大学大学院教育学研究科 特別支援教育専攻) 越智 文香(愛媛大学大学院教育学研究科 特別支援教育専攻) 越智 彩帆(愛媛大学大学院教育学研究科 特別支援教育専攻) 樫木 暢子(愛媛大学大学院教育学研究科)
P7-38	長期療養者の知覚されたソーシャルサポートと個人内因子との関連	國武 加奈(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 深澤美華恵(福岡教育大学特別支援教育講座) 竹田 一則(筑波大学人間系)
P7-39	肢体不自由特別支援学校における授業のデザイン・実施・ 評価に関わる実践研究Ⅰ ーチーム・ティーチングにおける意思決定論モデルの導 入ー	内海友加利(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 平山 彩乃(茨城県立水戸特別支援学校) 安藤 隆男(筑波大学人間系)
P7-40	肢体不自由特別支援学校における授業のデザイン・実施・ 評価に関わる実践研究Ⅱ ー意思決定論モデルに基づくチーム・ティーチングの分 析ー	平山 彩乃(茨城県立水戸特別支援学校) 内海友加利(筑波大学大学院人間総合科学研究科) 安藤 隆男(筑波大学人間系)
P7-41	重症心身障害児者のきょうだいの思い ～青年期のきょうだいに対する聞き取り調査から～	越智 彩帆(愛媛大学大学院教育学研究科特別支援教育専攻) 越智 文香(愛媛大学大学院教育学研究科特別支援教育専攻) 山下 祥代(愛媛大学大学院教育学研究科特別支援教育専攻) 樫木 暢子(愛媛大学大学院教育学研究科)
P7-42	自立活動の指導を担う教師が抱える課題	木下裕一郎(長崎県教育庁特別支援教育室) 一木 薫(福岡教育大学) 古川 勝也(西九州大学)
P7-43	視覚刺激の明確化による教材の選択行動の変化 重度・重複障害のある生徒への指導を通して	木澤 健司(東京都立墨東特別支援学校) 衛藤 裕司(大分大学 教育学部)
P7-44	子どもの生活年齢と自立活動の指導における中心課題	相川 久雄(長崎県立長崎特別支援学校) 一木 薫(福岡教育大学) 古川 勝也(西九州大学)
P7-45	訪問教育における自立活動の指導 指導目標の精選と検証	渡邊 眞凡(福岡県立太宰府特別支援学校) 一木 薫(福岡教育大学)
P7-46	キャリア教育に関する肢体不自由特別支援学校教員の意識 調査 ～子どもの夢や願いに焦点をあてて～	越智 文香(愛媛大学) 越智 彩帆(愛媛大学) 山下 祥代(愛媛大学) 樫木 暢子(愛媛大学)
P7-47	重複障害者の意思表示手段の獲得を目指した指導実践	青柳リエ子(山形県教育センター) 大江 啓賢(山形大学地域教育文化学部) 森谷留美子(元山形大学大学院教育実践研究科)
P7-48	肢体不自由特別支援学校における自立活動 `からだ`に焦点を当てた事例から、自立活動の授業づくり を考える	齊藤 博之(山形県立ゆきわり養護学校)
P7-49	働きかけに対する重度重複障害者の応答行動の分析 OAK Camソフトを用いたビデオ分析による表出行動の同 定に関する考察	大江 啓賢(山形大学地域教育文化学部) 青柳リエ子(山形県教育センター) 森谷留美子(元山形大学大学院教育実践研究科)
P7-50	重度重複障害児の臥位姿勢での主体的な動きと座位の安定 との関連	藤野 正和(長崎短期大学)

P7-51	医療的ケアに対する教員の不安感と思い	齊藤 有香(北海道教育大学大学院教育学研究科) 安井 友康(北海道教育大学札幌校)
P7-52	肢体不自由特別支援学校における重度・重複障害児の学校での社会参加に関する調査研究	寺本 淳志(宮城教育大学)
P7-53	重症心身障害児の脈拍変化を用いた授業分析法の検討	石倉 健二(兵庫教育大学大学院)
P7-54	重度・重複障害児の聴覚評価に関する事例的検討 語音を用いた聴覚評価について	佐藤 楓佳(茨城大学大学院 教育学研究科) 田原 敬(茨城大学 教育学部) 勝二 博亮(茨城大学 教育学部)
P7-55	重度・重複障害児における応答行動の形成に関する事例的研究	高橋ひかり(日本福祉教育専門学校) 小林亜由美(茨城大学教育学研究科) 勝二 博亮(茨城大学教育学部) 田原 敬(茨城大学教育学部)
P7-56	特別支援学校の医療的ケアヒヤリハット・事故に関する調査Ⅱ －ヒヤリハット・事故の発生件数と内容について－	由谷るみ子(神奈川県立座間養護学校)
P7-57	健康上の問題を抱えた児童・生徒に対する特別支援学校教員の不安感 医療的ケアの実施・連携状況を中心に	田邊 優菜(富山大学大学院人間発達科学研究科) 宮 一志(富山大学人間発達科学部)
P7-58	重度身体障害者の单身生活をめぐるライフストーリー - 訪問介護員との関係に着目して -	荒木関しおり(弘前大学大学院教育学研究科) 大山 祐太(北海道教育大学岩見沢校) 増田 貴人(弘前大学)
P7-59	スポーツ教室への参加が重複障害者の生活機能に及ぼす影響 ICFを用いた事例研究	吉岡 尚美(東海大学体育学部) 重藤誠市郎(東海大学体育学部) 内田 匡輔(東海大学体育学部)
P7-60	小学校におけるSWPBSの効果1 全児童を対象とした評価尺度におけるSWPBSの効果検証	月本 弾(畿央大学大学院教育学研究科) 大久保賢一(畿央大学教育学部) 大対香奈子(近畿大学総合社会学部) 田中 善大(大阪樟蔭女子大学児童学部) 野田 航(大阪教育大学教育学部)
P7-61	小学校におけるSWPBSの効果2 一事例の実験デザインによる第1層支援の効果検討	大久保賢一(畿央大学教育学部) 月本 弾(畿央大学教育学研究科) 野田 航(大阪教育大学教育学部) 田中 善大(大阪樟蔭女子大学児童学部) 大対香奈子(近畿大学総合社会学部)
P7-62	小学4年生に対するクラスワイドのポジティブな行動支援 移動時の整列行動に対する集団随伴性を用いた介入と Positive Peer Reportingの取り組み	野田 航(大阪教育大学) 月本 弾(畿央大学) 大対香奈子(近畿大学) 田中 善大(大阪樟蔭女子大学) 大久保賢一(畿央大学)
P7-63	障害児の放課後等デイサービス事業に関する一考察(1) 栃木県の事業所における運営実態	下無敷順一(栃木市立大平西小学校) 小林由紀子(大田原市立金丸小学校北金丸分校) 池本喜代正(宇都宮大学教育学部)
P7-64	障害児の放課後等デイサービス事業に関する一考察(2) 栃木の事業所における運営課題	小林由紀子(栃木県大田原市立金丸小学校北金丸分校) 下無敷順一(栃木市立大平西小学校) 池本喜代正(宇都宮大学教育学部)
P7-65	視覚障害特別支援における防災教育の取り組み	高野真梨子(兵庫教育大学) 丹所 忍(兵庫教育大学)

P7-66	災害時における障害児とその家族への支援体制に関する研究 平成28年熊本地震を経験した管理職・保護者への質問紙調査から	五島 脩(横浜国立大学大学院教育学研究科) 大桑 初音(横浜国立大学大学院教育学研究科) 佐藤 賢也(横浜国立大学大学院教育学研究科) 高野 陽介(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科) 泉 真由子(横浜国立大学教育学部)
P7-67	東日本大震災を経験した障がい者が考える避難生活について A市内に暮らす障がいのある方への質問紙調査より	阿部 利江(東北福祉大学) 三浦 剛(東北福祉大学)
P7-68	特定非営利活動法人と地域での障がいのある人の支援 ー徳島県内法人の活動目的の検討ー	高橋 眞琴(鳴門教育大学)
P7-69	高速道路サービスエリアのオストメイト対応トイレおよび 多目的トイレの現状と課題	西館 有沙(富山大学人間発達科学部) 水野 智美(筑波大学医学医療系) 徳田 克己(筑波大学医学医療系)
P7-70	障がいのある子どもの保護者支援 ムーブメント教育による支援教室での実践を通して	飯村 敦子(鎌倉女子大学)
P7-71	米国における学習困難の度合いの大きな子どもの通常教育 カリキュラムへのアクセスが与える示唆	米田 宏樹(筑波大学人間系) 野口 晃葉(筑波大学大学院人間総合科学研究科)
P7-72	ニューヨーク市District75におけるTravel Training ーTravel Trainingトレーナーに求められるコンピテン シーと就労移行期におけるTravel Trainingの位置づけー	本間 貴子(筑波大学附属大塚特別支援学校/特別支援教育研究センター) 五味 洋一(筑波大学) 神山 努(国立特別支援教育総合研究所) 山田 康広(中電ウィング株式会社)
P7-73	中国における特殊教育学校の教員の学歴と教員採用	ZHAO SHIHAN(宇都宮大学大学院教育研究科) 池本喜代正(宇都宮大学教育学部)
P7-74	ネパールにおけるポータープログラムの普及とCBR活動 の支援 -ネパールポーター協会5カ年計画・相談活動の質の向上 の観点から-	西永 堅(星槎大学大学院教育学研究科) 清水 直治(日本体育大学)
P7-75	特別支援教育の国際連携に関する研究(その2) タイ王国の特別支援教育に関する一考察	池谷 尚剛(岐阜大学教育学部) 池谷 幸子(岐阜県立大垣特別支援学校)
P7-76	「見えない障害」をめぐる米国での言説と実践の展開 内部障害・内部疾患等をめぐる学校での配慮事項やカリ キュラム	村山 拓(東京学芸大学)
P7-77	イギリスの教育水準局の監査報告書による特別学校の評価 について	横尾 俊(国立特別支援教育総合研究所) 藤井 茂樹(びわこ学院大学教育福祉学部)
P7-78	南米における特別支援教育に関する研究 その6: 南米エクアドル共和国の基礎教育について	野村 勝彦(作新学院大学)
P7-79	J.E.W.ウォーリンによる学業問題の分類と教育環境の整備 1930年代から1940年代半ばのデラウェア州を中心に	吉井 涼(福山市立大学教育学部)
P7-80	昭和戦前期小学校における特別学級と通常学級との教科目 指導内容の比較 ー田村一二の精神薄弱教育実践をもとにー	一木 亮太(墨田特別支援学校) 米田 宏樹(筑波大学人間系)
P7-81	中国の特殊教育における師範教育に関する史的研究	付 成(上越教育大学研究生) 河合 康(上越教育大学大学院)
P7-82	韓国における通常学校に設置された専攻科の実態と課題	洪 浄淑(大邱大学校 特殊教育科)



# 索引

五十音順。

万一誤読の際はご容赦ください。



【ア】		安藤 隆男	P5-31,P7-23,P7-39, P7-40	石田 透	O2B-7 P7-8
相川 久雄	P7-44	安部 博志	P4-81	石田 祐貴	P6-16
相澤 宏充	自シ4-8,P6-8,P6-17	【イ】		石田 脩介	P4-55
相羽 大輔	準企委シ2,自シ6-5,P1-8	飯島 徹	P5-59,P6-29	石塚 祐香	自シ1-12
青木 心恵	自シ4-14	飯塚 一裕	準企委シ3	石飛 了一	自シ3-12,自シ4-4, 自シ6-15,P2-7,P2-11
青木 真純	P2-45	飯村 敦子	P7-70	石野麻衣子	P1-23
青野 清香	P7-15	五十嵐亜子	自シ7-16	石橋あゆみ	P3-36
青松 利明	O5-6,P1-9	五十嵐一徳	自シ6-13	石橋 裕子	P5-80
青柳まゆみ	自シ6-5	五十嵐晴菜	P4-9	石原 保志	自シ3-11,P1-27
青柳リエ子	P7-47,P7-49	猪狩恵美子	O7-1	泉 真由子	自シ4-2,P4-20,P4-67, P5-27,P7-66
青山 信吾	自シ3-15	井草亜季子	P4-25	磯貝 順子	P1-75
青山 新吾	自シ5-8,P4-82	生田 茂	自シ3-12,P2-78,P4-14, P5-58,P5-59	磯田 恭子	P1-23,P3-16
青山 真二	自シ3-2	井口亜希子	P3-21,P6-13	磯山多可子	自シ2-4,自シ4-4
青山 真二	P4-16,P4-17	池尻加奈子	P5-16	板橋 安人	自シ1-1
赤木 和重	自シ1-7,自シ3-15, 自シ5-7	池田 敦子	O5-2	一門 恵子	P5-68
赤地 芳輝	自シ6-17	池田 彩乃	自シ2-17	市川奈緒子	自シ6-14
秋本 公志	P2-62	池田 早希	自シ6-1	市川 裕二	P5-16
秋元 響	P4-80	池田 吏志	自シ5-3	一木 薫	自シ3-9,自シ4-12, 自シ5-13,自シ6-2,P1-63, P5-6,P5-38,P5-39, P5-47,P5-50,P5-54, P7-42,P7-44,P7-45
秋山 由佳	自シ1-4	池谷 航介	自シ5-2,P1-15,P1-28, P6-2	一木 亮太	P7-80
朝岡 寛史	P6-55	池谷 幸子	P7-75	伊藤 愛里	P6-11
朝倉明香音	P3-68	池谷 尚剛	P7-75	伊藤かおり	P2-8
浅田 晃佑	自シ6-18	池田 康子	O1-4	伊東久美子	P4-1,P4-2,P4-3
浅野裕加子	P5-21,P5-22	池田 吉史	国際委シ,自シ6-18, P2-70,P4-55	伊藤 恵子	P6-49
朝日 華子	受賞者講演	池永 真義	自シ5-3	伊藤 佐奈美	自シ7-6,O6-5
浅間 耕一	自シ1-4	池畑美恵子	自シ7-15,P2-18,P5-26, P6-60	伊藤 佐陽子	自シ6-3
安心院朗子	自シ1-6,P5-75	池本喜代正	O3-7,P7-63,P7-64, P7-73	伊藤 志穂	P6-39,P6-40
遊馬 結	P3-79	生駒 良雄	P3-53	伊藤 修毅	自シ6-9
安達 敬子	自シ1-15,P3-30,P3-31, P3-50	井阪 幸恵	自シ2-7	伊藤 浩	P2-24,P5-9
安達 俊昭	自シ6-9	井坂 行男	自シ5-1,自シ6-5,P1-15, P1-24	伊藤 由美	P3-76
足立 圭子	O6-4	井澤 信三	自シ2-1,自シ6-13, 自シ7-14,P1-60,P1-81, P2-25,P2-26,P3-51, P4-29	伊藤 曜子	P4-13
足立 貢	自シ3-1	井澤 光子	自シ2-11	井上 和紀	P1-42
渥美 義賢	P3-76	伊澤 良太	P5-49	井上 和久	自シ4-7,P1-60,P5-42
姉崎 弘	P1-60,自シ4-7,P1-82, P5-42	李 尚禧	O3-5	井上久美子	P1-65,P1-66
阿部 敬信	P1-14	石井 偲花	P4-30	井上 知洋	P6-69
阿部 敦子	P3-73,P3-74,P3-75	石井 智也	自シ7-3,O2A-3,O2A-4	井上 秀和	自シ6-4
阿部 詩織	P5-71	石井みや子	自シ7-9	井上 妃呂子	P7-21
阿部 崇	P3-38,P3-41	石井 幸仁	自シ4-13	井上 雅彦	自シ4-10,P2-19
阿部 智子	自シ4-16	石井 里穂	P6-53	井上 正之	P6-10
安部 満明	自シ7-12	石川 敦士	自シ3-16,自シ5-16	猪瀬 義明	自シ4-18
阿部美穂子	自シ6-7,P5-76	石川 衣紀	自シ7-3,O2A-3,O2A-4	猪平 眞理	P3-6
阿部 利江	P7-67	石川 圭	P3-65	伊花ひとみ	P6-72
天海 丈久	P4-33	石川 菜津美	自シ1-12	李 熙馥	P1-67,P1-68,P2-29
雨具 太郎	P2-39	石川 美希	P6-1	今井 計	P1-12,P1-13
天野 貴博	P3-24	石川 由美子	自シ2-10,P7-15	今井まどか	P5-72
綾戸ゆかり	自シ3-6,P2-32	石川 慶和	自シ5-5,P5-35	今枝 史雄	自シ1-11,自シ7-14, P2-15,P2-23,P3-34, P3-35,P3-42,P3-47, P5-1,P5-9,P5-15,P5-62
新井 英靖	自シ6-16,P2-22,P4-15, P4-51	石倉 健二	P7-53	今崎 智代	自シ3-7
新垣香菜子	P4-18	石黒 栄亀	O6-6	今西 雅次	O1-1
荒川 早月	自シ2-2	石坂 務	P2-36	今村 栞	P6-44
荒川 智	国際委シ	石島美也子	準企委シ2	今村 勤	O2B-2
荒木関しおり	P7-58	石津 乃宣	P7-1	任 龍在	P7-24
荒巻 恵子	自シ5-16,P3-46	石田 彩	P6-14	入江 紗代	自シ1-3
荒牧 要右	P4-41	石田 修	P5-46	市澤 豊	自シ4-15
新谷 洋介	P3-14	石田 哲也	自シ2-4	岩井 雄一	自シ1-8
有井 香織	P4-69			岩佐 昌英	P5-21,P5-22
有海 順子	自シ4-1,P1-28,P6-2				
有川 宏幸	自シ2-1,P3-62,P5-71, P5-72,P5-73,P6-53, P7-8				
有村 玲香	P2-78				



海津亜希子	P2-71,P2-72,P2-73, P3-76, P5-6	亀浦 優佑	P7-26	北村 弥生	P7-33
貝本 智和		加茂川 文	P5-73	北村洋次郎	P4-11
長崎 勤	自シ1-14,P5-19	菊田 知則	O5-1,P7-2	北 洋輔	自シ6-18
香川 邦生	自シ5-4	川池 順也	自シ4-2,P5-11,P5-44	木戸 貴之	自シ2-3
柿澤 敏文	P3-8,P1-7,P3-4	川合 紀宗	研究委シ,自シ4-8,P2-59, P7-19	木下裕一郎	自シ5-13,P7-42
垣添 奈巳	P6-72	河合 康	P7-81	KIM Sungbum	P4-60
角田 圭子	自シ6-3	川合 由美	自シ4-7	KWON Soojung	P4-60
笠原 芳隆	P5-61	川内絵莉子	P5-33	KIM Darae	P4-60
檜木 暢子	自シ2-14,O5-1,P7-2, P7-37,P7-41,P7-46	川口 信雄	自シ1-13	金 ミンジョン	P5-12
梶 正義	自シ6-3,P1-61	河口 麻希	自シ7-13,P2-63	KIM Younghan	P4-60
加嶋みずほ	自シ4-13	川越 正仁	自シ6-11	木村 文彦	自シ3-6
加瀬 進	O7-6	川崎 聡大	自シ1-17	木山 清貴	P4-7
片岡 愛	P3-39	川尻 朋子	学企WS	喜屋武 睦	自シ6-1,O4-4,P3-10, P3-11,P3-27
片岡 聡	自シ1-9	川住 隆一	社貢委シ,自シ6-7,P5-45	金 寿蓮	O3-2
片岡 美華	自シ2-18,P1-39	川添 智	自シ5-7		
片瀬 道	P6-63	川田 聖展	O6-3	【ク】	
堅田 明義	P3-21,P5-74,P6-3,P6-13	河田 正興	P3-9	姜 乃榮	研究委シ
堅田 利明	P1-53	川鶴 和子	P6-11	權 會娟	P5-12
片山 博詞	自シ4-14	川西 邦子	P3-35	草間 涼菜	O2B-1
桂 志保	自シ7-8	河野 淳	O4-1,P6-12	久嶋 泰子	自シ3-4
加藤 哲則	自シ1-17,自シ5-1,P3-65	河野 純大	自シ3-11	楠浦 舞子	P5-61
加藤 和子	P5-65	河野 文子	P3-73,P3-74,P3-75, P5-29	楠田 徹郎	P3-6
加藤 勝弘	自シ2-14	川原 陽子	自シ3-7	楠 敬太	自シ2-7,P1-15,P1-71, P2-44,P6-11
加藤 健	P5-66	川間健之介	自シ2-17,自シ6-12, P3-60,P3-63,P3-72, P4-69,P4-71,P4-72, P5-30,P5-56,P7-28, P7-31	楠見 友輔	自シ4-4
加藤 公史	O5-1,P7-2	川村 修弘	自シ7-11,P2-60	杳掛 英明	自シ7-2
加藤 慎吾	自シ2-12,P5-13,P6-25	河村 久	P6-66	工藤 傑史	自シ1-15,P2-10,P3-30, P3-31,P3-50
加藤 誠一郎	P6-7	川村 由紀	自シ2-2	工藤 陽介	自シ3-2
加藤 隆芳	P7-28	神田 基史	自シ4-5,自シ5-16	國武 加奈	P7-38
加藤 哲文	自シ2-12,P4-45,P4-46, P6-43	菅 智津子	P5-57	國宗 久男	P3-37
加藤 宏昭	P3-47,P3-58	神野 愛	P4-38	國本 真吾	自シ5-6
加藤 靖佳	O4-3,P3-19,P6-5,P6-6, P6-7	菅野 敦	自シ1-11,自シ2-4, 自シ4-8,自シ5-6, 自シ7-14,P2-15,P2-23, P2-24,P3-34,P3-35, P3-42,P3-47,P5-1,P5-9, P5-15,P5-62,P7-25	久野 建夫	P4-10
加藤 陽子	P2-3,P2-4	菅野 和彦	自シ7-16	久保 愛恵	P6-77,P7-30
加藤 美朗	自シ2-3	雁丸 新一	P1-33	久保山茂樹	P1-49,P1-50,P1-65, P1-66
門脇 千恵	P6-41,P6-42	【キ】		熊井 正之	P5-28,P5-70
門脇 弘樹	P1-6,P1-11	菊地 和則	P1-20	熊谷 彩	P4-58
門脇 恵	P5-34	菊地 一文	自シ1-13,自シ2-13, 自シ3-4,自シ4-13, 自シ5-8	熊谷 恵子	受賞者講演
金井 沙彩	自シ6-14,P1-4,P1-10, P3-1,P3-2	菊池 けい子	P5-14	熊谷 正美	自シ2-1
金井 大	P5-23	菊池 志乃	P1-6,P1-11	熊谷 亮	P5-11,P5-60
金澤 貴之	自シ4-1,P6-11	菊池 哲平	熊本WS,自シ3-6,P4-36	熊上 崇	自シ2-6
金澤 忠博	P4-39	菊池 紀彦	自シ3-10	熊木佳代子	自シ7-6
金丸 彰寿	P1-48	木澤 健司	P7-43	隈田原 聡	自シ2-15
金森 克浩	準企委シ2,自シ2-9, 自シ5-9,P7-22	岸本 信忠	自シ5-17	熊地 需	P3-52
金森 裕治	自シ2-7,P1-71,P2-44	北岡 大輔	自シ2-18	雲井 未歆	自シ1-2,P6-79
金子 健	P3-53	北岡 智子	P2-54,P2-55	倉光 晃子	P2-35,P2-50
金子 俊明	O4-3	喜多尾 哲	P6-23,P6-24	倉持 光	P7-9
金子 陽子	社貢委シ,自シ2-16, 自シ7-3	北川 貴章	P2-71,P2-72,P2-73	栗田 季佳	自シ3-13
金重 和也	P4-30	北島 淳	準企委シ1	栗山 宣夫	自シ2-14
加納 茜音	P7-12	北島 珠水	自シ5-3	黒江 純子	P5-48
鎌田 義彦	O6-6	木谷 恵	自シ4-1,P1-28,P6-2	黒木 美帆	P2-52
上岡 清乃	P2-54,P2-55	北村 博幸	自シ4-9,P4-9	黒田 学	自シ3-3,P1-69,P1-70
上飯屋祐介	自シ6-11,P4-12			黒田 美保	自シ1-9
神長 涼	自シ7-3			桑原 愛実	P6-35
上村 誠也	P6-56			【ケ】	
上山 知子	自シ7-1			権 明愛	O5-5,P4-68
神山 努	自シ2-12,P3-32,P3-33, P5-2,P7-72				
神山 博	自シ2-7				

【コ】						
小池 敏英	和編委WS,自シ1-2, P2-56,P2-64,P2-68, P2-69,P4-47,P4-48, P4-53,P6-79		近藤 幸男 今野 邦彦 今野由紀子 今野 義孝	自シ6-4 P2-79,P4-70 自シ4-13 P6-46	佐藤 孝二 佐藤 剛介 佐藤 正幸 佐藤 晋治 佐藤 貴宣 佐藤 智恵 佐藤 智彦 佐藤 知洋 佐藤奈保子 佐藤 楓佳 佐藤 文昭 佐藤 誠 佐藤 正幸 佐藤 賢 佐藤 佑介 佐藤 義竹	P5-29 自シ5-2 P6-10 自シ5-8 自シ6-2 自シ7-13 O5-3 P4-14 自シ7-11 P7-54 自シ3-1 P4-12 P1-32 準企委シ1 O2B-2 自シ1-15,自シ6-11, P2-10,P3-30,P3-31, P3-50 P2-23,P5-62 P2-58 自シ1-5 P4-25 P4-45,P4-46 自シ5-17,P3-37 自シ5-18,P1-37 P2-35 自シ7-17,P7-18 O2B-7 和編委WS,P1-30,P1-31, P3-15,P3-28,P6-8,P6-9, P6-17 自シ6-9 P2-71,P2-72,P2-73 自シ6-9
小泉 浩一	P4-1,P4-2,P4-3		【サ】			
小泉 清華	P5-29		三枝 里江	P3-20		
江田 良市	P2-71,P2-72,P2-73, P3-76		齊藤 宇開	自シ3-4,自シ7-10		
河内山 牙	P7-7		齋藤 佐和	自シ7-1		
香野 毅	自シ1-18		齋藤 忍	O5-5		
郷間 英世	P1-60		齋藤 仁美	自シ2-2		
後上 鐵夫	自シ3-5,自シ7-4		齋藤 博之	自シ2-15,P7-48		
小口 詔子	P1-58		齋藤 有	自シ2-10		
國分 充	P6-47,P7-13,P7-14		齋藤 勇紀	自シ2-14		
小里 直通	P4-51		齋藤 友介	O4-1,P6-12		
腰川 一恵	P6-66		齋藤 有香	P7-51		
越野 和之	自シ1-7		齋藤由美子	国際委シ,P1-65,P1-66, P5-40,P5-41		
五島 脩	P4-20,P4-67,P5-27, P7-66		齋藤 良二	P2-16		
小島 拓也	自シ1-14		斎藤遼太郎	P6-73,P7-13,P7-16, P7-17		
小島 道生	自シ1-15,自シ2-18		五月女智子	自シ3-12		
児嶋 芳郎	P5-64		境 薫	P2-41		
小曾根和子	P3-38,P3-41		坂井 聡	P2-41,P6-22		
小谷 恵	自シ1-14		酒井 貴庸	P1-55,P1-56,P7-7		
兒玉 尚子	P7-34		酒井 武志	P3-77		
古長 祐治	P5-67		酒井奈緒美	熊本WS,自シ2-5		
後藤 貴久	自シ4-18,自シ5-4		坂井 肇	P3-29		
後藤 千明	P5-61		堺 裕	自シ2-15,P3-69,P3-71		
後藤 照代	自シ3-4		榊原 知恵	P5-47		
小中 雅文	P1-1		坂口 嘉菜	P3-28		
小橋さつき	自シ1-3		坂爪 一幸	自シ4-2		
小畑 耕作	自シ5-6,自シ6-9		阪本 清美	P2-19		
木場 和香	P6-33		坂本 裕	P5-68		
小林亜由美	P7-55		相良知恵子	P5-50		
小林 繁	自シ5-6		相楽 典子	自シ2-14		
小林 徹	自シ2-14		崎濱 朋子	自シ4-17		
小林 春美	P6-49		櫻井 貴大	自シ6-16		
小林 秀之	P1-3,P3-8		櫻井 康博	P3-57		
小林 宏明	自シ2-5,P1-52		櫻田 佳枝	P2-9		
小林 博信	P4-72		佐々木あき子	P3-12,P3-13		
小林 倫代	自シ7-4,P1-49,P1-50, P3-53		佐々木和義	P6-41,P6-42		
小林 保子	自シ6-7,P4-76		佐々木銀河	自シ1-16,P2-45		
小林 優子	P3-26,P6-15		佐々木健太郎	自シ7-18		
小林由紀子	P7-63,P7-64		佐々木高一	P3-60		
小林 洋子	P1-27		佐々木淳哉	O2B-4		
小松 良平	P5-4		佐々木大輔	自シ2-4,P5-58		
小宮 歩	P1-54		佐々木裕美	自シ2-2		
五味 洋一	自シ6-13,P2-45,P5-2, P7-72		佐々木正晴	O2B-2		
小柳 達朗	自シ7-1		佐々木 恵	P1-67,P1-68		
小山 定明	自シ7-3		笹田夕美子	自シ7-2		
児山 隆史	P1-64		笹森 洋樹	自シ6-4,P2-71,P2-72, P2-73,P3-76,P4-54		
古山 貴仁	P3-72,P5-29,P7-28, P7-31		笹谷 幸司	自シ6-4		
小山 正	O4-6		佐島 毅	学企WS,自シ6-14, O2B-1,O2B-3,P1-4, P1-10,P3-1,P3-2,P4-81, P5-24		
小山 信博	自シ3-8,P4-71		定岡 孝治	P1-65,P1-66,P3-14		
是枝喜代治	自シ3-12,P1-59		佐竹 真次	自シ7-5		
是永かな子	P6-23,P6-24		貞光 由希	P6-27		
近藤 聡美	自シ7-16		佐藤 克敏	P5-7,P6-76		
近藤 拓弥	P5-15		佐藤 賢也	P4-20,P4-67,P5-27, P7-66		
近藤 武夫	準企委シ2,自シ5-2					
近藤 裕彦	P4-35					
					佐藤 麗奈 眞城 知巳 実政 修 佐野 文美 佐野 和規 佐野 哲広 佐原恒一郎 猿樂 知子 澤江 幸則 澤崎 陽彦 澤 隆史 澤田淳太郎 澤田 真弓 澤谷 常清 【シ】 潮谷 恵美 式部 陽子 式部 義信 重藤誠市郎 司城紀代美 柴垣 登 柴田 真緒 柴田 洋佑 嶋崎まゆみ 島田 直人 島田 尚幸 島田 博祐 島田 恭仁 島津 久子 島 治伸 嶋村 武 島守 詩子 清水 謙二 清水 聡 清水 潤 清水 拓海 清水 直治 清水 浩 清水 雅明 霜田 浩信 下中村 武	P4-68 P6-71 P4-63 P7-59 自シ2-11,P4-74 P1-76 自シ7-3,O1-6 自シ5-3 自シ2-3 自シ1-18 P2-74,P2-75 P2-15 P6-78 P2-6 自シ4-3,自シ5-5 自シ4-12 自シ7-11 P1-46 自シ4-18,自シ5-4 P1-47,P2-71,P2-72, P2-73,P3-32,P3-33 自シ4-9 P5-78,P7-74 P2-30 自シ4-15 自シ5-11,自シ6-13, P4-52 P1-17

下無敷順一	P7-63,P7-64	【セ】	滝川 国芳	自シ4-3,P7-35
下山 真平	P4-26	清野 宏樹	滝坂 信一	自シ5-12
下山 直人	自シ3-8,自シ5-10, 自シ7-15	清野 祥範	滝澤 健	自シ5-11,P6-20,P6-21
下山 真衣	P1-55,P1-56	清和 嘉子	滝本 徹	自シ5-7
庄子 果那	P4-17	関口 佳美	多久島睦美	準企委シ3
庄司 伸哉	自シ4-16	瀬谷奈々美	田口悦津子	P4-1,P4-2,P4-3,P6-38
勝二 博亮	国際委シ,自シ7-17, P6-77,P7-9,P7-12,P7-30, P7-54,P7-55	芹澤 健二	田口 典子	P2-33
庄司 和史	自シ7-1	【ソ】	田口めぐみ	自シ3-18
田 炳雲	O3-4,P5-12	雙田 珠己	田熊 立	自シ1-5
白石 彩	P6-41,P6-42	徐 知援	竹井 卓也	P3-42,P5-1,P5-15
白石 健人	P6-8,P6-9	徐 之英	武居 渡	P6-18
白石 利夫	P3-72	園山 繁樹	竹内 康二	自シ6-13,P6-50
白澤 麻弓	自シ4-1,自シ5-2,P1-23, P1-25,P1-28,P1-32,P6-2	和編委WS,P1-55,P1-56, P1-57,P2-34,P2-39,P7-7	竹内 博紀	P5-31
白府 士孝	自シ4-9	宋 在玉	竹川久美子	P4-4,P4-5
城田 和晃	自シ1-11,自シ7-14,P3-34	【タ】	武田 篤	P2-9,P2-80,P3-52
新海 晃	P1-31,P3-15,P6-8	平良 悟子	竹田 一則	P2-45,P3-8,P5-33, P7-38
神野 幸雄	自シ3-18	大六 一志	武田喜乃恵	自シ4-17
【ス】		高井 小織	武田 鉄郎	自シ5-5
居石 俊二	P4-10	高石 純	武田 俊男	P5-55
末吉 彩香	P6-64	高尾 政代	武田 博子	P3-43
菅井 裕行	自シ3-14,P1-29,P5-36, P5-37	高垣 尚子	武田 瑞穂	受賞者講演
菅原 宏樹	自シ7-13,P2-1,P2-2, P6-32,P6-34	高岸 康文	武知 由佳	P5-61
杉浦 采夏	P5-60,P6-74	高木 潤野	武富 博文	P2-71,P2-72,P2-73, P3-32,P3-33
杉浦 里奈	P5-65	高木 由希	竹中 薫	P1-58
杉岡 千宏	P4-24,P5-60	高倉 誠一	竹中 正彦	P6-26
杉崎 紀子	P4-73	高田 栄子	武長 龍樹	O7-2
杉田 葉子	自シ6-15,P4-14	高田屋陽子	武村 知保	P6-75
杉中 拓央	O4-1,P6-12	高津 梓	竹村 幸見	P4-47,P4-48
杉妻 謙	P2-41	高野 聡子	竹村 洋子	P2-66
杉林 寛仁	自シ6-12,P3-72,P7-28	高野ちとせ	竹森 亜美	P7-10,P7-11
杉山 章	自シ3-18,P6-31	鷹野 遥香	田実 潔	P1-77
杉山登志郎	特別記念講演	高野真梨子	田島 信元	自シ1-14,自シ2-10
須郷 敏広	P4-73	高野美由紀	田尻 由起	P4-81
鈴木 章裕	P5-23	高野 有紀	田添 敦孝	自シ6-2
鈴木紀理子	P3-38	高野 陽介	橋 英之	自シ4-12
鈴木 恵太	P2-54,P2-55,P6-23, P6-24,P6-37	高野 陽介	立田幸代子	P3-62
鈴木 健嗣	自シ6-15	高橋佳菜子	辰巳 武志	自シ5-10
鈴木 浩太	自シ6-18	高橋 甲介	立石 力斗	P3-78
鈴木 洸平	P7-20	高橋 浩平	立岡 里香	P5-38
鈴木 宏哉	P5-60	高橋 幸子	田所 明房	自シ6-8
鈴木 徹	自シ7-18	高橋 智	田中 敦子	自シ4-6
鈴木 晴子	P4-68	高橋 智	田中 敦士	自シ2-8,自シ6-6
鈴木はるみ	P5-19,P5-20	高橋 忠庸	田中 栄一	自シ5-9
鈴木 潜	P2-41	高橋 智子	田中 浩二	P3-69,P3-71
鈴木 真人	自シ1-17	高橋 知音	田中 千絵	O7-1
鈴木 昌和	O2B-5	高橋 信雄	田中 信利	自シ6-10,P5-54
鈴木 保巳	P4-42	高橋 ひかり	田中 宏史	自シ6-5
鈴木友里恵	自シ6-1,P3-10,P3-11	高橋 浩	田中 麻衣	P4-72
鈴木 祥隆	P6-3	高橋 浩	田中 雅子	自シ1-9,自シ5-12,P2-70
須藤 邦彦	P2-68,P6-67,P6-68	高橋 眞琴	田中 真理	自シ1-16,自シ3-6, 自シ4-10,P3-61,P4-31, P6-44,P6-54
須藤 史晴	自シ1-2,P2-68,P4-47, P4-48	高橋 由子	田中 良広	自シ5-14,O3-1,P1-2, P1-8
須藤 正彦	P6-10	高浜 浩二	田中 善大	P7-60,P7-61,P7-62
須之内由起	P2-42	田上 幸太	田中 良三	自シ5-6
諏訪 肇	自シ4-16,自シ5-16, P3-73,P3-74,P3-75	高見 節子	田名部沙織	P1-34,P1-35
		高宮明日香	田邊 優菜	P7-57
		高村 法保	谷 亜由美	P6-23,P6-24,P6-37
		瀧音 夏実	谷口 明子	自シ4-2,自シ5-5
		滝川 一廣	谷田 悦男	O7-6
			谷本 忠明	P6-4
				特別記念講演

種村 雅子	P7-3	土井畑幸一郎	P7-18	仲野 真史	自シ7-13,P6-38
田原 敬	P3-21,P3-26,P6-15, P6-77,P7-12,P7-30, P7-54,P7-55	土居 正城	P4-45,P4-46	仲野 みこ	自シ1-14,自シ2-10,P4-11
田部 絢子	自シ7-3,O6-1,O6-2, O6-7	土居 由雅	自シ1-4	長野 実和	P5-56
玉木 宗久	P3-76	道家 令子	P6-32	中野 泰志	準企委シ2,自シ5-14, P1-2,P1-8,P3-5
田村康二郎	自シ4-16,P5-77	堂 周平	P4-41	中野 泰伺	P4-28,P6-30
田村 典子	P2-13	堂前 晃子	O4-7	長洞 萌美	自シ7-15
田村 裕子	自シ6-12,P4-69,P7-28	堂山 亞希	自シ3-17	中村 敬子	自シ3-6
多本 司	自シ3-13	Toth Gabor	自シ7-17	中村耕太郎	自シ4-9
田山 淳	P4-42	戸ヶ崎泰子	P4-22	中村 晋	自シ4-4,自シ6-11,P2-11, P3-50
丹治 敬之	P4-23	戸賀沢亮子	P4-45,P4-46	中村 章宣	自シ4-15
丹所 忍	P1-3,P7-65	徳田 克己	自シ1-6,P3-7,P3-9, P5-75,P6-62,P7-69	中村 正之	自シ4-14
丹野 傑史	P5-25	徳永 亜希雄	自シ2-15,P2-3,P3-69, P3-71	中村 保和	自シ3-14
丹野 哲也	自シ1-13,自シ4-16, 自シ5-17,自シ7-10	徳永 豊	自シ6-10,P5-54	中村 理美	P4-53,P6-38
丹野 祐介	P2-2,P6-34	戸田 二郎	自シ3-13	仲矢 史雄	O1-2
【チ】		栩内 伸子	P5-18	名古屋恒彦	P2-13
竹林地 毅	研究委シ,自シ1-5, 自シ3-4,P3-36,P5-5, P6-81	土手 信	P6-13	七木田 敦	自シ2-14,自シ7-13
ZHAO SHIHAN	P7-73	刀禰 豊	O7-4	鍋谷 梨恵	自シ7-5
趙 成河	P1-57	土橋とも子	P5-78	名村 嘉将	P4-77
長南 浩人	自シ1-1	富田 直	P5-26	滑川 典宏	P1-49,P1-50,P3-53
鄭 仁豪	P1-33,P3-17,P3-20, P6-16	富田 拓	自シ6-17	成田 孝	自シ6-16
		富永 光昭	自シ1-4,P4-66	成田 まい	自シ1-2,P4-47,P4-48
		富山 仁子	自シ3-12	成田美恵子	自シ3-8,P7-28
		富山 聖子	自シ4-15	成田 遼	P5-13
		豊田 崇仁	P6-70	成瀬 智仁	自シ6-3
		鳥居 修晃	O2B-2	縄岡 好晴	自シ1-5
		鳥居 深雪	自シ7-8	南木 正史	P3-81
		【ナ】		【ニ】	
【ツ】		内藤 千尋	社貢委シ,自シ7-3,O6-1, O6-2	和 史朗	P7-26,P7-29
月本 弾	P7-60,P7-61,P7-62	永井 崇雄	自シ5-17	西垣 昌欣	自シ2-17,自シ3-8, 自シ4-11,自シ6-12
柘植 雅義	自シ1-15,自シ4-8, 自シ5-11,自シ7-2,P2-11, P3-38,P3-41,P4-81, P5-9,P6-29,P6-64,P7-7	永井 直美	P3-25	西川 崇	自シ7-11
辻 あゆみ	P2-47	永井 伸幸	自シ5-14,O2B-4,P1-2, P1-8	西木貴美子	自シ3-5
辻 和美	自シ6-9,P7-6	永井 弘人	O7-3	西島 明佳	自シ5-16
辻 直美	自シ2-15,自シ3-5, 自シ4-13	永井 美帆	P3-26	西館 有沙	自シ1-6,P3-7,P5-75, P7-69
津瀬 直彦	P5-52	永井 祐也	P4-39,P5-33	西田 智子	P6-22
津田 英二	自シ5-6	中内 麻美	P7-10,P7-11	西塚 裕人	自シ3-5
土田 菜穂	P1-80	中川 辰雄	P6-10	仁科いくみ	P3-45
土屋 和彦	自シ5-11	中川 宣子	P3-59	西永 堅	P7-74
土屋 忠之	P7-36	中川真悠子	P6-48	西原 数馬	P3-41
土谷 充章	P2-57	中込 昭彦	自シ5-15	西村 敬子	自シ7-4
土屋 美奈	P1-38	長崎 勤	自シ1-14,自シ7-5,P5-20	西村 健一	自シ5-9,P1-78,自シ2-15
土屋 勇太	P6-47	長澤 洋信	自シ7-4	西村 大介	P5-39
土谷 良巳	自シ3-14	中鹿 直樹	P1-80	西村 崇宏	P1-65,P1-66,P2-29
堤 俊彦	自シ2-3	中島亜紀子	P6-2,P1-23,P1-28	西村 知哉	自シ3-5
堤 勇登	P5-61	中島 光陽	自シ3-18	西村 実穂	P5-75,P6-62
坪見 利香	自シ1-6	中島 茂美	自シ3-18	西村 亮	自シ4-12
【テ】		中島 英雄	O7-5	庭野賀津子	P3-12,P3-13,P7-26
手塚 美来	P3-27	中嶋 麻美	P4-41	丹羽 登	自シ1-8,自シ2-9,自シ4- 3,自シ6-6
寺岡 牧	自シ6-17	永瀬 開	自シ1-16,P4-34	【ヌ】	
寺門 宏倫	自シ5-7,P1-72	永田 留菜	P4-62	沼田 隼	自シ5-18
寺田 信一	P2-37,P4-32,P6-23, P6-24	中 知華穂	自シ1-2,P2-56,P2-64, P2-68,P2-69,P4-47, P4-48,P4-53,P6-79	【ネ】	
寺本あかり	P5-35	中坪 晃一	自シ6-8	根本 文雄	自シ3-12,自シ4-14, 自シ6-15,P4-14
寺本 淳志	自シ3-10,P7-52	長門亜由美	P7-28	【ノ】	
【ト】		永富 大舗	P6-28	能田 昴	自シ7-3,O2A-5
土井 幸輝	自シ3-12,P3-54	中西 郁	自シ1-8	野上 慶子	P2-65
十一 元三	P6-58	長沼 俊夫	自シ1-13,自シ7-16		
		中野 広輔	O5-1		
		中野 聡子	P6-11		

野口 晃菜	研究委シ,P4-58,P7-71	半澤 嘉博	自シ1-8,自シ2-2	藤井 梓	P3-64,P4-66
野口 明紀	自シ5-10,自シ7-15	韓 星民	自シ4-14,自シ5-14,P1-2, P1-8	藤井 和子	P2-81,P3-68
野口 和人	自シ6-7,自シ7-18			藤井 克美	自シ3-3
野口 幸弘	自シ4-6	半田 健	P2-20,P3-32,P3-33	藤井 茂樹	P1-79,P7-77
野毛 美穂	自シ5-16	半田 彩子	P2-22	藤井 茉衣子	P4-41
野崎 義和	自シ4-8,P5-43,P5-45	半田 瞳	P4-21	藤井 誠	P3-40
野田 航	自シ1-12,P1-19,P7-60, P7-61,P7-62	坂内 仁	自シ2-6	藤井美穂子	P2-74,P2-75
				藤井 慶博	P3-52,P5-4,P5-32, P5-34
野々垣 聡	自シ7-6	【ヒ】		藤上 実紀	自シ4-16
野村 勝彦	P7-78	東原 文子	自シ2-6	藤金 倫徳	P2-51
野村 理絵	P4-61	樋口 和彦	P1-64,P4-7,P4-49,P5-57	藤川 雅人	自シ1-13
野呂 文行	P2-67,P6-55	樋口 一宗	自シ1-17	藤澤 憲	自シ4-7,P1-82,P5-42
		肥後 祥治	自シ7-10,P3-48,P4-61, P4-62,P4-64,P7-4	藤島 省太	P6-1
【ハ】		Hisham Elser Bilal Salih	P3-4	藤田 貴久	P6-73
芳賀 明子	P6-66	日高 浩一	自シ1-8,自シ4-18	藤田 達也	P1-40
萩庭 圭子	自シ4-3	日野 浩志	自シ7-2	藤田 継道	自シ1-3,自シ2-3,自シ6- 3,P1-61,P2-40,P2-49
萩原 彩子	P1-23,P1-28,P6-2	日野林俊彦	P4-39	藤野 博	P2-12,P3-80
PARK Jungmin	P4-60	平井 威	自シ2-16,自シ5-6,P2-15, P4-8	藤野 正和	P7-50
橋本佐由理	P3-16			藤間 英之	自シ2-16
橋本 創一	自シ3-17,自シ4-2, 自シ5-17,P4-1,P4-2, P4-3,P4-24,P5-11, P5-44,P5-60,P6-74	平岡 昌樹	P4-57	藤本進太郎	P2-40,P2-49
		平川 泰寛	P3-39	藤本 夏美	P2-50
橋本 真央	P3-68	平澤 紀子	自シ4-6,P2-27,P5-68	藤本 裕人	自シ3-1,P1-67,P1-68, P5-40,P5-41,自シ5-1
橋本 陽介	自シ2-14,P5-28,P5-70	平田 正吾	国際委シ,自シ2-8, 自シ6-18,P6-47	藤本 優子	自シ2-1
蓮香 美園	P6-38	平沼 倫枝	P2-3,P2-4	藤芳 明生	O2B-7,P4-59
長谷川 哲	P2-81	平沼 源志	P4-66	藤芳 衛	O2B-7,P4-59
畠山 和也	P1-36	平野 晋吾	P4-38,P6-77	藤原 あや	P2-34
畠山富士雄	P4-10	平野 幹雄	自シ7-18	藤原 啓子	自シ6-2
八田早恵子	自シ1-6	平野 裕司	P4-43,P4-44	藤原 義博	P4-81
八田 徳高	P3-23	平間 俊二	自シ4-15	付 成	P7-81
初村多津子	P4-11	平山 彩乃	P7-39,P7-40	船越 知行	自シ7-9
濱尾 昂史	P1-12,P1-13	Bilal Salih Hisham Elser	P3-8	船橋 篤彦	自シ1-18,自シ3-9
浜田寿美男	自シ4-10	昼間 友彦	P5-8	船橋 秀彦	自シ5-7,P2-77
浜田 貴照	自シ1-3	廣澤 満之	自シ4-10	古川 章子	P2-79
濱田 豊彦	O4-4,P3-10,P3-11, P3-24	廣瀬 由紀	自シ1-10	古川 勝也	自シ5-13,自シ6-2,P1-63, P5-6,P5-38,P5-39, P5-47,P5-50,P7-42, P7-44
林 安紀子	自シ4-8,P4-1,P4-2,P4-3	廣瀬 由美	O4-3	古川 文彦	自シ3-16
林 健太郎	P5-10	廣田 栄子	P1-22	古田 暁	自シ5-7
林 慎吾	O5-4	【フ】		古田 弘子	自シ3-6,P2-32
林田 真志	P3-18,P6-8	黄 銀珍	O3-5	古田 湧也	P2-25,P2-26
林 智宏	自シ3-13	黄 柏翰	P3-4	古樋 咲世	P5-7
林 雄大	P1-31,P3-15,P6-8	黄 淵熙	P4-43,P4-44	古屋 周子	自シ7-6
林 幸範	P5-80	黄 柏翰	P1-7	古山 勝	自シ6-10,P2-58,P5-54
早川 愛美	自シ5-11	深井 敏行	P3-47	古屋 友希	P7-30
原 和大	自シ6-5	深浦 望	P7-4	分藤 賢之	自シ4-11,自シ6-2, 自シ7-16
原口 一郎	O5-3	深草 瑞世	P1-67,P1-68,P7-36	【ヘ】	
原口 英之	自シ4-6	深澤美華恵	P7-38	裴 虹	P2-39
原 健太郎	自シ7-7	深澤 雄紀	自シ1-18	別府 悦子	P6-72
原子はるみ	P3-67	深谷 純一	自シ2-2	別府さおり	自シ4-5,自シ5-15
原島 恒夫	自シ1-1,P3-21,P6-3, P6-13	深田 竜一	自シ7-15	別府 哲	自シ2-18,自シ4-17, P2-47
原 大介	P6-11	深津 達也	自シ1-15,P3-30,P3-31, P3-50	【ホ】	
原田 薫	P2-11	深松 綾花	P6-39,P6-40	保坂 俊行	和編委WS
原田 公人	P1-49,P1-50,P3-14, P3-53	福田 奏子	自シ6-14,P1-4,P1-10, P3-1,P3-2,P5-24	星井 純子	自シ1-9,自シ2-6
原田 唯司	P3-37	福留 花菜	P3-48	星 久仁子	自シ7-9
原 智彦	自シ1-11	福原 安里	P3-19	星 茂行	自シ4-18,自シ7-9
原 広治	自シ7-12	福原 博篤	P3-19	星 祐子	P3-53,P5-40,P5-41
原 ふみ	P2-14	福本 徹	自シ4-3,O3-6,P3-32, P3-33		
原 満登里	自シ5-15,P1-45	福本みどり	P5-78		
原 康行	P1-81	福家 美香	P6-20,P6-21		
張替 希	P2-43	藤井明日香	P7-19		
針原 慶子	P2-21				

細井 裕子	P6-11	松矢 勝宏	O3-2	村井敬太郎	P2-29,P2-71,P2-72, P2-73,P3-32,P3-33
細川かおり	自シ2-4,P2-17	真鍋 健	自シ3-17,自シ7-13,P2-1, P2-2,P6-32,P6-34	村江 鉄平	P3-3
細川美由紀	P6-69,P6-70	間々田和彦	自シ3-3,P1-69,P1-70	村上 公也	自シ3-15,自シ4-17
細川 陽一	O2B-6	万年 康男	自シ7-12	村上 卓郎	P7-5
細谷 一博	自シ2-14,自シ4-9,P1-34, P1-35,P7-20	【ミ】		村上 由則	自シ3-10,P1-29
堀田 千絵	P6-58	三浦 果菜	P5-17	村上 理絵	P4-79
堀内 善仁	P6-30	三浦佳奈江	P3-6	村中 智彦	P2-21,P2-38,P2-53
堀江 幸治	O6-6	三浦 清邦	準企委シ1	村松 弘子	自シ3-1
堀江まゆみ	自シ2-16	三浦 光哉	自シ7-11,P1-74,P2-5, P2-60	村山 拓	国際委シ,自シ2-11, 自シ6-6,P7-76
堀川 聖子	自シ7-9	三浦 剛	P7-67	室谷 直子	P6-69
堀越麻友紀	P4-28	三浦 陸美	P4-49	【メ】	
洪 浄淑	P7-82	三浦 裕和	自シ1-7	明官 茂	自シ4-5,自シ5-11,P3-32, P3-33
本郷 薫	P2-46	三木 容子	P5-21,P5-22	銘苺 実土	自シ1-2,P2-56,P2-64, P2-69,P4-47,P4-48
本庄 由佳	P2-18	三木 和希	P4-23	【モ】	
本多 桂子	P5-77	岬 和希	準企委シ3	望月 直人	P1-15,P6-11
本多 由香	P2-80	三澤 弘一	自シ5-11	茂木 成友	受賞者講演,P1-21, P6-15
本間 健一	P4-52	三澤 哲彦	P1-64,P4-7,P4-49,P5-57 自シ6-4	本光 侑	P2-23
本間 貴子	P4-14,P5-2,P7-72	三島 修治	P6-81	桃井 克将	自シ4-7,P1-82,P5-42
本間美桃子	P6-76	三島 節子	P2-76	百瀬 翔悟	P3-70
【マ】		三島 遥	P3-68	森 慶子	自シ2-7
前新 直志	自シ2-5	水内 豊和	自シ2-10,P5-46	森澤 亮介	P4-11,P4-81
前川圭一郎	P4-25	水沢 陽代	自シ3-11	森下 俊一	P7-15
前川 久男	自シ7-18,P6-69	水谷 勉	自シ5-15	森下由規子	自シ4-5,P3-55,P3-56
前川 久樹	P3-17	水野 映子	自シ1-6,P3-7,P3-9, P5-75,P7-69	森 章子	自シ7-12
前田 忠彦	自シ2-4,自シ4-12	水野 高明	自シ6-5	森 せい子	自シ6-1
前田 友子	P7-3	水野 智美	自シ1-5,O5-3,O7-6	森田 輝洋	P3-27
前野 明子	P4-64	溝上 弥生	P7-16	守 巧	自シ1-10
牧野 泰美	自シ5-8,自シ7-12,P1-49, P1-50,P1-67,P1-68	三田地真実	P1-29	森 つくり	P5-70
益子 徹	自シ4-1,P1-28,P6-2	三橋 翔太	自シ3-9	森 まゆ	P3-8
増田 純子	P2-56	三森伸一朗	P5-78	森山 貴史	P1-67,P1-68,P7-36
増田 貴人	自シ2-8,P5-18,P7-58	三戸 昭代	P6-61	森谷留美子	P7-47,P7-49
栞 千晶	自シ3-17	南 博	自シ4-7	森脇 愛子	自シ5-2,P3-80
増本 康平	P6-51	峯松 徹	P1-43	【ヤ】	
松井 剛太	自シ7-13	嶺 也守寛	P2-53	八木絵梨奈	P3-51
松井 優子	P3-32,P3-33,P3-54	三原 彰夫	学企WS,自シ5-13, P1-63	矢口 明	自シ4-9
松井由紀夫	自シ4-15	宮内 絢香	P7-57	八島 猛	自シ3-10,P3-70
松浦 孝明	P3-60,P4-75	宮尾 尚樹	自シ3-11	安井 友康	P7-51
松浦 直己	自シ6-17	宮 一志	P5-21,P5-22	安岡 知美	P6-23,P6-24,P6-37
松岡 勝彦	P6-27,P6-67,P6-68	宮城 愛美	P2-41	安田 和夫	P3-57
松坂 晃	P5-3	三宅 有	自シ4-5	安田 哲也	P6-49
松阪 啓子	P5-69	宮崎 英一	P5-11,P5-44	安原 昭博	P4-41
松崎 敦子	P6-45	宮崎 眞	P7-5	八代 史子	自シ5-16,P3-46
松崎 丈	自シ4-1,P1-16,P1-28, P1-29,P6-2	宮崎 義成	P1-39	柳澤亜希子	自シ5-10,P2-29,P3-54
松崎 泰	自シ1-17,P6-54	宮田 愛	P1-24	柳 忠宏	P6-41,P6-42
松下 浩之	和編委WS,P1-55,P1-56	宮田 大嗣	P5-52	柳原 伸子	自シ2-7
松田光一郎	P2-28	宮谷 祐史	P4-6	柳本 雄次	自シ3-5,P4-65
松田孝可子	P1-44	宮地弘一郎	学企WS,熊本WS,研究 委シ,自シ2-5,P1-54	矢野 善教	自シ7-7
松田 直	自シ3-14	宮野 雄太	自シ6-15	山内 達仁	P3-57
松永 信介	O4-5	宮本 昌子	O7-5	山内 裕史	P4-1,P4-2,P4-3
松原 洋司	自シ7-12	宮本 信也	P1-41	山浦 和久	P4-71
松久 眞実	P2-44	宮脇 修	O1-2	山口 雄仁	O2B-5
松藤みどり	O4-2	三好 喜久	P6-21	山口 慶子	P3-6
松本 彰之	P4-78	【ム】	P1-6,P1-11	山口 純枝	自シ7-11
松本 晃	P6-38	向山 和子	P3-76	山口 飛	自シ5-9
松本 和久	自シ4-13,P3-57,P5-68	武藏 博文		山口 龍太	自シ1-4
松本健太郎	P5-24	牟田口辰己		山崎 一三	P5-79
松本 将平	P2-20	棟方 哲弥			
松本 末男	自シ1-1,自シ7-1				
松本 敏治	自シ2-13				
松本 秀彦	P2-61,P4-32				



# 日本特殊教育学会第 55 回大会（2017 愛知大会） 賛助団体御芳名

---

## 主 催

日本特殊教育学会第 55 回大会 準備委員会

---

## 共 催

一般社団法人 日本特殊教育学会

---

## 後 援

文部科学省

愛知県教育委員会

名古屋市教育委員会

愛知県小中学校長会

愛知県公立高等学校長会

全国特別支援教育推進連盟

愛知県特別支援教育推進連盟

愛知県特別支援学校長会

愛知県社会福祉協議会

名古屋市社会福祉協議会

中日新聞社

東海テレビ

CBC テレビ

メ〜テレ（名古屋テレビ）

中京テレビ

テレビ愛知

NHK 名古屋放送局

名古屋観光コンベンションビューロー

愛知教育大学

（2017 年 7 月現在）

株式会社 明石書店  
株式会社 エスコアール  
株式会社 学苑社  
株式会社 風間書房  
株式会社 金子書房  
株式会社 北大路書房  
サクセス・ベル株式会社  
株式会社 ジアース教育新社  
シナノケンシ株式会社  
有限会社 スペース 96  
株式会社 スペクトラム出版社  
田研出版株式会社  
株式会社 図書文化社  
トロル  
株式会社 ニホン・ミック  
公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会  
株式会社 日本文化科学社  
公益財団法人 博報児童教育振興会  
福村出版株式会社  
三笠産業株式会社  
株式会社 ミネルヴァ書房  
(2017年7月現在、50音順、敬称略)

本大会を開催するにあたり、上記の団体より多大なご支援をいただきました。  
ここにご芳名を記し、感謝の意を表します。

2017年7月

日本特殊教育学会第55回大会 準備委員会

委員長 小田 侯朗

(愛知教育大学)

一般社団法人  
日本特殊教育学会第55回大会（2017 愛知大会）

大会準備委員会

委員長	小田 侯朗（愛知教育大学特別支援教育講座）
副委員長	小川 英彦（愛知教育大学幼児教育講座）
事務局長	岩田 吉生（愛知教育大学特別支援教育講座）
事務局次長	青柳まゆみ（愛知教育大学特別支援教育講座）
委員	相羽 大輔（愛知教育大学特別支援教育講座） 飯塚 一裕（愛知教育大学特別支援教育講座） 伊藤佐奈美（中部大学現代教育学部） 大澤 功（名古屋市立天白養護学校） 大島 光代（名古屋学芸大学ヒューマンケア学部） 小川 純子（星城大学経営学部） 小柳津和博（桜花学園大学保育学部） 高橋 岳之（愛知教育大学情報教育講座） 福田 博美（愛知教育大学養護教育講座） 古市真智子（中部大学現代教育学部） 森崎 博志（愛知教育大学特別支援教育講座） 吉岡 恒生（愛知教育大学特別支援教育講座）

## 日本特殊教育学会第 55 回大会プログラム

---

発 行 日    2017 年 8 月  
発 行 者    日本特殊教育学会第 55 回大会準備委員会  
委 員 長    小田 侯朗

---